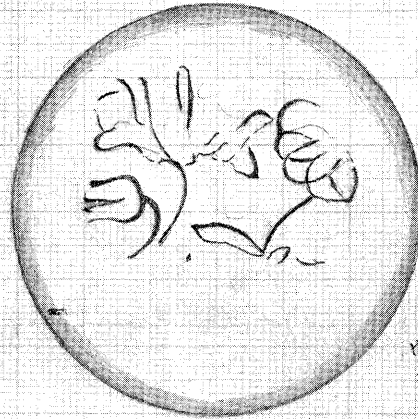
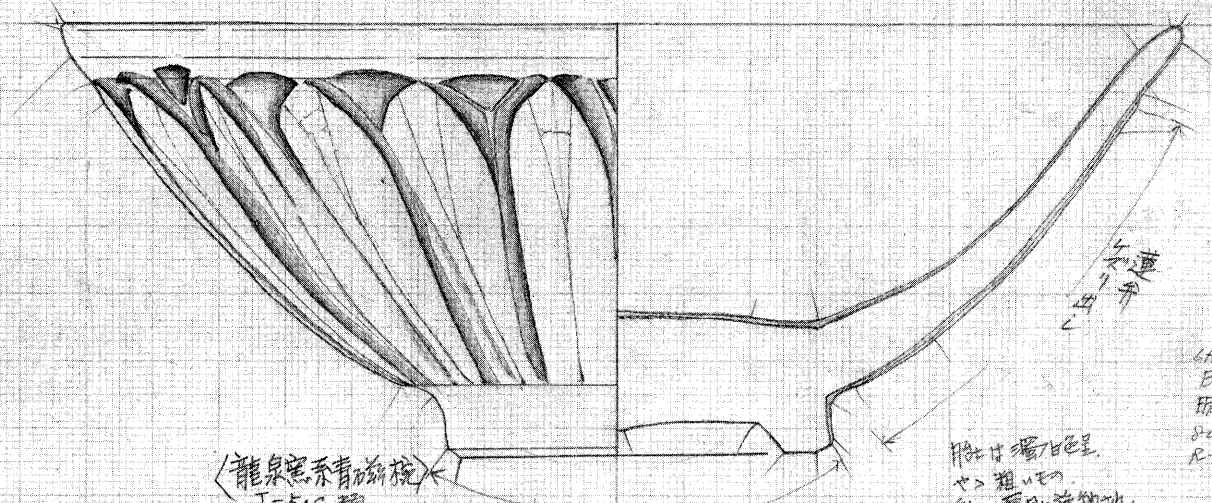


大宰府条坊跡 II

太宰府市の文化財第7集



内面彫込み
花又のデザイン
(蓮花?)



〈龍泉窯系青磁碗〉
I-5.c 類

口径 16.6cm
器高 6.1cm
高径 6.3cm

碗形

無釉 (蓋付部分若干釉分
存在する)

K. Yokota

片は端の位置
ヤ> 粗い
袖は厚肌花飾
漢字も有り。

寸法
4.5
2.5
1.5

647E-C
B-2
楠橋土
800619
R-001

1983

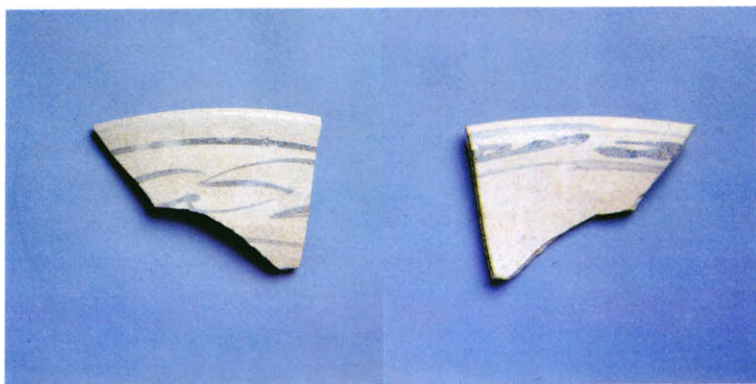
太宰府市教育委員会

(表紙) 第14トレンチ出土
白磁、青磁実測図
横田賢次郎氏実測

卷頭図版



第14トレンチ出土 龍泉窯系青磁碗



外画 内面

第12トレンチ出土 安南陶器碗

序 文

本書は、太宰府市が昭和54年度から実施した大宰府条坊跡調査報告の第2集にあたるものである。これまで太宰府における調査の主眼は政庁、学校院、観世音寺など当時の政治、文化を象徴する分野に注がれ、古代社会の基盤をなした一般集落の解明はややたち遅れてきた観がある。当時の社会を解明するには庶民文化の内容にメスを入れる必要がある。条坊地域の調査はこうした広義の大宰府を検証していく作業である。発掘された遺物、遺構には人々の技術、創造、生活の中の喜怒哀楽などが投影されており、私たちの感動を呼び起こす。現代社会は機械と頭脳が進歩してきたため人間自らの技術は大極的には低下し、統一体としての人間のバランスは失なわれてきつつある。こうした現代における精神世界の矛盾を克服するには、歴史を通じて人間性における価値観を見つめ直すことが必要であろう。条坊跡における土木、建築、集落構造などの系統的、具体的な解明は、今、開始されたばかりである。今後、古代の精神世界と環境を追求するにあたり、本書がこうした分野に一つの手がかりを与えてくれるならば、国民の一人として願ってもないことである。

連日の作業は地元の市民の手で完璧に終了することができ、土地所有者の方々の理解について厚くお礼申し上げる。

昭和58年3月31日

太宰府市教育委員会
教育長 陶山 直次郎

目 次

<p>I 序 章 頁</p> <p>調査経過と概要…………… 2</p> <p>II 遺跡の概要</p> <p>(1) 6AYQ、6AYM地域…………… 4</p> <p> 第1～3トレンチ…………… 4</p> <p> 第4トレンチ…………… 4</p> <p> 第5～7トレンチ…………… 4</p> <p> 第13トレンチ…………… 5</p> <p> 第8トレンチ…………… 6</p> <p> 第9トレンチ…………… 7</p> <p> 第15トレンチ…………… 9</p> <p> 6AYQ、6AYM地域のまとめ……………11</p>		<p>(2) 6AYE地域……………13</p> <p> 第10トレンチ……………13</p> <p> 第11トレンチ……………14</p> <p> 第12トレンチ……………20</p> <p> 第14トレンチ……………24</p> <p>(3) 6AYP地域……………32</p> <p>(4) 6AYN-B地域……………35</p> <p>別表……………45</p> <p>付編 土器の分類</p> <p> 土師器の分類…………… 1</p> <p> 磁器の分類……………10</p> <p> 陶器の分類……………16</p>
---	--	--

例 言

1. 本書は太宰府町が1980年度に国、県費の補助を受けて実施した大宰府条坊跡発掘調査報告の第2集である。
2. 調査組織

調査主体	太宰府市教育委員会	
総 括	教 育 長	陶 山 直次郎
庶 務	社会教育課長	西 山 義 則
	社会教育課文化財係長	黒 板 力
	社会教育課文化財係主事	岡 部 大 治
調査担当	社会教育課文化財係技師	山 本 信 夫
(第14トレンチの調査)	九州歴史資料館調査課主任技師	高 倉 洋 彰
	〃	横 田 賢次郎
3. 本書の執筆については、「(2)第14トレンチの調査」の項を高倉、横田が記述し、その他の項目については山本が記述した。図面作製については岡部、狭川真一、島田まゆみが行ない、土器図面の一部は森田勉氏（九州歴史資料館調査課）作製のものを使用した。
4. 遺構写真は山本が担当し、一部は石丸洋氏（九州歴史資料館学芸二課）の撮影したものを使用した。遺物写真は岡紀久夫氏の撮影による。
5. Fig 1使用の地図は、国土地理院1977年作製1：25,000「太宰府」「二日市」「福岡南部」「不入道」の一部である。
6. 本書の編集は山本が担当した。

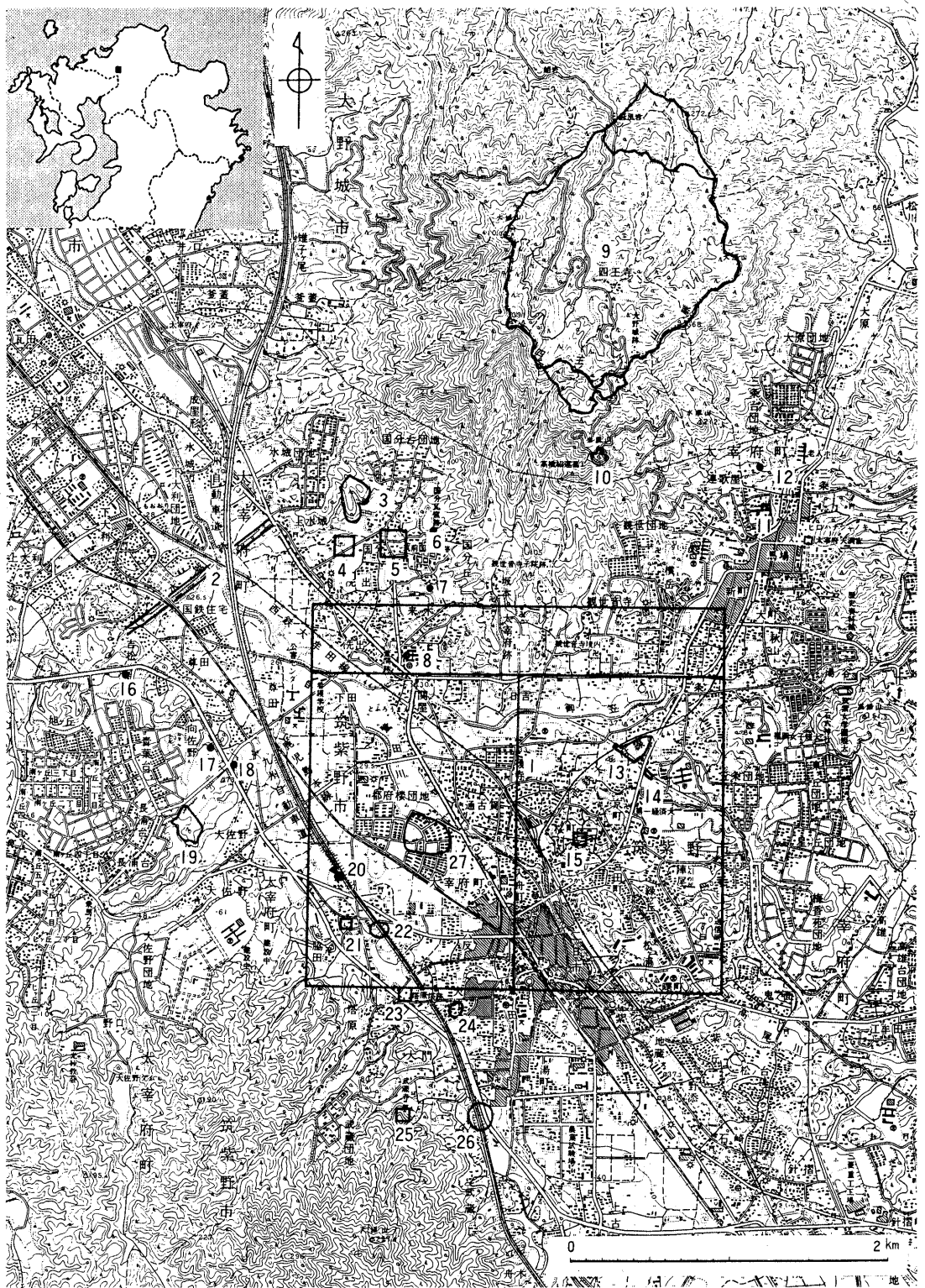


Fig1. 主要遺跡分布図 (1/40,000)

- | | | | | |
|-----------|------------|--------------|------------|-----------|
| 1. 大宰府条跡 | 2. 水城跡 | 3. 陣ノ尾遺跡 | 4. 筑前国分尼寺跡 | 5. 筑前国分寺跡 |
| 6. 国分瓦窯跡 | 7. 御笠団印出土地 | 8. 遠賀団印出土地 | 9. 大野城跡 | 10. 岩屋城跡 |
| 11. 浦城跡 | 12. 原遺跡 | 13. 御笠川南条坊遺跡 | 14. 君畑遺跡 | 15. 般若寺跡 |
| 16. 神ノ前窯跡 | 17. 長浦窯跡 | 18. 向佐野窯跡 | 19. 宮ノ本遺跡 | 20. 剣塚古墳 |
| 21. 杉塚庵寺跡 | 22. 唐人塚遺跡 | 23. 塔ノ原庵寺跡 | 24. 桶田山遺跡 | 25. 武蔵寺跡 |
| 26. 道場山遺跡 | 27. 市の上遺跡 | | | |

I 序 章

調査経過と概要

条坊の地割

鏡山猛の復原案によれば、太宰府条坊跡は一条、一坊の距離を108mと推定され、東西24坊、南北22条の範囲に区画される。(Fig 2) 単位となった108mの数値は、政庁跡中軸線(南門—中門—正殿を結ぶ南北中心線)と観世音寺講堂の中軸線の東西距離597.030mを5.5町^{*}に相当するとみて、これで除した数値 $597.030 \div 5.5 \approx 108.550\text{m}$ という結果から近似した数値が得られるので、条坊の計画単位として使用されたと推定されている。条坊の遺跡表示の方法はFig 2のように全体を6 AYB、6 AYIなどのように大分割したうえでさらに各四坊ずつの単位を東から西へA、B、C、Dのように小分割し記号化する。左敦一条十二坊の一画はこれによると6 A AYA-Aと記号化されることになる。

今回報告の位置 (Fig 3、Tab 2)

Tab 1は今回報告する調査地域の一覧表で大きく4つの地域に分かれている。

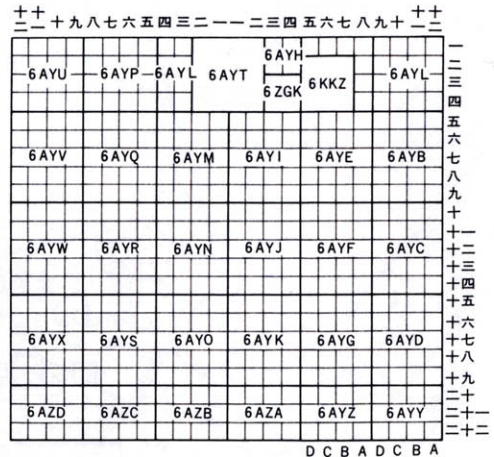
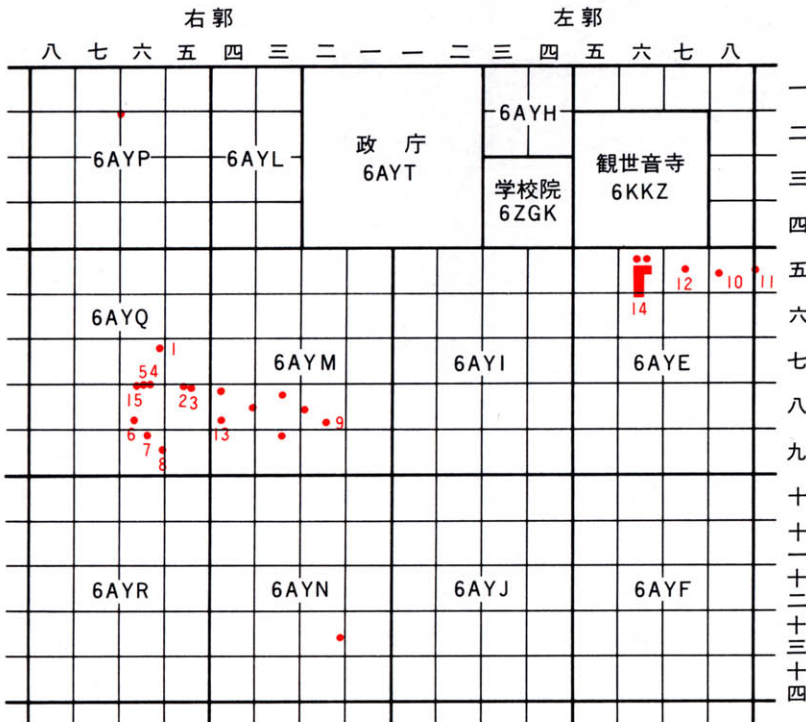


Fig 2. 条坊地割図



* 政庁中軸はN0°34'24" E、観世音寺中軸は約N1°Eの触れが確認されている。
597.030の距離はこの触れを考慮せず、国土座標上で算出したものである。

Fig 3. ● 調査地点

Tab 2 遺構の表示法

S-遺構	
A	柵・土塁・塀
B	建物
C	廊
D	溝
E	井 戸
G	苑 池
H	広 場
K	土 壇
T	墳 墓
X	そ の 他

- (1) 6 AYM、6 AYQ 地域……第1～9、13、15トレンチ
- (2) 6 AYE 地域……第10～12、14トレンチ
- (3) 6 AYP 地域
- (4) 6 AYN 地域

(1)、(2)は昭和55年度の太宰府市土地区画整理事業に先だつ発掘調査で、区画道路予定地を重点的に調査の対象とした。(3)は区画整理関係の土取場用地として削平されることになり事前に調査を行なった。(4)は民間の宅地造成に伴う緊急調査である。

遺構の表示と遺構番号

遺構の表示はTab 1による種別にもとづき記号化される。SD001と表示された第1項のSは遺構を表わし、第2項のDはTab 1に分類された溝を示し、001は検出遺構の個有登録番号をさす。太宰府市が行なう条坊地域内の調査については一連の遺構番号を付すことにしたい。なお遺跡の実測図は国土調査法第II座標系を基準として作製している。

出土遺物

遺構出土遺物は一括して表にまとめ、全体の遺物組成の把握を容易にした。各項目は図示した主要な遺物の記述にとどめ、写真図版で補足を行なった。

Tab 1 主要調査地点一覧表

トレンチ番	地割略号	推定条坊	地番	調査期間	検出遺構
1	6 AYQ-B	右郭七条六坊	大字通古賀字古川365-3	1980.11.27 ~12.4	-
2	6 AYQ-A	右郭七条五坊	" " 373-8	1980.12.1 ~12.4	-
3	"	右郭八条五坊	" " 373-6	1980.12.1 ~12.3	-
4	6 AYQ-B	右郭八条六坊	" " 375-1	1980.12.1 ~12.10	中世杭列1
5	"	右郭八条六坊	" 字半田265-3	1980.12.2 ~12.4	-
6	"	右郭八条六坊	" 字権入255-13	1980.12.4 ~12.10	-
7	"	右郭九条六坊	" 字北ノ橋392	1980.12.4 ~12.10	-
8	"	右郭九条六坊	" " 404	1980.12.5 ~12.17	平安時代、南北溝1、ビット
9	6 AYM-B	右郭八条二坊	" 字丸石55-1	1980.12.10 ~12.18	平安~中世のビット群、東西溝1
10	6 AYE-A	左郭五条八坊	大字観世音寺露切93-14	1980.1.9	-
11	6 AYE-A	左郭五条八坊	" 80-1	1980.1.9 ~1.21	平安~中世、溝、土壇 ビット
12	6 AYE-B	左郭五条七坊	" 93-4	1980.1.13 ~1.26	中世、南北溝1
13	6 AYM-D	右郭八条四坊	大字通古賀字東蓮寺81	1981.2	-
14	6 AYE-C	左郭五条六坊	大字観世音寺露切 102-1-4、103-1-6	1980.6.10 ~7.25	平安~中世、井戸、土壇 ビット
15	6 AYQ-B	右郭八条六坊	大字通古賀字半田265-4	1980.3.11 ~3.19	奈良~平安時代、ビット 平安時代土壇(井戸?) 2
	6 AYP-A・B	右郭一、二条 五、六坊	大字坂本字大正府64-1、65	1980.12.17 ~12.26	中世墳墓2
	6 AYN-B	右郭十三条 二坊	大字通古賀字鶴畑 1018-1 1018-8	1981.6.9 ~7.31	奈良~平安時代ビット 平安時代、溝、土壇、ビット

II 遺跡の概要

(1) 6AYQ、6AYM地域

この地域に設定したトレンチはFig 6に掲げた。各トレンチについて主要なものを報告するが、とくにトレンチ番号を付さなかったものは遺構など検出されず遺跡の可能性の希薄な地域である。

第1～3トレンチ

耕作土の下に厚く灰色砂が堆積し、氾濫原と考えられ、遺構は認められない。灰色砂には流入してきたと思われる陶磁器などを包含しているので、周辺部に遺跡の存在は推定される。この地域が過去には旧河川の氾濫地帯であったと思われ、蛇行する畑、水田の畔にその痕跡を残している。

第4トレンチ (Fig 5、PL 1-I)

土層 (Fig 4)

表土、床土の下は黄灰色土、灰色砂、茶灰色砂層となり、砂層の堆積が厚く氾濫地帯の一部であったと思われる。茶灰色砂中に杭列SX030が検出された。

検出遺構

SX030 茶灰色砂の上面から打込まれたと思われる杭列で、南北方向より西へ偏して一列に並ぶ。間隔は約0.5mである。15世紀以降のものと思われる。

第5～7トレンチ

耕作土の30cm下ですぐに地山が検出され、後世にかなり掘削されている。調査範囲が狭く遺構は検出されていないが、井戸などの深い遺構であれば周辺に残存する可能性がある。

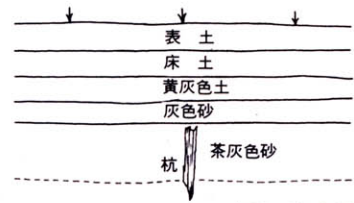


Fig 4. 第4トレンチ層位模式図

A-45,397,000

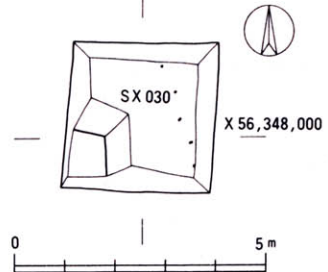


Fig 5. 第4トレンチ

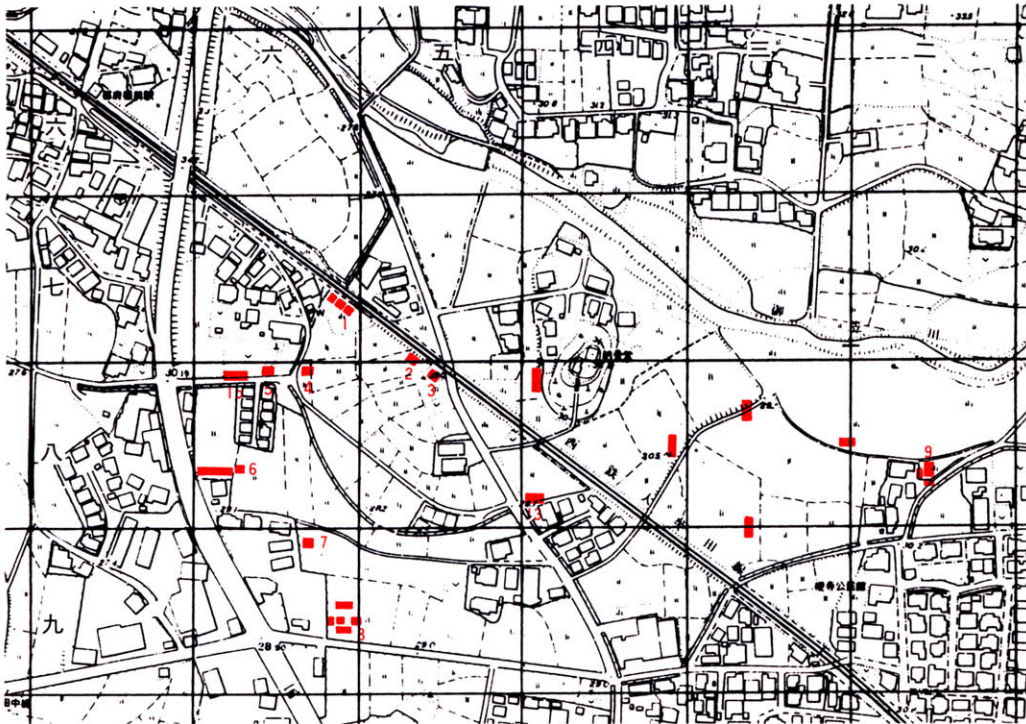


Fig 6. 6AYQ・6AYM地区トレンチ配置図 (1/5,000)

第13トレンチ

耕作土の下は厚く砂層が堆積し氾濫原と推定される。磨滅した土器片や瓦を含む。

第1～7、13トレンチ、その他の地域の出土土器 (Fig 7、PL 9-I)

白磁

皿、椀、四耳壺 (1～3) 1は皿II-1で第4トレンチ茶灰色砂出土。2は椀と思われ太く逆台形状をなす高台を有する。見込みに陰刻のスタンプ花文を有する。淡灰緑色の釉を内外に施釉し、底部内面は幅広く環状に釉を欠き取っており、体部外面下半と底部は施釉しない。6 AYE (観世音寺地区) の表採品である。3は四耳壺底部で第13トレンチ出土。

青白磁

合子 (4) 型づくりによる陽刻の蓮花文を有する合子身で、第4トレンチ茶灰色砂出土。

越州窯系青磁

椀 (5～7) 5は椀I-2、6は椀II-2 aで第4トレンチ茶灰色砂出土。7はII b～eのいずれかで、第7トレンチ灰色砂出土。

青磁

椀 (8、9) 8は龍泉窯系の小椀で外面に細くへら描きされた2重蓮弁、内面に片彫りと櫛描きによる花文を有する。灰色の胎土で水色味の釉を施す。第4トレンチ茶灰色砂出土。9はへら描きの山形文と縦沈線により簡略化された蓮弁を表現する小椀で、胎土は灰色を呈し、白色砂と黒色粒子を含みあらい。黄色味をおびた深緑色の釉を施し、貫入が多い。第4トレンチ茶灰色砂出土。

陶器

10は水注V-2の口縁部で出土地点不明。11は黒釉陶器で体部内面はやや厚く施釉され茶褐色に発色する。胎土は暗灰色で砂粒を含む。第7トレンチ表土出土。

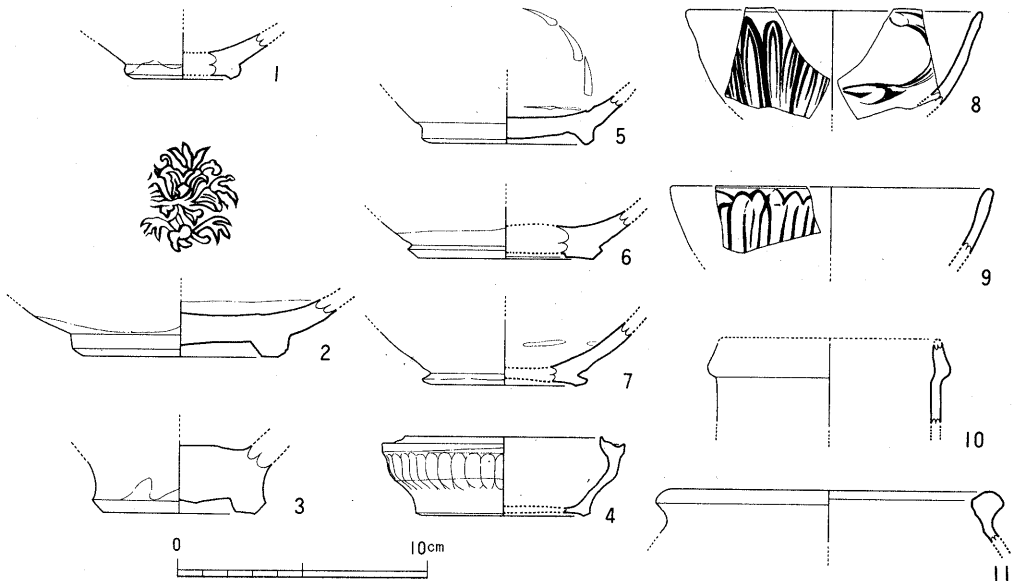


Fig 7. 第1～7・13トレンチ・その他の地域の出土土器

第8トレンチ (Fig 9、PL 1-Ⅱ・Ⅲ)

検出遺構

土層 (Fig 8)

上から表土、床土、黄灰色土、茶色砂の順に堆積し、遺構は茶色砂から切る。茶色砂は無遺物層である。

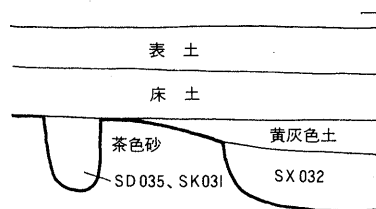


Fig 8. 第8トレンチ層位模式図 |

SD 035 幅約1.4m、深さ0.5mの南北溝で、推定右郭の五坊の境に接近し平行している。出土遺物の範囲内では平安後期と推定される。

SK 031 浅い土坑で一部を発掘した。出土土器から11世紀後半と推定される。

SX 032 茶灰色土の埋土よりなる落ちこみで近世以降のものである。

その他のピット群は出土遺物の範囲内ではおおむね平安時代のものと思われる。

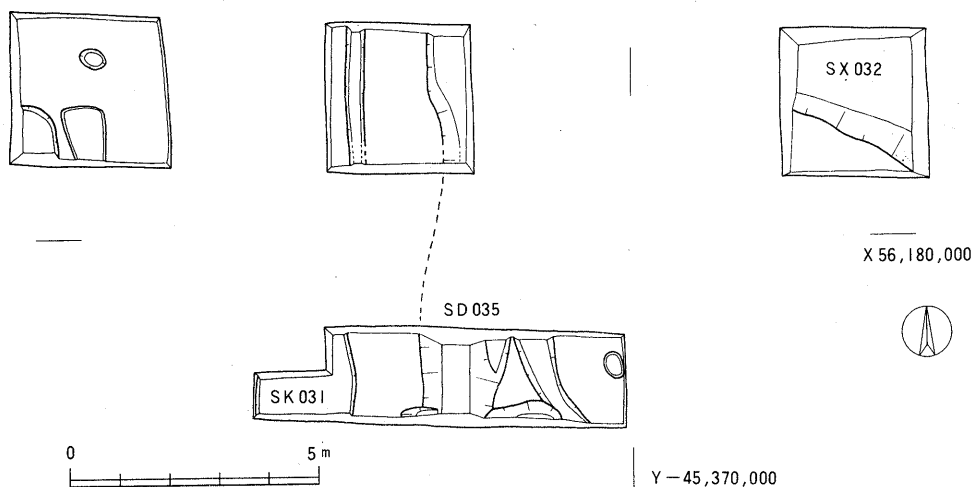


Fig 9. 第8トレンチ

出土遺物

SK 031 出土土器 (Fig 10、PL 9-Ⅱ)

土師器

小皿 a (1) へら切りされる。口径9.4cm、器高1.0cm、底径7.0cm。

丸底坏 a (2) へら切りされる。口径14.6cm、器高3.1cm。

SD 035 出土土器 (PL 9-Ⅱ)

白磁

碗 (b) 口縁部に輪花を入れ、内面に縦の隆線で表わす割花を有する。

青白磁

cは碗と思われ、外面にへら片彫りの蓮弁文を有する。

越州窯系青磁

碗 (d、e) dは碗I、eは碗I-1bである。

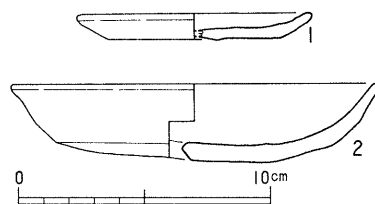


Fig 10. SK 031 出土土器

第9トレンチ (Fig12、PL2-I・II)

検出遺構

土層 (Fig11)

上から表土、床土、茶灰色土、灰色砂、黄色粘土の順に堆積する。黄色粘土は土器細片を含む11世紀頃の整地層で遺構SX037などが上面から掘り込む。灰色砂は北側低地部に堆積し、層位からは黄色粘土より新しくなる。新期の溝SD036が灰色砂上面から掘り込む。

SD036 灰色砂から掘り込む。幅5m前後、深さ0.8mの東西溝で、黄色粘土(整地)の北側境を蛇行して流れているため人為的な溝か疑問である。

その他のピット群は出土遺構から平安~室町時代のものと考えられる。

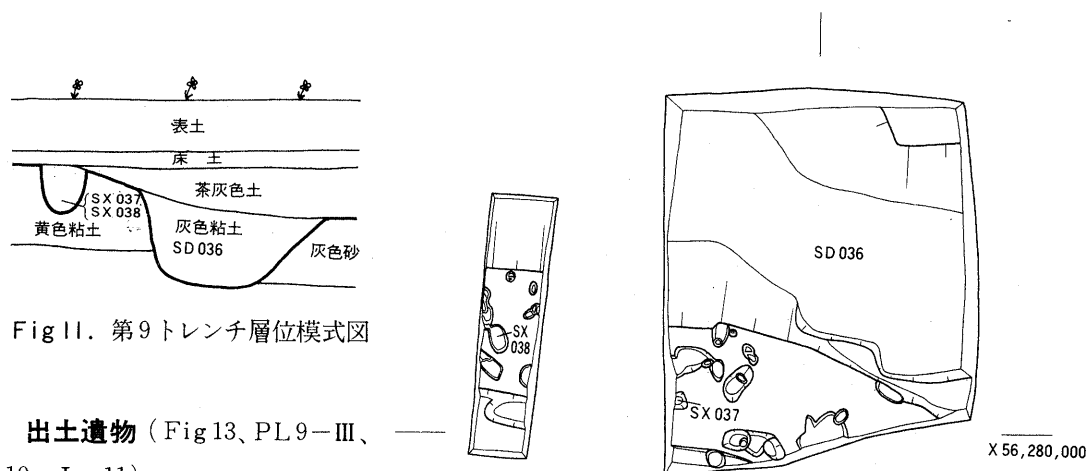


Fig11. 第9トレンチ層位模式図

出土遺物 (Fig13、PL9-III、10-I、11)

灰色砂出土土器

土師器 (PL11)

小皿 a (1) 底部はへら切りされる。口径11.6cm、器高1.6cm、底部5.7cm。

中碗 c₁ (2) 口径13.0cm、器高4.1cm。

越州窯系青磁 (PL9-III)

碗 (3) I-2類で内面見込みと高台疊付に目あとを有する。

茶灰色土、表土出土土器

白磁 (PL9-III)

皿 (4) VII-1 b類で黄色味の釉を施し、底部外面は露胎である。

越州窯系青磁 (PL9-III)

碗 (5) 底部外面疊付を露胎とするI-1 bである。

陶器 (PL9-III)

6は甕IV類で口縁部外面に太い凹線を有している。口縁部内外面は露胎で暗紫色を呈し、外面沈線

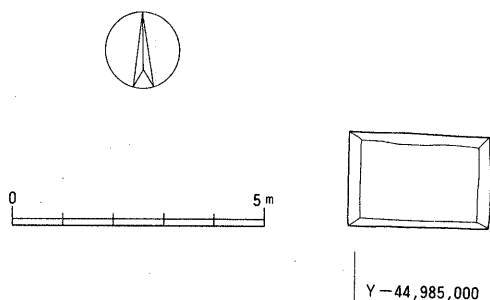


Fig12. 第9トレンチ

以下に灰緑色の釉を施す。胎土は砂粒が多く紫灰色をなす。7は鉢Ⅳ-1で茶褐色釉を内外面の体部に施し、口縁部内外は施釉しない。釉は胎土となじまず剥落している部分がある。白色砂を少量含む赤褐色の胎土である。8はA'-a類の小形壺で光沢のない灰褐色のうすい釉が底部外面をのぞき施される(青釉)。底部外面には目あとを有する。胎土は白色砂を含み灰色をなす。

黄色粘土出土土器

土師器

小皿 a (9) へら切りされる。口径9.0cm、器高1.0cm、底径6.1cm。

須恵器

坏 a (10) 体部外面下位から底部外面はへら削りされる。口径13.0cm、器高2.9cm、底径10.3cm。

SX037 出土土器

土師器

小皿 a (11) へら切りされる。口径9.0cm、器高1.2cm、底径6.6cm。

丸底坏 a (12) 復原口径15.0cm。

SD036 出土土器 (PL10-I)

白磁

皿 (13・14) 13はⅢ類で、見込みは環状に釉を掻き取る。14はⅧ-1類で底部外面は施釉後釉を掻き取っている。見込みにへら描きと楯目で草花文を施す。

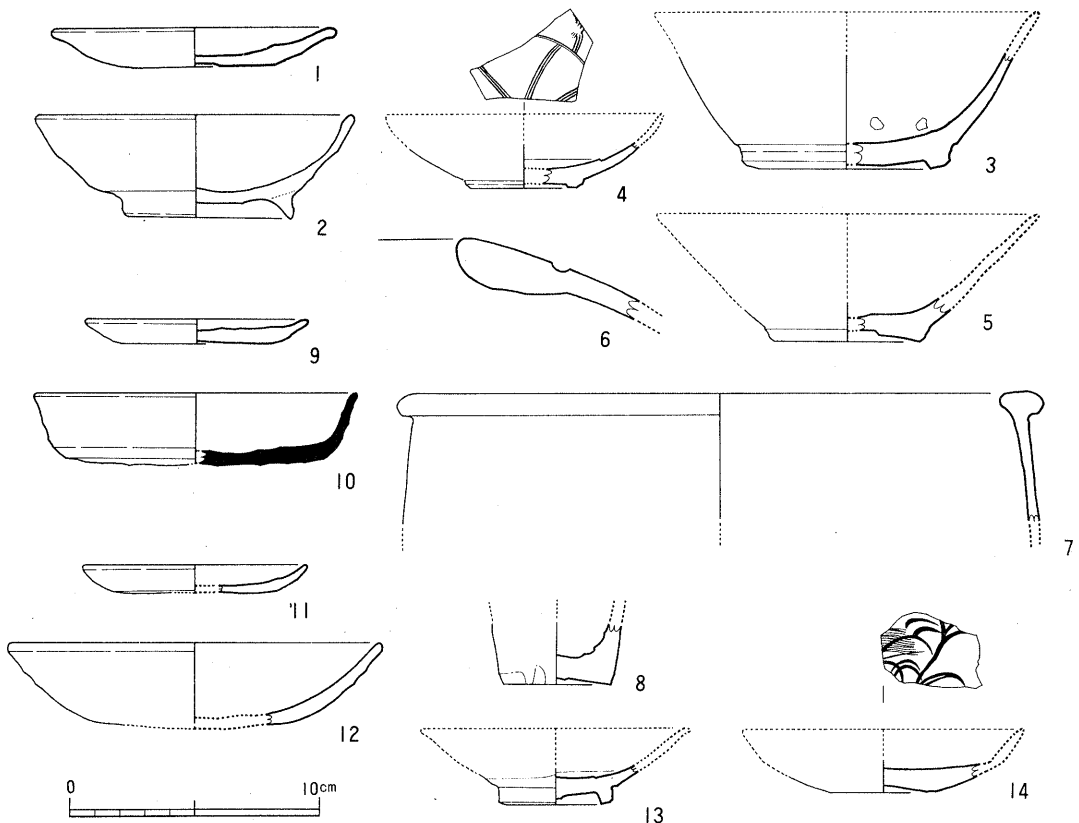


Fig 13. 第9トレンチ出土土器

第15トレンチ (Fig 14、PL 2 III)

検出遺構

耕作土のすぐ下に黄色粘質土の地山が検出され、遺構は黄色粘質土上面から掘り込む。

SK075 上面は不整形プランをなし、東西の径は2.7m、深さは約1.8m、木枠などは認められないが、底部に径約1m前後の凹みが認められることから、曲物などを据えた井戸の可能性はある。

SK080 上面は円形プランをなし、東西の径は2.3m、深さは約2mである。SK075と同様に井戸の可能性はある。

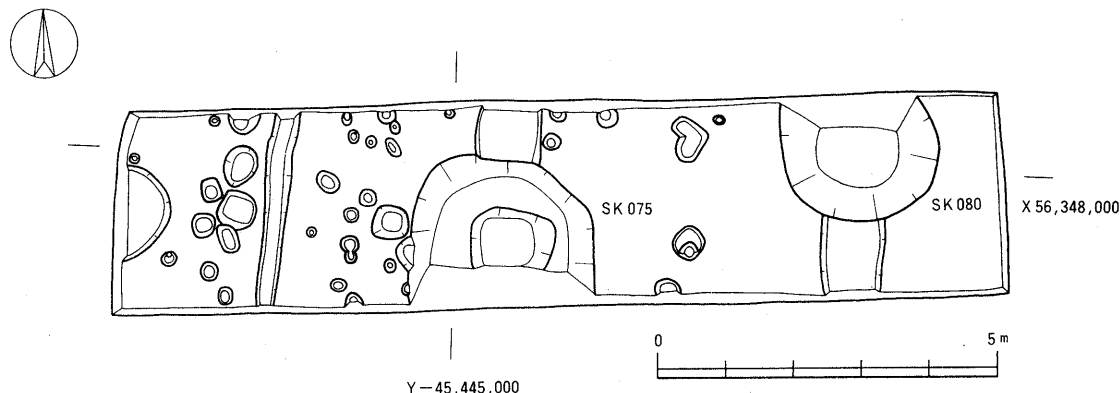


Fig 14. 第15トレンチ

出土遺物

SK080 出土土器 (Fig 15、PL10-III、11)

土師器

坏 a (1~4) へら切りされ、推量可能な標本は6個体である。口径10.2~11.9cm、器高1.8~2.2cm、底径7.0~7.6cm。平均口径11.0cm、平均器高2.0cm。

小皿 c (5) へら切りされる。口径10.8cm、器高1.8cm。

中碗 c₂ (6) 口径13.0cm、器高5.9cm。

碗 c (7) 体部に丸味を有し、口縁端部をやや強く外反させる。口径15.8cm、器高9.1cm。

大碗 c (8) 高く外側に開く脚部をなすものと思われる。口径22.0cm。

小鉢 b (9) 口縁部は外反し、胴部は丸味を有する。胴部上位に断面が長方形の長い把手がつく。4分の1の破片で把手は1個残存しているが2個で一対をなすものと思われる。体部外面は指頭で整形したと思われる凹凸が多い。口縁部は横なでされる。

黒色土器

碗 (10) 内面にみがきcを加え燻されるA類で、体部に丸味を有し、口縁端部は鈍く外反させる。口径15.0cm、器高6.1cm、高台径8.2cm。

11は器形、用塗が不明のものである。内外面にみがきcと燻しを加えたB類の手法で製作される。平らな板状のものに圭頭形のつまみ状のものを付している。

越州窯系青磁

皿 (12) 胎土は灰白色を呈し、内外面の釉は灰緑色味の発色のよいものでI類に属する。口縁端を外反させ、体部は丸味をもつが中位から強めに屈曲させる。屈曲部の外面より下方はへら削りされ、

口縁部には横なでを施す。外面の屈曲部のすぐ下に目あとを有する。

椀 (13・14) 13はI類、14はI-2類である。14はやや粗雑なつくりで、釉の発色も悪い。内面と外面高台畳付に1.5cm間隔で目あとがある。

SK 080

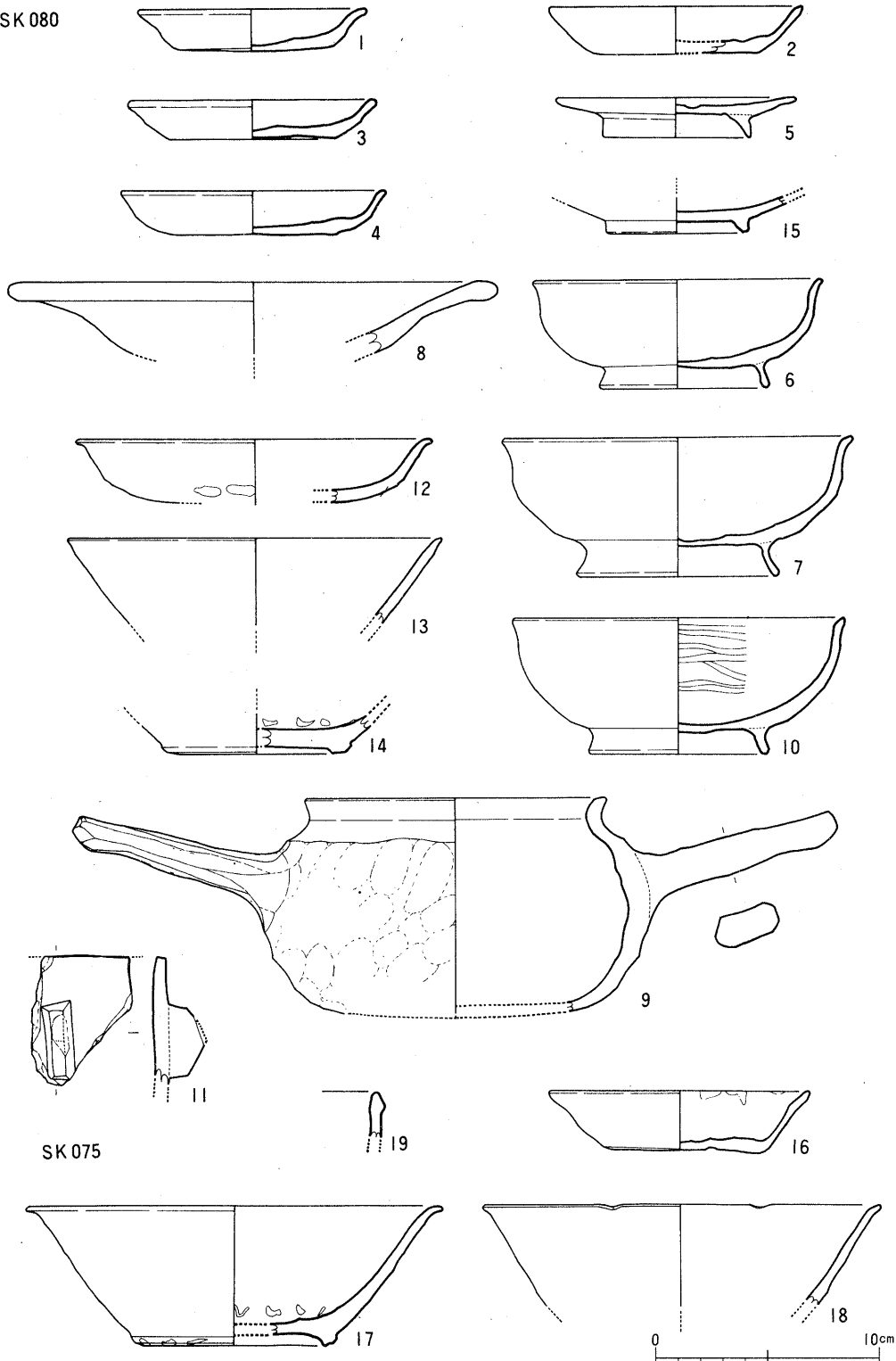


Fig 15. SK 075・080 出土土器

緑釉陶器

皿(15) 胎土は須恵質で、高台見こみをのぞき施釉される。

SK075 出土遺物 (Fig 15、PL10-II、11)

土師器

坏 a (16) へら切りされ、口縁内面に油煙が付着する。口径11.7cm、器高2.7cm、底径6.5cm。

越州窯系青磁

椀(17、18) I-2類で、17は内面と高台畳付に約1.5cm間隔で目あとを有する。18は口縁に輪花を有する。

壺(19) 水注とも思われる口縁部破片で、口縁下を三角形に肥厚させている。釉は緑色味の茶褐色で口縁部外面及び内面の一部は釉だまりとなって厚く施釉されており、この部分は暗茶褐色を呈する。胎土は白色砂を含み灰茶色をなす。釉はII類に近い。

他にI・II類破片14があり、その中にI類の合子1片、II類の小形の皿と思われるもの1片を含む。

白磁

椀(PL10II-b) IV類の小破片が1片のみ出土したが、調査中に混入したものと思われる。

6AYQ、6AYM地域のまとめ

1. 遺跡の特色と年代

遺跡の範囲 (Fig 16)

今回の調査地域は昭和54年度調査地域の東側隣接地域にあたる。調査の結果、氾濫原と推定される部分をFig16のように図示すると、ほぼ標高28m以下の地域に限定される。遺跡の範囲は北部を御笠川、西部を鷺田川の2つの自然河川にさえぎられた景観を有しており、こうした自然地形が大きな集落群の単位を左右するのかもしれない。

遺構の年代と性格

各遺構については出土した土器の型式(とくに土師器)と組成状況から年代を推定した。各型式の指標については付編を参照のこと。

SD035 平安時代後半と思われ、推定条坊線の右郭五坊の境界線に平行し、条坊遺構との何らかの関連を想像させる。南北の延長部を今後、調査する必要がある。

SK080 土師器の椀cの形態、坏aの法量の特徴などから大宰府史跡SK674の時期すなわち10世紀中頃に比定される。

SK075 土師器の坏aの法量は大宰府史跡SK678に該当するもので、10世紀前後に比

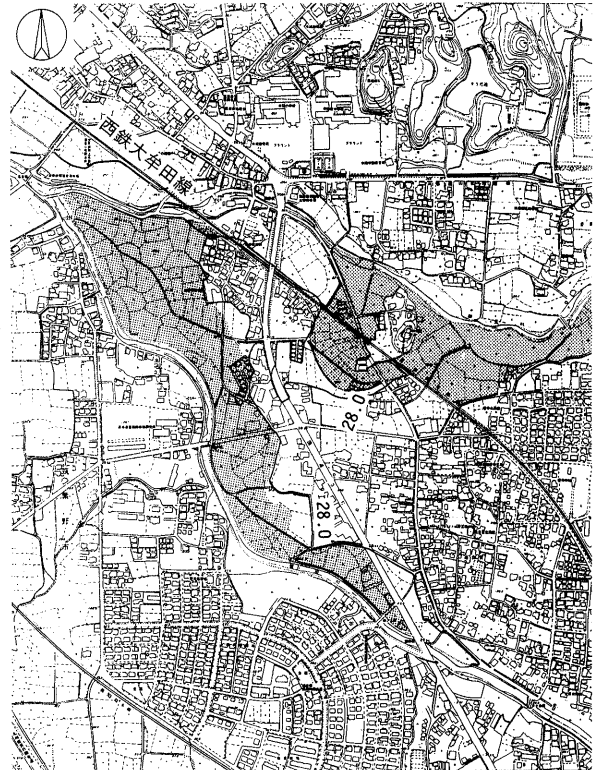


Fig 16. 遺跡の範囲 (1:75,000)

■ 遺構の認められない地域

定される。

各トレンチの遺構の年代と検出遺構をまとめると

第8トレンチ 平安時代後半の溝、土塚、ピット群

第9トレンチ 平安後半から鎌倉、室町のピット群

第15トレンチ 10世紀の土塚（井戸）。奈良、平安時代のピット群

8・9・15トレンチで検出された遺構と遺物はいずれも日常生活に関連するもので、集落遺構の一部を示すものである。

条坊との関連

第8・9・15トレンチなどで検出された遺構は集落の一部をなすものであるが、検出部分の範囲が狭く、集落の単位、構成について十分な検討材料を与えるにはやや調査不足である。条坊の施行を伴う場合に、遺構の上からは溝や柵、築地、道路などの区画を表わすものや、規則的な建物配置、建物群としての集合状態、占地の状況に示される場合がある。こうした点について今後は広い面の調査を必要とする。第8トレンチのSD035については何らかの区画の1つとして条坊との関連を述べておく必要があろう。大宰府政庁の第II・III期の南門と正殿とを結ぶ中軸線は、真南北（GN）に対し $0^{\circ}34'24''$ 東へ偏している。このことを考慮して、政庁中軸線と南北溝SD035の中心の東西距離を換算してみると 547.28m となり、これを一町 $=108\text{m}$ で除してみると $547.28 \div 108 = 5.067\dots$ となり5町に近い値となる。こうしたことから、SD035は右郭五坊の推定線に近い位置にあり、平安後期頃の条坊の区画線と何らかの関連を有する溝の一つであると推定されよう。

(2) 6 AYE地域 (Fig 17)

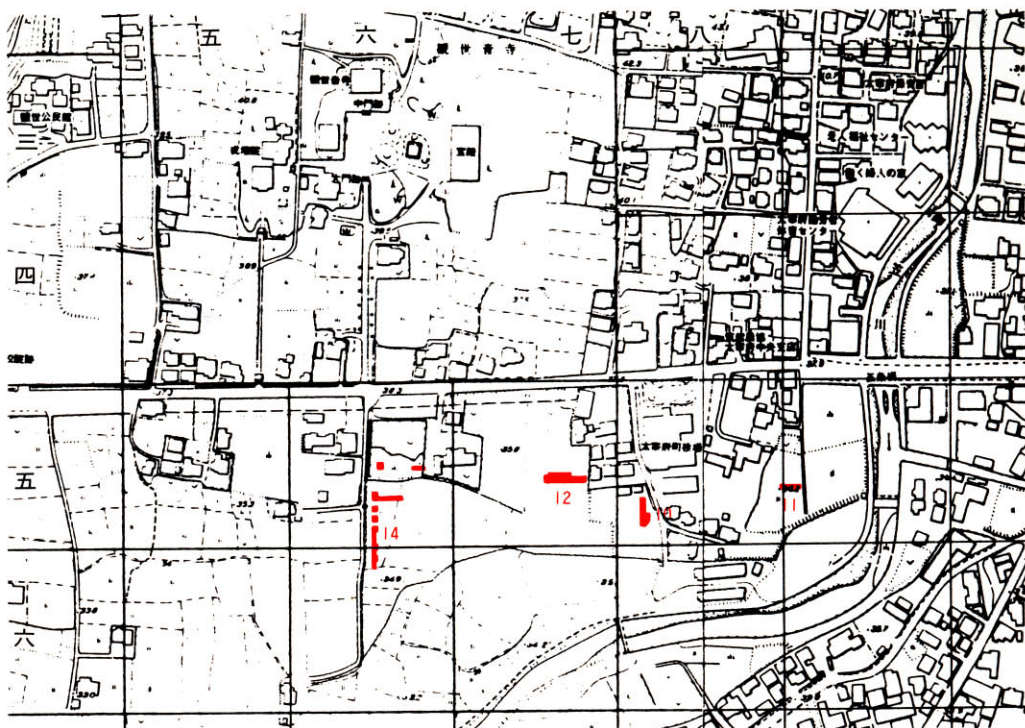


Fig 17. 6 AYE地区トレンチ配置図 (1/5,000)

第10トレンチ

表土の50cm下は砂層が厚く堆積しており、約80mほど南側を東西に流れる御笠川の氾濫地域であったと推定される。調査の範囲内では顕著な遺構などは検出されなかったが、表土に中世の遺物を含んでいることから周囲に遺構の存在する可能性はある。

表土層出土遺物 (Fig 18、PL12)

陶器 (Fig 18)

1は備前焼と思われるすり鉢で、内面に9本単位の櫛目を有する。体部外面はへら削りされ、体部外面から口縁部にあらく横なでを施す。胎土は暗赤灰色で、3mm前後の砂粒を多く含み、内外器面は赤灰色を呈する。外面口縁部下に変色した部分があり、焼成時に重ね焼きをしたものかもしれない。

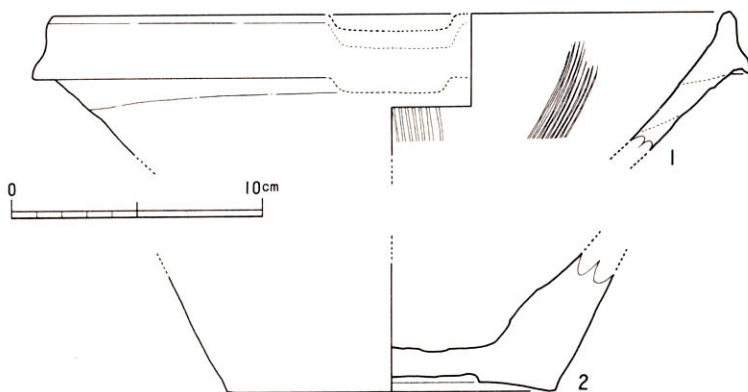


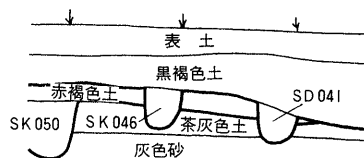
Fig 18. 第10トレンチ出土土器

2はへら削りされた幅広の高台を有する中国陶器で、胎土は灰色を呈し暗紫色の粒子を多く含む。体部外面に暗灰色、内面に茶褐色のうすい釉をかけるD-b類に該当する破片である。四耳壺Ⅶの底部に類似する。

第11トレンチ (Fig 20、PL 3 I・II)

土層 (Fig 19)

上から表土、黒褐色土、赤褐色土、茶灰色土、灰色砂の順に堆積し、赤褐色土および茶灰色の上下2層より遺構が掘りこむ。赤褐色土は人為的な整地層である。灰色砂は整地以前の自然堆積層と思われる。



検出遺構 (Fig 20)

ピット、土坑、溝状遺構などを検出した。東側の空白部は赤褐色土の整地が切れてなくなり、遺構は分布していないので遺跡範囲の東側限界を表わすと思われる。これより東側は御笠川の氾濫地帯になる。

SD041 幅約0.7mの浅い溝状遺構である。赤褐色土から掘り込む。

SK050 土坑で南東部の一部を発掘した。底部中央は一段下がる凹みがあり、井戸の可能性を有するが、井戸枠などは認められない。茶灰色土から掘り込む。

SX042、046、047、040、043、044、045、048、049、051 SX040、051は上層に遺構が重複しており、茶灰色土から掘り込む可能性がある。他は赤褐色土より掘り込むピット群である。

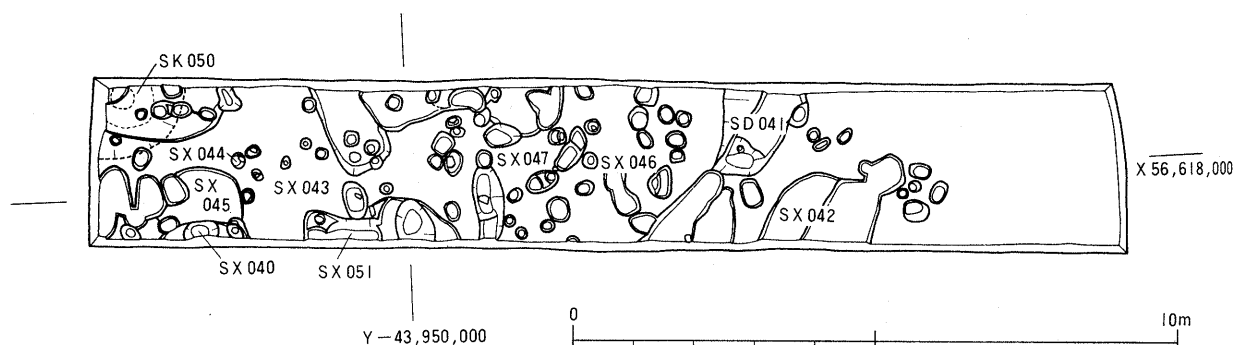


Fig 20. 第11トレンチ

出土遺物

黒褐色土出土土器 (Fig 21、PL13 I、14、別表)

土師器

小皿 a (1~3) 1は口径9.4cm、器高1.0cm、底径7.1cm。2は口径8.8cm、器高1.2cm、底径6.5cm。3は口径11.4cm、器高1.4cm、底径8.3cm。1・2は糸切り、3はへら切りである。

青磁

浅形碗 (4) 内面にへら描きと櫛目による文様を有する小形の碗で、内外面に深草色の釉を施す。胎土は茶色味をおびた灰色を呈し、黒色粒を少量含む。同安窯系青磁に類似する。

白磁

坏 (5) 枢府系の破片である。内面見込みに陽刻のスタンプ文様を有し、内外面に空色味の白色釉を施す。胎土は緻密で白色を呈し、黒色粒を含む。

表土層出土土器 (Fig 21、PL13 I、20 I)

同安窯系青磁

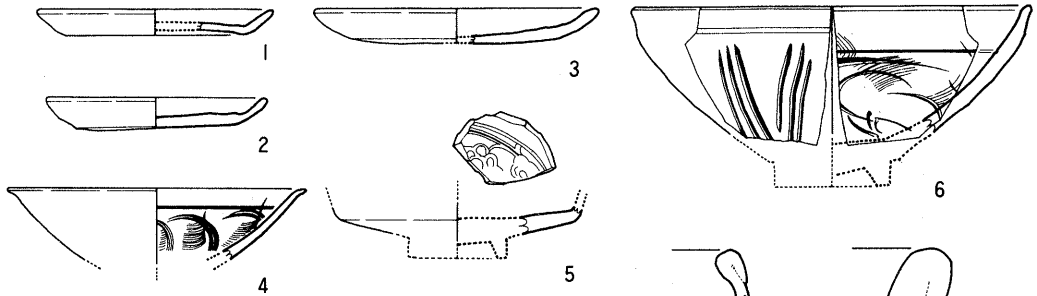
碗 (6) III-1c 類で、内外面に深草色の釉を施す。貫入が多い。胎土は灰色で黒色粒を含む。

陶器 (7・8)

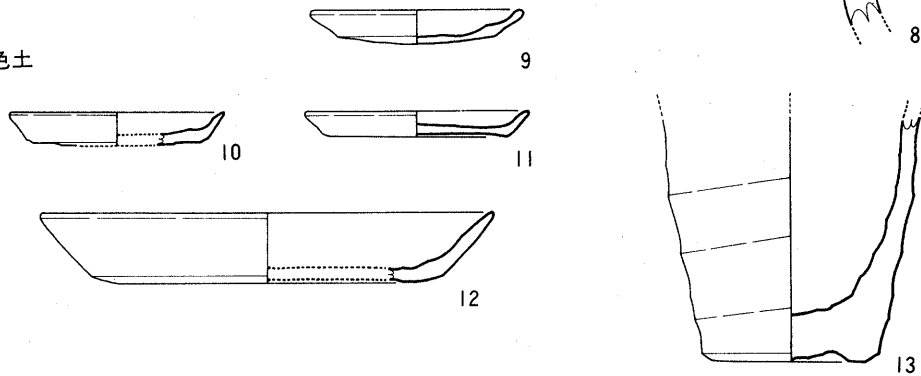
7はくすんだ茶褐色の釉を内外に施すB'-a類で、口縁は折り曲げて玉縁につくり端部に目あとを有する。胎土は淡茶灰色で白色砂を含む。鉢IV-2類に類似する。8は備前系の大形甕破片で、内外面は暗灰色を呈する。胎土は赤灰色で大粒の砂を含む。

黒褐色土

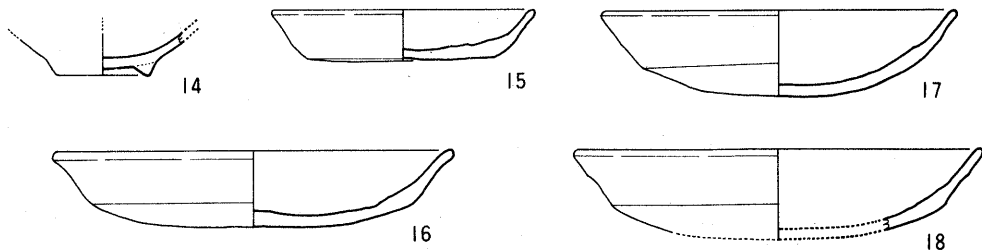
表土



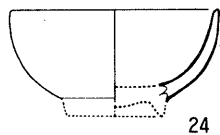
茶灰色土



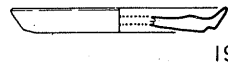
灰色砂



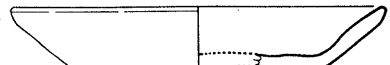
SX 042



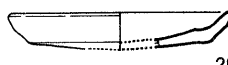
SX 043



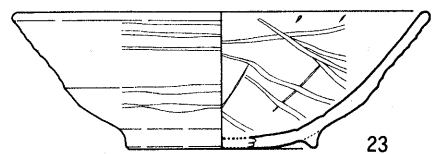
SX 044



SX 047



SX 051



SX 046



SX 048

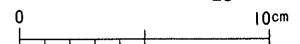
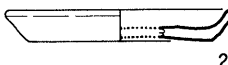


Fig 21. 第11トレンチ表土・黒褐色土・茶灰色土・灰色砂・SX 042・043・044・046・047・048・051 出土土器

茶灰色土出土土器 (Fig 21、PL13Ⅲ、14、別表)

土師器

小皿 a (9~11) 9はへら切りされ、口径8.6cm、器高1.4cm。10、11は糸切りされ、口径8.6~9.2cm、器高1.1~1.3cm。

大皿 a (12) 糸切りされ、口径18.2cm、器高14.0cm。

陶器

壺 (13) 内外面に灰緑色の釉を施すA-b類で、胎土は灰色を呈し、黒色粒子を含む。I、IV類に類似する。

灰色砂出土土器 (Fig 21、PL14、別表)

土師器

小椀 c (14) 小形の椀で、三角形の高台を有する。

坏 a (15・16) へら切りされ、15は口径10.6cm、器高2.0cm。16は丸底坏 a と形態は似ている坏で口径16.0cm、器高3.1cmである。

丸底坏 a (17・18) へら切りで底部を丸く突出させる。口径14.4~16.4cmである。

SX042、043、044、046、047、048、051出土土器 (Fig 21)

土師器

小皿 a (19~21) 19は糸切りで口径8.6cm、器高1.0cm、SX043出土。20は糸切りと思われ口径9.0cm、器高1.4cm、SX047出土。21は糸切りで口径9.2cm、器高1.3cm、SX048出土。

坏 a (22) 糸切りで口径15.2cm、器高2.6cm、SX044出土。

瓦器

椀 c (23) 丸底坏 a の手法をとり入れたもので、糸切りの後、底部を丸く突出させ高台を付し、内面にみがき b を施す。みがき b を行なった段階で内面は平滑に仕上げられており、後にみがき c をごく簡単に施している。外面のみがき c は、体部下位をのぞき、まばらにされる。SX051出土。

龍泉窯系青磁 (PL13 I)

小椀 (24) III-1類で、暗草色の釉を内外面に施し、口縁端部は釉を掻き取る。胎土は灰色で黒色粒子を含む。SX042出土。

陶器

25は蓋形のものと思われる。外面に淡茶褐色の釉をうすく施し、内面は露胎である。釉は灰濁化したB類に属するものである。胎土は淡赤褐色でややあらく、紫色の粒子を含む。SX046出土。

SX040 出土土器 (Fig 22、PL14)

土師器

小皿 a (1) へら切りされる。口径9.4cm、器高1.2cm。

坏 a (2) へら切りと思われる。口径15.2cm、器高2.6cm。

SX045 出土土器 (Fig 22、PL14、別表)

土師器

小皿 a (3~5) へら切りされる。口径9.2cm、器高1.0~1.4cm。

SX049 出土土器 (Fig 22、PL14、別表)

土師器

小皿 a (6~8) 糸切りされる。口径7.8~8.8cm、器高1.0~1.1cm。

SD041 出土土器 (Fig 22、PL14)

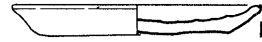
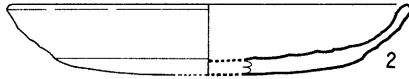
土師器

小皿 b (9) 糸切りされる。口径6.6cm、器高1.7cm、底径4.4cm。

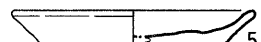
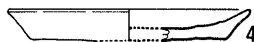
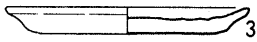
白磁

皿 (10・11) 10はⅢ類で内面見こみの釉を環状に掻き取る。11はⅨ-1b類で口縁部内面の釉を掻き取る。

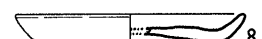
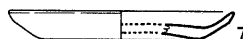
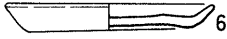
SX 040



SX 045



SX 049



SD 041

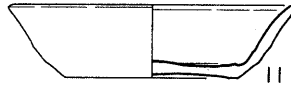
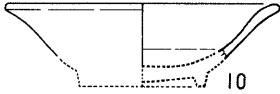


Fig 22. SX040・045・049、SD041 出土土器

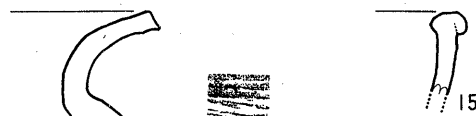
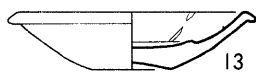
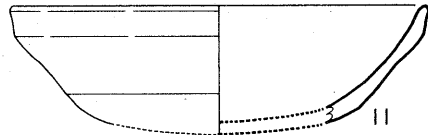
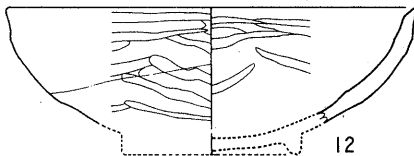
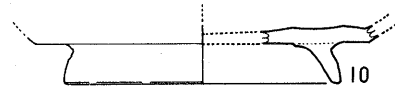
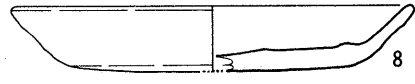
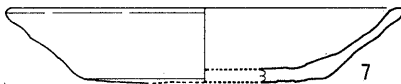
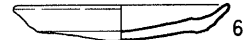
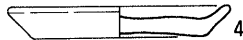
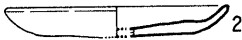
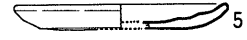
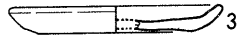
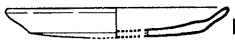
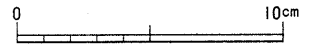
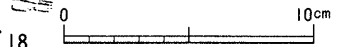


Fig 23. SK050 出土土器



SK050 出土土器 (Fig 23・24、PL13-II、14、15-I、別表)

土師器

小皿 a (1~6) 計測可能なものは6点で、1・6はへら切り、3は糸切りされ、他はへら切りか糸切りの区別が明確でない。口径8.6~9.0cm、器高1.0~1.4cm。平均口径8.8cm、器高1.2cm。

坏 a (7・8) へら切りされる。口径16.0~16.2cm、器高2.7~3.0cm。

大坏 c (9・10) やや高い高台を有する大形の坏である。

丸底碗 a (11) へら切りされ内面はみがき b を施すものである。口径16.8cm。

瓦器

碗 (12) 糸切りされた後に底部を丸く突出させており、内外面にあらいみがき c を施す。

白磁

皿 (13・14) 13はIV-1b類で体部内面を3区分する縦の隆線(割花)を有する。底部外面は施釉後に釉を掻き取る。14はIII類で体部外面下半から底部外面は施釉されず露胎である。

陶器

鉢 (15・16) 15は口縁部内外面をのぞき暗緑色味の茶色釉を施すB'-a類のものでIV-2類に類似する。胎土は灰色でややあらい。16はI-1b類で内外面は暗茶褐色を呈する。底部近くの内面は径3mm前後のクレタ状をなす無数の窪みがあるが、器面は滑らかですり鉢などの用途に使用したものと思われる。胎土は黒灰色で径3mmほどの白色砂を多量に含む。

壺 (17) 白磁の四耳壺を模作した古瀬戸系と思われる壺で頸部、底部、胴部中位を欠損する。胴部上位に最大径を有し、肩に2条の沈線を入れた横形の耳を付す。破片のため耳の数は不明であるが、3ないし4個つくものと思われる。肩部の外面にはへら描きの波状の沈線を有する。光沢のない暗黄緑色釉を外面に施す。内面は胴部中、下位に白濁した茶褐色釉がうすく施されるが、雑になでつけている。胎土は

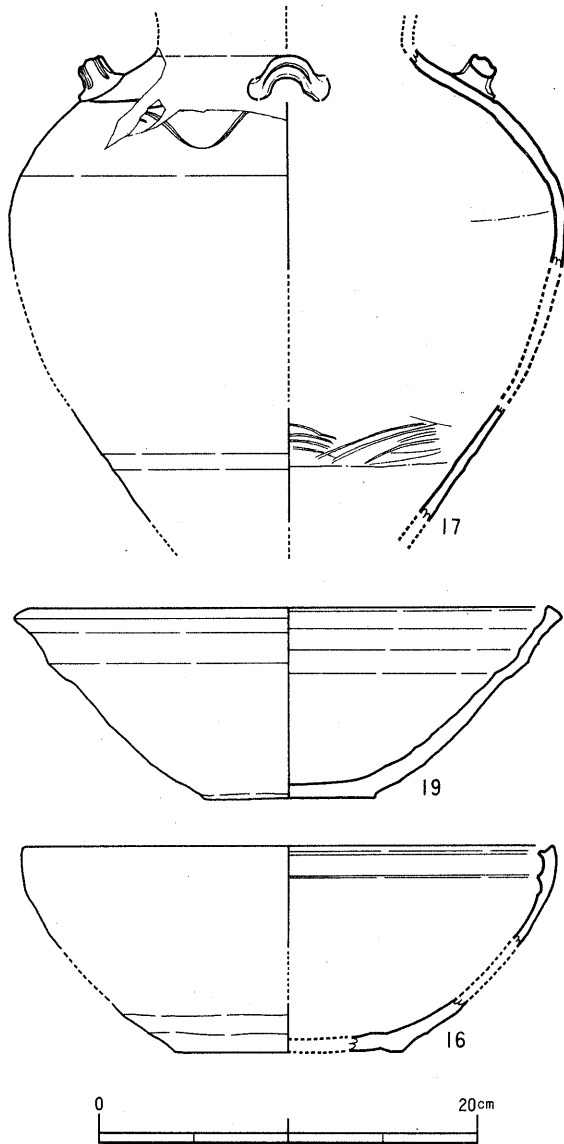


Fig 24. SK050 出土土器

灰白色で白色、黒色粒を含んでいる。

瓦質土器

甕 (18) 胴部外面には平行叩きを有する。胎土に 3 mm 位の砂粒を含む。

鉢 (19) 片口と思われる。口縁部は如意形に内彎し、底部外面に静止糸切り痕がある。

遺跡の年代

出土遺物と層位、重複関係から次のように遺構と層位の時期を推定することができる。

灰色砂…口径 16.0 cm の坏 a は大宰府史跡 SK1204 の古期 (12 世紀前後) に比定できる。

茶灰色土…土師器は糸切りとへら切りが混在し、同安窯系青磁を含むことから大 SK1204～SK1085 の古期 (12 世紀中頃～後半) に比定できる。

SX040、051…SX040、051 は茶灰色土から掘りこむ可能性があり、遺物などから茶灰色土の時期の直後に推定できる。

SK050…土師器のタイプは大 SK1204 に共通するが、これらは茶灰色土のものが混入したものかもしれない。小皿 a の糸切りのものを新しく考えると大 SK1085 (13 世紀前半) に比定され、灰釉陶器の出現時期とも合致する。

その他の遺構…赤褐色土 (整地) から掘りこむもので、SX045、048、044、043 などは大 SK1204～1085 段階の遺物を出土するが、層位からはそれより若干新しく考えられる。SX042、047、049 は龍泉窯系青磁 III 類、白磁 IX 類を含むことから大 SK601 (13 世紀中頃) 以降、また SD041 は土師器小皿 b から大 SK830 (14 世紀前後) に比定される。

以上のように、下層遺構は 12 世紀中頃から 13 世紀前半頃に形成され、上層遺構は整地を行なった後 13 世紀中頃以降形成されたものと判断されよう。検出された遺構は集落の一部であり、鎌倉時代における観世音寺周辺の条坊の状況を知る一つの手がかりとなろう。

*以後、大宰府史跡標式の場合「大」と略する。

第12トレンチ

検出遺構 (Fig 26)

土層 (Fig 25)

上から表土、灰褐色土、暗褐色土、灰白色砂、暗灰色砂、灰色砂の順に堆積し、灰白砂上面よりSD060、SX 061が掘りこむ。

SD060 幅6.0m、深さ約0.6mの東西溝で東側溝底部に挙大の礫群がある。

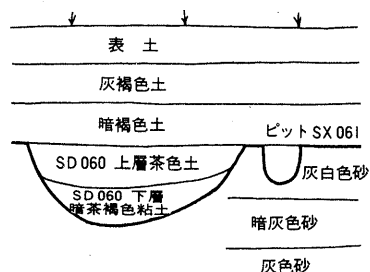


Fig 25. 第12トレンチ層位模式図

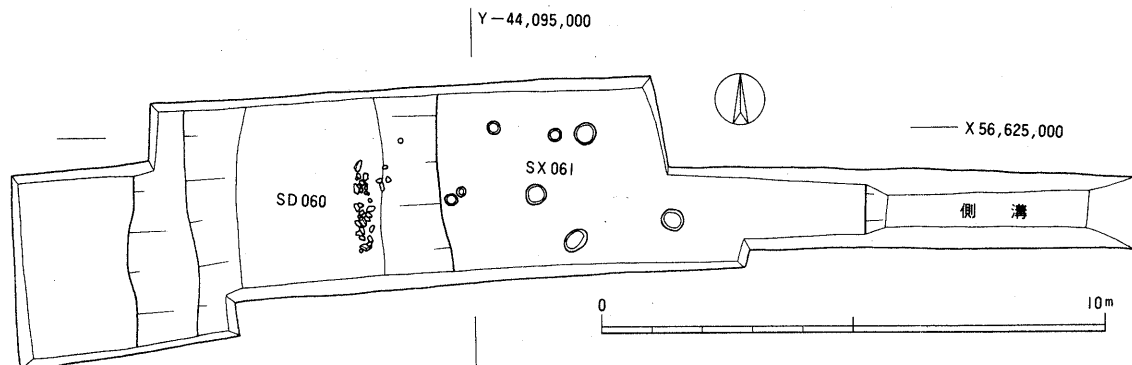


Fig 26. 第12トレンチ

出土遺物 (Fig 27・28)

出土遺物はSD060を覆う土層 (表土、灰褐土、暗褐色土) / SD060/ SD060より古い土層 (灰白色砂、暗灰色砂、灰色砂) の3つに分けて記述する。

表土、灰褐土、暗褐土出土遺物 (Fig 27、PL15-II・III)

土師器

小皿b (1) 糸切りされる。口径6.4cm、器高1.9cm。灰褐色土出土。

枢府系白磁 (PL14)

皿 (2) 内面に陽刻された草花文を有する。空色味の白色釉が内外施され、胎土は純白色に近い。灰褐色土出土。

安南陶器 (巻首図版)

碗 (3) 端反りの口縁部を有し、内外に暗いコバルトブルー色の染付文様がある。体部外面の文様は上、中位の界線の間に連弧状の線を配するもので、内面は口縁部に上下2条の界線を入れ、間に草文状の線を描く。内外面に貫入が多く黄色味をおびた白色釉を施し、下地釉を伴う。出土層不明。

陶器 (4~7)

4は蓋状の形態を有するものと思われる近世陶器である。上部外面は櫛描状の凹線文を有し、灰緑色釉を施す。暗褐色土出土。5は備前系と思われる甕で外面に暗灰緑色の灰釉がかかる。胎土は茶色味の淡灰色で黒色粒子を含む。暗褐色土出土。6は茶褐色の釉がうすく施されるC-a類で水注VIIに類似する。灰褐色土出土。7は鉢VI類で口縁部外面に目あとがある。外面は黄色味の茶褐色釉がうすく施され、内面は淡茶灰色味の発色をなす。胎土は橙灰色で白色砂や暗紫色粒子を含む。破片分類ではC-b類に該当する。暗褐色土出土。

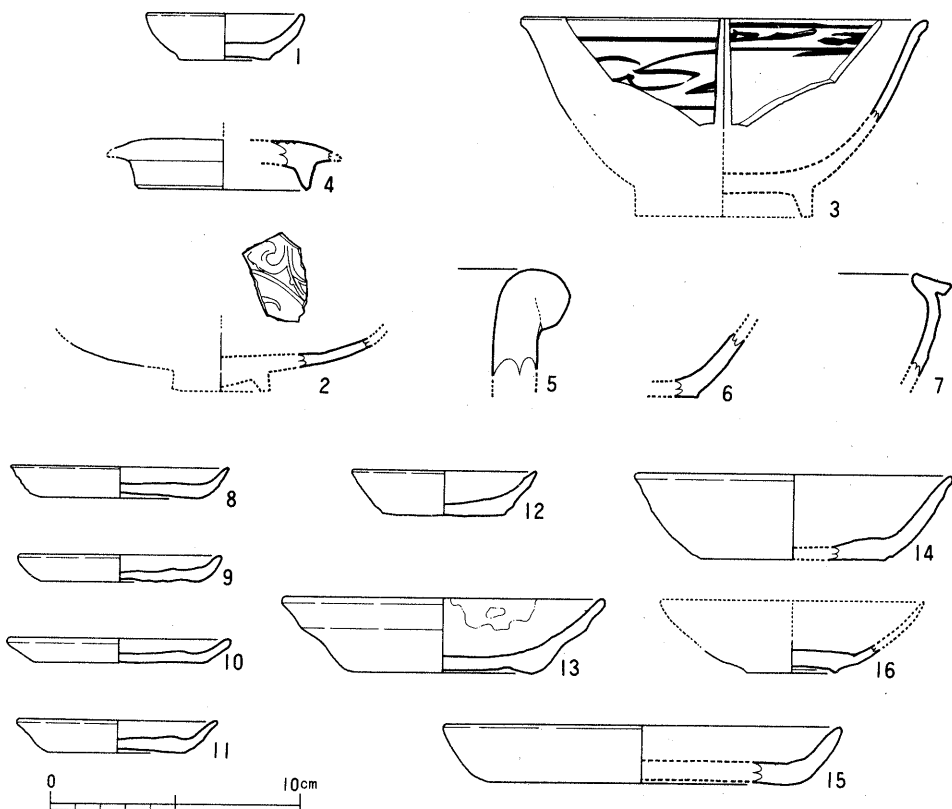


Fig 27. 第12トレンチ表土・灰褐色土・暗褐色土・灰白色砂・暗灰色砂・灰色砂出土土器

灰白色砂、暗灰色砂、灰色砂出土土器 (Fig 27、PL14・16-II、17-I)

土師器

小皿 a (8~11) 糸切りされる。口径8.2cm~9.0cm、器高1.0cm~1.3cm。灰白色砂出土。

小皿 b (12) 口径7.4cm、器高1.8cm。灰白色砂出土。

坏 a (13・14) 糸切りされ、13は口径13.0cm、器高3.0cmで油煙が内面につく。灰白色砂出土。
14は口径12.8cm、器高3.4cm。灰色砂出土。

大皿 a (15) 糸切りされる。口径16.0cm、器高2.3cmで灰白色砂出土。

白磁

皿 (16) VII-1 a 類。暗灰色砂出土。

SD060 出土土器 (Fig 28、PL16-I・III、17-II・III)

土師器

小皿 b (1) 糸切りされる。口径6.4cm、器高2.0cm。

坏 a (2・4) 糸切りされる。口径14.8~15.0cm、器高2.7~3.0cm。

坏 b (3・5) 3は底部外面に幅5mmの板状圧痕を有し、内面になでを施す。5の内面は全体に横なでされ、底部外面に板状圧痕はない。

丸底坏 (6) 遺構の時期とは直接関係のない11世紀後半の混入品で、底部内面に「十」、外面に不整六角形の文様を鋭利なもので刻みつけている。

白磁

皿（7） II-1 a類で外面の高台畳付以内は露胎である。

碗（8） VII類で、高台部外面から底部外面は露胎である。内面にへら描き文を有する。胎土は灰色で黒色粒を少量含む。

壺（9） 内外に灰緑色味の白色釉を施し、胎土は灰色で黒色粒を含む。

青磁

壺（10） 体部外面の口縁部下に三条の横沈線を有するが2本は不鮮明で線は寸断している。沈線以下は縦のへら刻線により簡略化した蓮弁を表現する。釉は明るい草色でとくに外面厚く施され、口縁端部は釉を掻き取り、茶褐色をなす。胎土は灰色で黒色粒を含む。へら刻線で簡略化された蓮弁などは15世紀頃に多く出土する青磁碗と類似している。

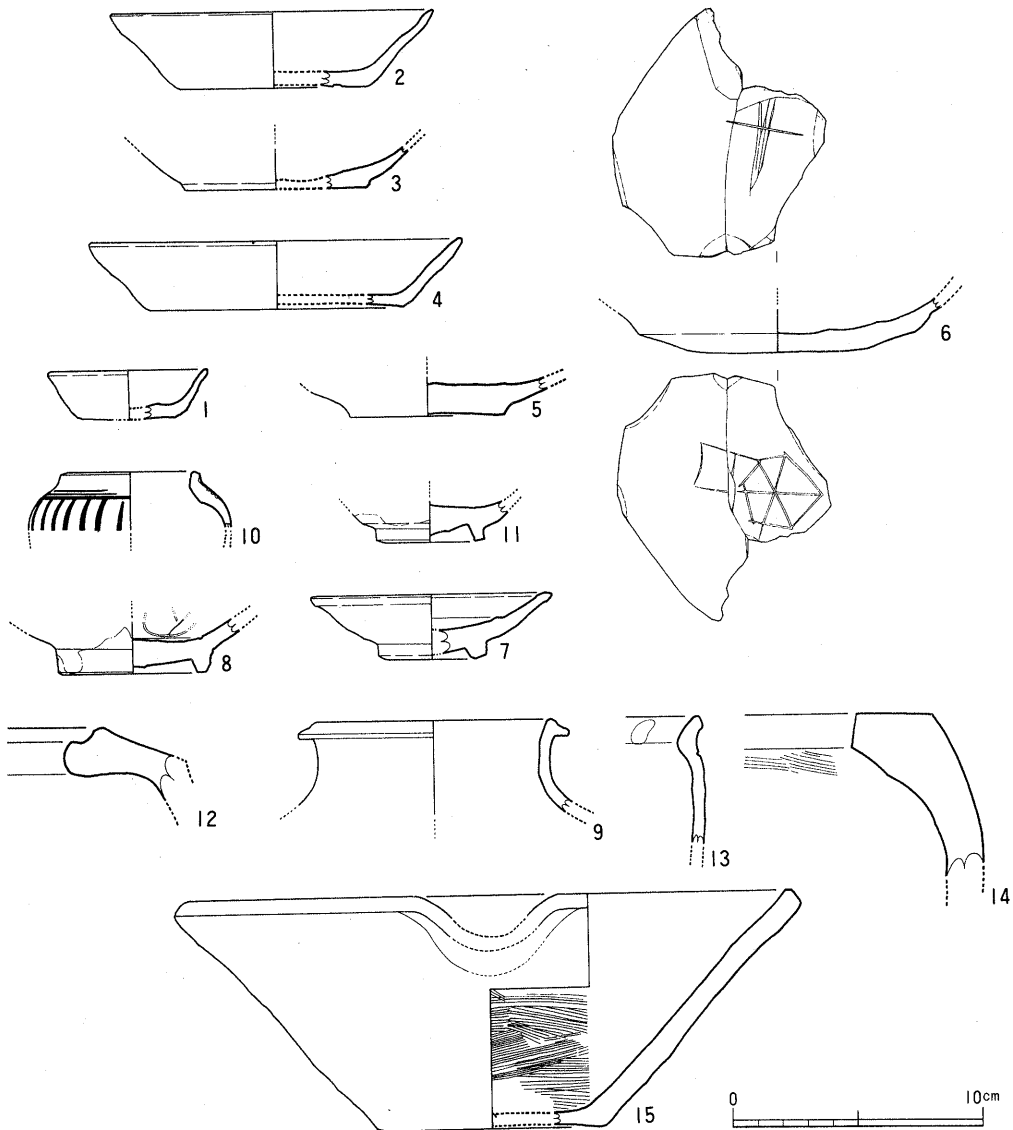


Fig 28. SD060 出土土器

陶器

11は小さな高台を有する皿状の器形のものと思われる。高台の内側は直角に近い鏡状のもので斜めに削られているため中央部の器肉は厚いまま残される。内外面に灰緑色味の白色釉が厚めに施される。外面の体部下位から高台部は露胎で淡赤灰色を呈する。12は甕Ⅰ類で口縁部内外にうすい白濁化した釉（化粧土か）がある。胎土は赤褐色で白色砂を多く含む。13は鉢Ⅲ類と思われ、外面の口縁部下に一条の横沈線を有する。口縁部内面には目あとがある。口縁端部を除き内外面に発色悪く黄灰色に濁った釉を施す。胎土は白色と紫色粒を含み、淡赤褐色をなす。

瓦質土器

火舎（14） 外面から口縁部内面はみがきcを加える。内面は口縁部下に横方向の刷毛目があり、体部は横なでされる。

鉢（15） 片口で内面に斜方向、横方向の刷毛目を施す。

遺跡の年代

灰白色砂、暗灰色砂、灰色砂はSD060以前の堆積である。これらの層の出土遺物は坏a、小皿a、小皿bの法量や、陶磁器の器種構成状況などから14世紀中頃に推定される。

SD060は上記の層位の遺物より全般的に新しい傾向の遺物を含む。土師器は坏b、小皿bなど新しいタイプのもを含み、陶磁器では枢府系の白磁、龍泉窯系青磁Ⅲ類、高麗青磁、その他の陶器類など一部に新しいタイプのものを含んでいる。このことから14世紀後半～15世紀に溝の年代を推定できよう。

安南陶器は比較的出土例が少なく、稀有なもの1つである。これまでの大宰府周辺の出土例によれば14～16世紀の間の遺物と共伴している。今回は出土層位が不明のため年代については推測の域を出ないが、SD060の存続した時期に伴う可能性があるろう。

今回は検出範囲が狭いため集落の状況については全くつかめないが、SD060は14、15世紀における観世音寺南側の条坊地域の状況を探る手がかりを与えてくれるであろう。

第14トレンチ (付図、PL4)

調査地は大宰府条坊復原案の左郭五条六坊に相当し、五条大路の跡地に推定される県道山家—関家線をはさんで観世音寺の南に位置する。観世音寺前面の調査は県道の拡幅工事ともなう事前調査が昭和50・51年に大宰府史跡第39次調査として実施されており、溝・井戸・土壇および多数のピットが検出されている。それらには平安時代前～中期に属する井戸5基などが含まれているが、多くは鎌倉時代を中心とする遺構であった。長大な東西トレンチであったにもかかわらず、条坊に関連する遺構は確認されていない。

今回の調査は観世音寺推定中軸線の延長部分の確認、および調査区を東西に横断すると推定される六条路の位置の確認にあった。調査区にはその中ほどに約1.3mの段差があり、調査の主体を下段部に置いた。まず下段部にトレンチを推定中軸線の東側に沿って南北一列に設定し、その北部を東側に拡張した。ついで上段部に北、東北の二つのトレンチを東西方向に設定した。

調査は昭和50年6月10日に開始し、途中で梅雨に悩まされたが、7月25日に完了した。

土層 (Fig 29) 上段部は約1.5mの地上げがみられ、それを除いた旧表土面は下段部の表土面にほぼ一致する。各トレンチの土層を南北にみると、下段部東拡張部より以北では表土の直下は細砂からなる地山であった。南半ではおおむね黒褐色土・暗褐色土・灰褐色土の順に堆積する三層からなり、多少の凹凸はあるがほぼ水平をなしていた。三層の遺物包含層の下には地山をなす砂層が認められる。遺構は暗褐色土・灰褐色土層の上面、および地山で認められた。また暗褐色土・灰褐色土層中に焼土・鉄滓・鞆羽口などの鍛冶に関係する遺物が相当に含まれており、注目された。

検出遺構 (付図)

検出した主な遺構は井戸2基、土壇、ピット多数である。なお東北トレンチの東部で礎石かと思われる平石2個(間隔約2.7m)を検出したが、遺物を一切欠くなどその時期・性格を限定することはできなかった。

SE070 北トレンチの西北隅で検出したが、その本体はトレンチ外にある。掘形の一部の発掘で、桶様の井戸枠であることを知るにとどまった。

SE071 南北トレンチに所在する。地山に切り込んで据えられた井戸枠の基底部分を検出したのみで、その掘り込み面は確認できない。井戸枠には径約40cmの曲物をもちいており、深さ20cmを残すにすぎない。

SX066 地山に掘り込まれた不整円形の土壇状遺構の一つで、出土の土師器および白磁から11世紀後半代の年代が与えられ、調査区での最古の時期を示している。

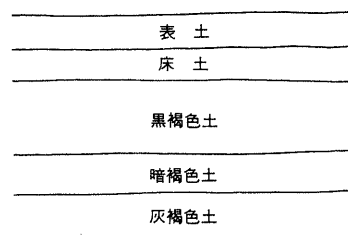


Fig 29. 第14トレンチ層位模式図

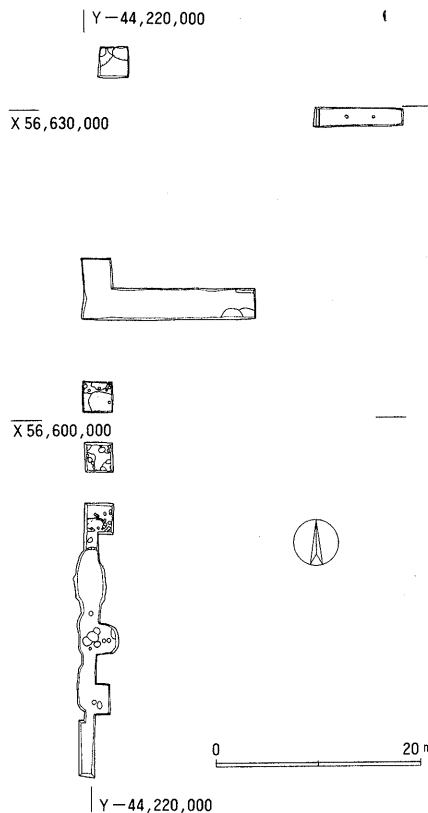


Fig 30. 第14トレンチ

出土遺物

黒褐色土層出土土器 (Fig 31、PL-8 I)

土師器・白磁・青磁・青白磁・陶器が出土している。

土師器

小皿 a (5~19) 口径6.6cm~9.2cm、底径4.6cm~7.1cm、器高1.0cm~1.6cmである。全て糸切りである。10の口縁部内面には油煙の付着があり、灯火器として使用されている。

小皿 b (1~4) 口径6.8cm~8.2cm、底径3.8cm~4.7cm、器高1.6cm~2.1cmである。全て糸切りである。

坏 a (20~32) 口径11.8cm~14.5cm、底径7.3cm~9.5cm、器高2.5cm~3.2cmである。全て糸切りである。口径12.0cm前後・器高3.0m前後 (20~29) と口径13.0cm前後・器高2.5cm前後 (30~32) のものに大きく分類できる。ここでは前者のものが多くを占める。

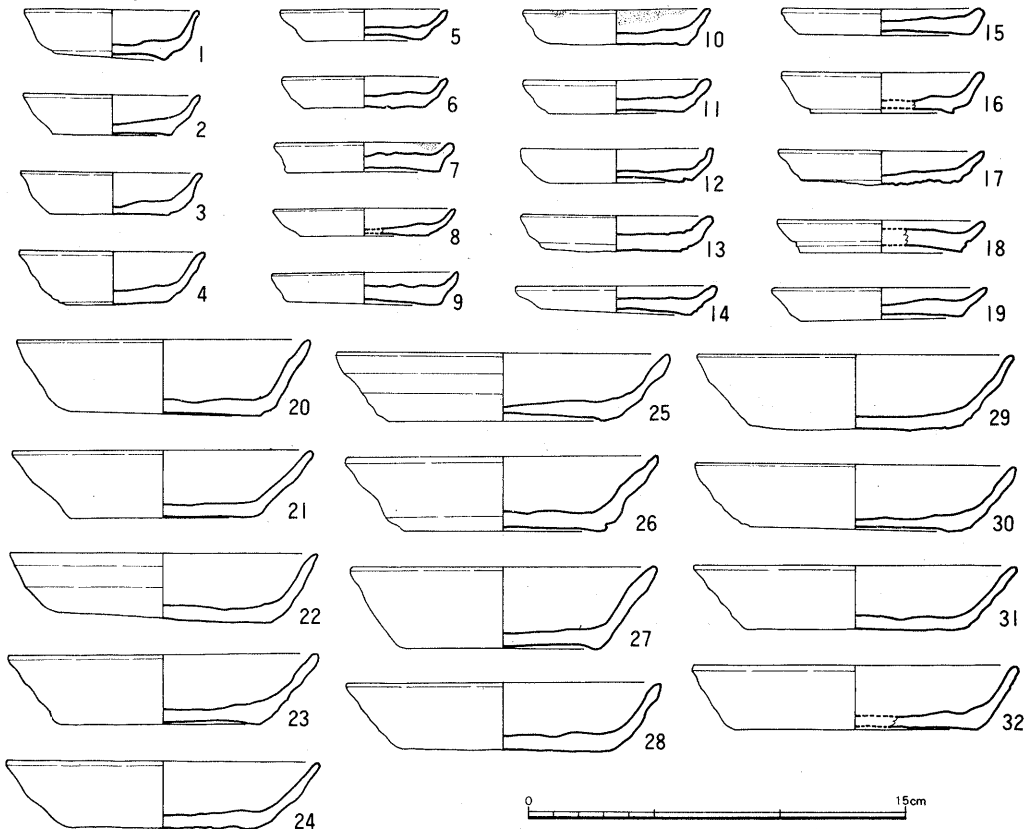
暗褐色土層出土土器 (Fig 32、PL18II)

土師器・青磁・白磁・青白磁・陶器が出土している。

土師器

小皿 a (1~14) 糸切りとへら切りのものがある。1~11は糸切りで、12~14はへら切りである。前者 (1~11) は口径8.0cm~9.8cm、底径5.7cm~8.0cm、器高0.9cm~1.5cmで、口径の小さい1・2と3~11の二つのタイプに分けられる。12~14は口径9.0cm~9.2cm、底径7.0cm~7.4cm、器高1.0cm~1.2cmである。

小皿 c (15~19) 口径9.1cm~11.3cm、器高1.6cm~2.1cmである。19については小片であるためやや不正確である。



- 25 - Fig 31. 黒褐色土層出土土器実測図

坏a (20~30) 20~29は糸切りで、口径11.9cm~16.0cm、底径7.4cm~12.1cm、器高2.4cm~3.3cmである。口径が小さく器高の高い20~25と口径15.0cm前後、器高2.5cmの26~29の二つのタイプがある。30はへら切りで口径16.2cm、底径11.7cm、器高3.3cmである。

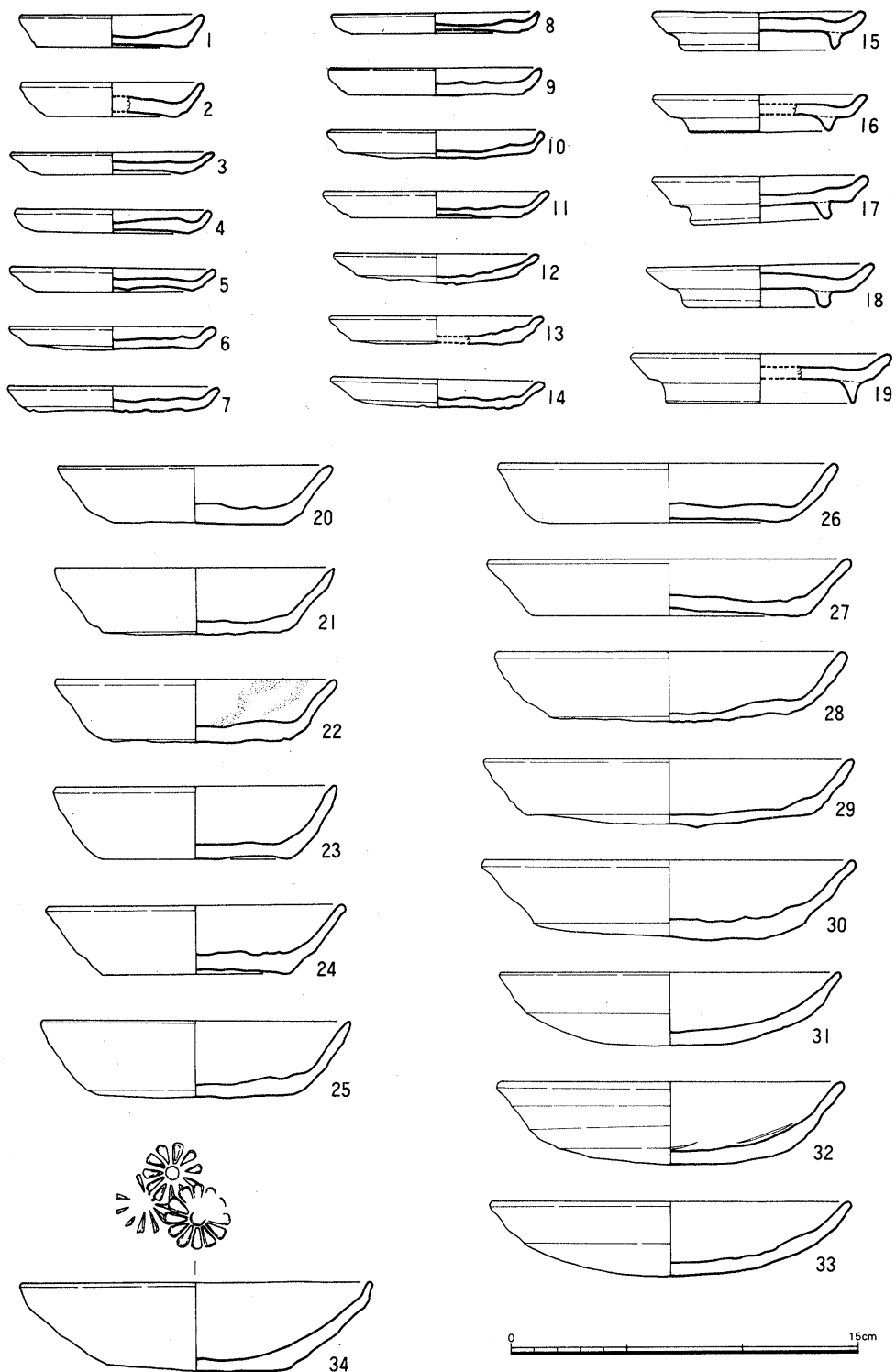


Fig 32. 暗褐色土層出土土器実測図

丸底の坏 a (31~33) 口径14.9cm~15.6cm、器高3.1cm~3.6cmである。内面はみがき b を施し、32にはこて当ての痕跡が残る。

瓦質土器

坏 (34) 口径15.3cm、器高3.8cm、底径7.8cmで底部は糸切りである。体部はよこなで、内底はなでている。内底の中心部には3個の花文を押捺している。花文は3個とも異なり、重複して押捺されている。胎土には比較的多く砂粒が混入しているが、硬質に焼成されている。灰色を呈し、器形の点からも大宰府周辺では出土例の少ない土器である。

黒褐色土層・暗褐色土層出土陶磁器 (Fig 33、PL19・21、22 I II、23 I II、24、25 I II)

青磁

皿 (1) 龍泉窯系の青磁である。1は復原口径10.4cm、器高2.4cmで、底部は平底であるが、やや上げ底風に削っている。灰緑色を滞びた釉は全体に薄目に施され、外面の体部以下は露胎となっている。I-1・a類。

椀 (3~5) いずれも龍泉窯系青磁である。3は口縁部を内弯させたのち大きく外反させる、いわゆる天目形を呈する小型の椀である。淡緑色を呈する釉は厚目に施されている。III-3類。4・5は外面体部に蓮弁を削出すもので、4は口径15.8cm、器高6.4cm、5は17.0cm、器高6.4cmである。5は完形品で、見込みには花文のスタンプがある。高台部は露胎となっている。4はI-5 b、5はI-5 c。

水注 (6) 越州窯系の水注の小片である。口縁部付近には把手の痕跡がある。灰色気味で緑色の釉が薄目に施され、口縁端部には重ねの痕跡が3個確認できる。胎土は黒い粒子が混入し、粗い。

白磁

皿 (2・9・11・14~20) 2は口径9.8cm、器高1.9cmで、灰緑色味の強い釉は全体に施釉された後、底部は釉を掻き取って露胎となっている。内面見込みにはへらによる片切彫りと楯描きの花文がある。VIII-1類。9はIX-1・a類で、いわゆる口縁部を露胎とする「口禿」のものである。や、空色気味の白濁釉をうすくかけている。11は高台をもつ皿形のもので釉は空色味の白色を呈するが発色は悪い。内面には草文の型押文があるが釉のため不鮮明である。高台畳付部と高台見込みは露胎となっている。枢府系白磁と呼ばれるものである。14~16・18はVI-1類のものである。14・15は体部上位で屈曲するVI-1・a類。16はVI-1・b類。17はVII-1・b類で内面の体部および見込みにへら描きの花文がある。18はVI-2・b類に属するもので見込みに花文状のへら文様を施している。これらは、いずれも黄白色の釉を薄く施し、体部下半は露胎となっている。19はIII類の皿で、見込みを環状に釉を掻き取っている。20はII-1・a類で高台部をわずかに削り出している。19・20は黄白色の釉を施し、体部下位以下は露胎となっている。

壺 (21・22) 少片のため全形は知り得ないが、壺形のものであろう。21は短頸で、口縁端部を肥厚させ肩の張る壺であらう。や、空色気味の白濁色の釉がや、厚目に内外面に施されている。22は広口の壺で肩部の張り出しはわずかにみられる。外面は肩部までへら削り調整され、口縁端部は面取り風に削り、口禿となっている。内外面にや、空色を滞びた白濁釉が薄目に施されている。

青白磁

壺蓋 (7) 7は小壺の蓋で、返りをもつ。外面には型造りの花文の浮文がある。釉は青白色のガラス質になった透明釉が厚目にかかっている。身受け部は露胎となり、中心部にも釉がかかっている。

合子（8） 型造りにより蓮花文を浮き出す。青白色釉は薄目にかかり、口縁部付近は露胎である。

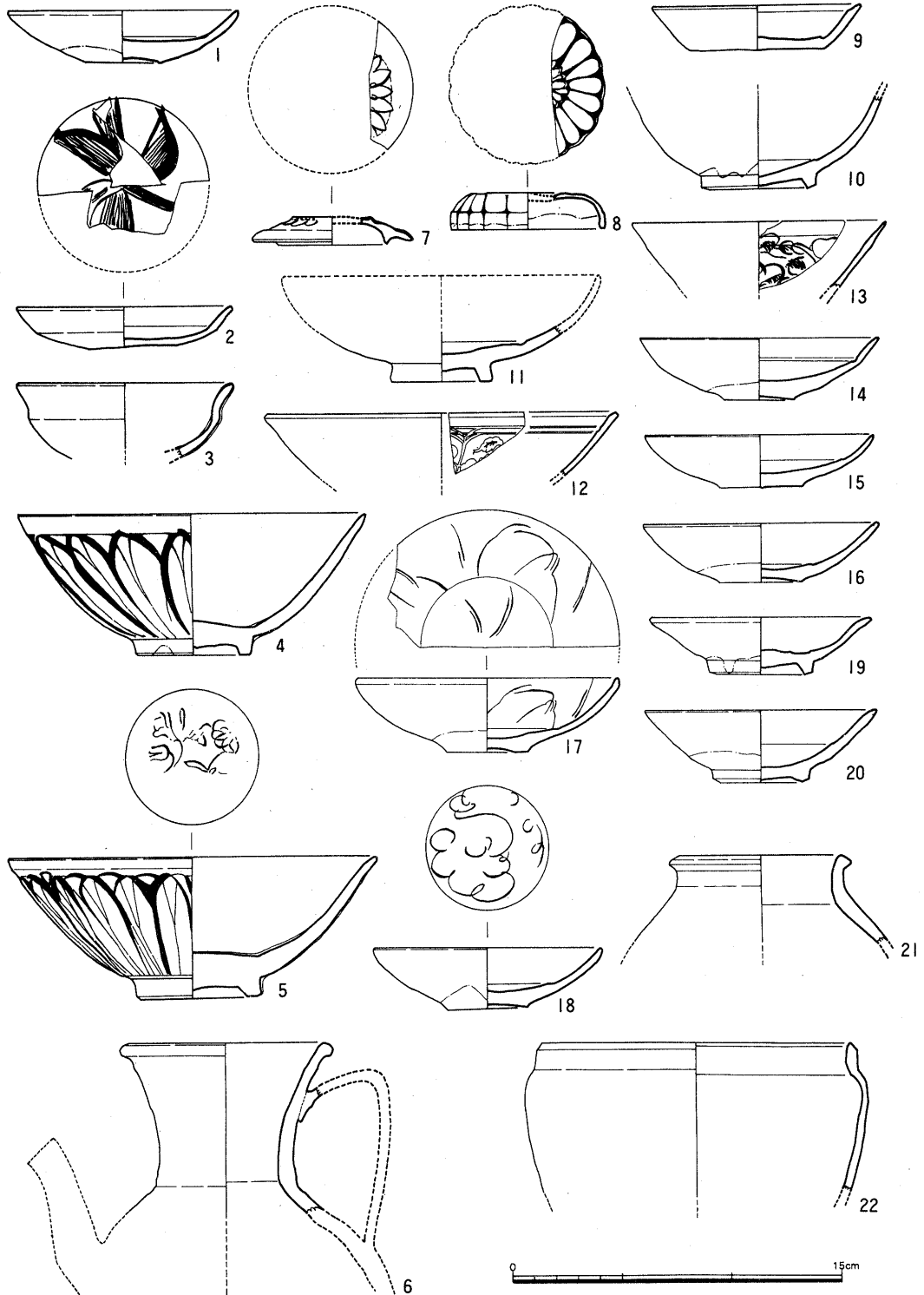


Fig 33. 黒褐色・暗褐色土層出土陶磁器実測図

灰褐色土層出土土器・陶磁器 (Fig 34, PL18Ⅲ、19・20ⅡⅢ、22Ⅲ)

土師器・瓦器・須恵質土器・白磁・陶器などが出土している。

土師器

小皿 a (1~10) 1~6は糸切りで口径8.8cm~9.4cm、底部5.9cm~7.4cm、器高1.0cm~1.4cmである。7~9はへら切りで、口径8.2cm~10.0cm、底径6.4cm~8.9cm、器高1.2cm~1.5cmである。10は手捏ねで、類別は少ない。

小皿 c (12~15) 口径9.2cm~9.9cm、器高1.6cm~2.5cmである。

坏 a (16・17) 16は糸切りで、口径17.0cm、底径11.5cm、器高2.6cmである。

坏 c (18) 口径18.9cm、器高4.7cmのや、大形のものである。糸切り痕がわずかに残っている。

黒色土器

皿 (11) 口径11.0cm、器高1.6cm、底部は丸底風となり、体部との境は明瞭でない。底部はへら切りで、板状圧痕を有する。内外面黒色を呈し、粗いみがき c を施している。

瓦器

椀 (19~21) 19・20は小形の椀で、口径8.2cm、器高2.4cm~2.5cmである。両者とも同じ大きさで、形状も類似している。内面には不鮮明であるが粗いみがき c を施している。21は高台部を欠失しているが、復原口径16.8cmである。内外面には粗いみがき c を施している。

白磁

皿 (22・23) 22は少片のため全形は知り得ないが、輪花の皿で内面体部には割花の隆線がある。釉は薄く施され、や、緑色を帯びた白色を呈する。23はIII類で内面見込みに輪状の釉掻き取りがある。

椀 (24・25~28) 24は復原径11.2cm、器高4.1cmの小型の椀である。体部はほぼ直線的に斜め外方にのび、口縁部はや、肥厚させ外反させる。外面には細い片切彫風にし、内面体部にも花文のへら文様を有する。V-2・b類。25は底部片で、全形は不明であるが高台部の形状からII類に属すると考えられるが、見込みにへら描の花文がみられることから別のものとも考えられる。外面体部下半以下は露胎となっており一部赤褐色の発色がみられる。26はVIII-2類で、内面見込みに環状の釉掻き取りがある。27はV-3・a類で、口縁端部は丸味がある。外面体部下位は露胎となっている。28はII-1類で口縁端部は肥厚させ丸くしている。黄色味のある白色を呈し、体部下半以下は露胎となっている。

青釉壺 (29) 壺の下半部片である。釉は薄くかかり発色が悪く一部緑色を呈するが、全体的には白っぽくなっている。外面の底部付近は露胎となる。外面はへら削り調整によって仕上げている。胎土は灰色を呈する。A'-a類。

黄釉褐彩四耳壺 (30) 口縁部と肩部の少片であるが、復原口径20.4cmを測る四耳大壺である。直立する頸部から口縁部は端部を折り曲げ玉縁状に肥厚させ丸くしている。肩部には耳が1個残存している。黄緑色の釉を下地として施したのち、肩部には褐色の釉を流しかけしている。胎土には細砂粒が多く混入して粗く、器面はザラついている。四耳壺III類。

須恵質土器 (Fig 35-31)

口縁部を欠失しているが、平底の椀形のものと考えられる。体部は横なで、内底はなで、外底には糸切り痕を残す。胎土には砂粒が混入し、器面は滑らかではない。灰色を呈し、須恵器の様相を呈するが、類別はきわめて少ない。

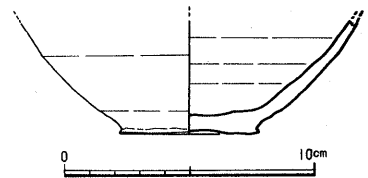


Fig 35. 須恵質土器実測図

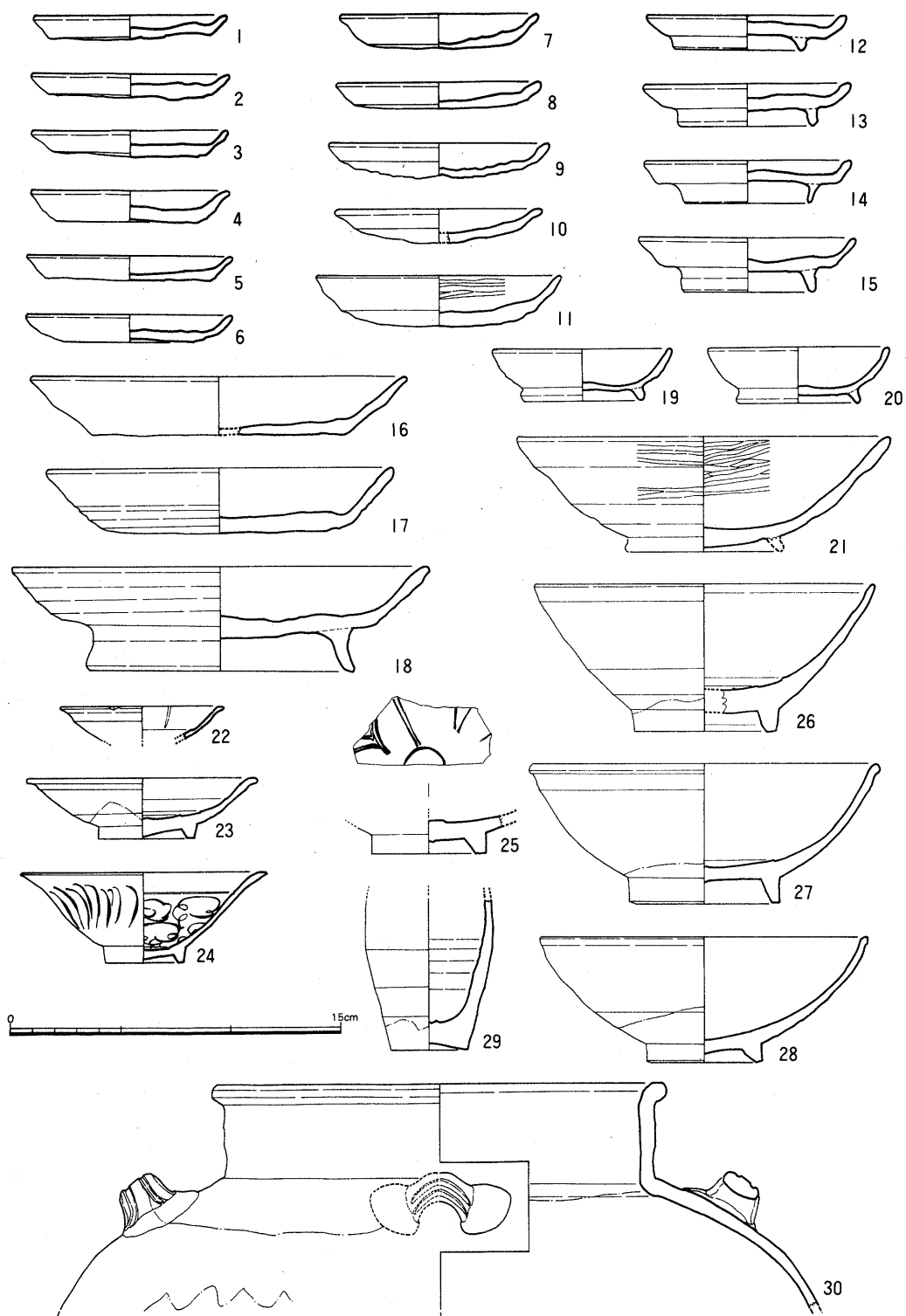


Fig 34. 灰褐色土層出土土器・陶磁器実測図

土製品 (Fig36、PL26IIII)

土錘 (1) 長さ4.5cm、最大径1.1cmのもので、両端は若干細くなる。土師質で茶色を呈する。径0.2cmの穿孔がある。

埴埴（2） 径11.0cm、器高4.5cmの丸底のものである。口縁部には片口状の注ぎ口を有する。粗穀入り粘土で造られ、外面は指頭による調整を行っている。内面は火熱のため灰青色に変色し、焼き締まっている。片口周辺部には小豆色のものが付着している。他に数点がある。暗褐色土層出土。

鞆羽口（3） 基部を欠失し、先端部は火熱を受けて黒色ないし小豆色のガラス質のものが付着する。胎土は砂粒と粗穀入り粘土である。現存長10.0cm、最大径6.3cm、内径2.9cm。暗褐色土層出土。

石製品（Fig 36、PL25Ⅲ、26ⅠⅢ）

4は滑石製のもので、スタンプ状を呈する。隅丸方形形状を呈し、方形の把手が付いている。撮みには穿孔された穴の一部が知れる。5は長さ5.8cm、上端幅1.6cm、下端幅4.0cm。上端の厚さ1.6cm、下端の厚さ2.0cm。両面の上位に、山形の段を有する。上面から側面に向かって「L」字状に0.2cmの穿孔がある。6は方形の硯で、幅6.5cm、長さ10.8cmのもので、表・裏を硯として使用している。表は高さ0.4cmの縁部をもち、上方部が若干下がり、海部となっている。裏面は後に硯として再製作したためか、造り方は雑である。石色は小豆色を呈する。硯面の周囲には設計時の線が刻まれている。

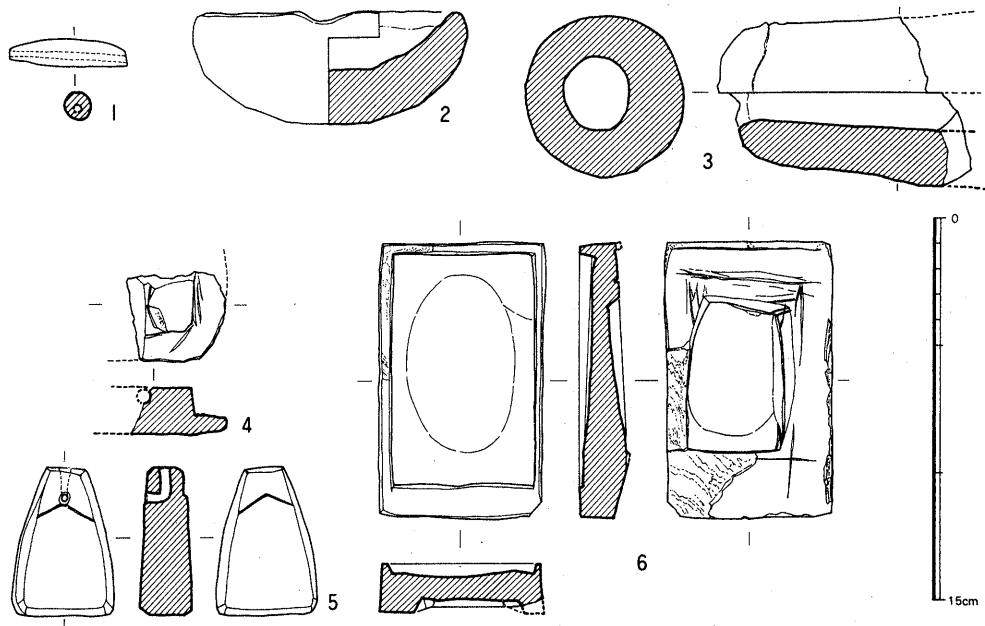


Fig 36. 土製品・石製品実測図

まとめ

調査の結果、条坊に関する遺構を含め顕著な遺構の検出にいたらず、観世音寺の前面での11世紀後半にいたるまでの土地の利用はうかがえなかった。それは、長徳二年（九九六）に観世音寺西南の左郭四条七坊八坊の無住荒廃の地壹町参段が開発されているが、その開発地の四至が「東限大野河 南限同河 西限寺大門 北限大路」とされていることと関連しよう。つまり大野河（御笠川）は五条大路の南に沿うように流れていたと思われ、流路の変更によって初めて平安末～鎌倉期の開発が可能となったのであろう。出土遺物では、黒褐色土層出土の遺物は13世紀後半から14世紀前半代のを多く含み、最下層の灰褐色土層出土の遺物は11世紀後半から12世紀後半代のを多く含んでいる。暗褐色土層出土のものには新、古の混在がみられるようである。

(3) 6 AYP地域

遺跡地は条坊復原案による右郭一、二条五坊の推定地にあたり、条坊を区画する道路など遺構の予想される地点であるが、土地は標高50mほどの独立した丘陵地となっており、道路遺構などの存在する可能性は薄い。区画整理の土取場用地として丘陵地は伐採をうけ、このことにより墳丘が一基確認されたことから緊急調査を実施することとなった。

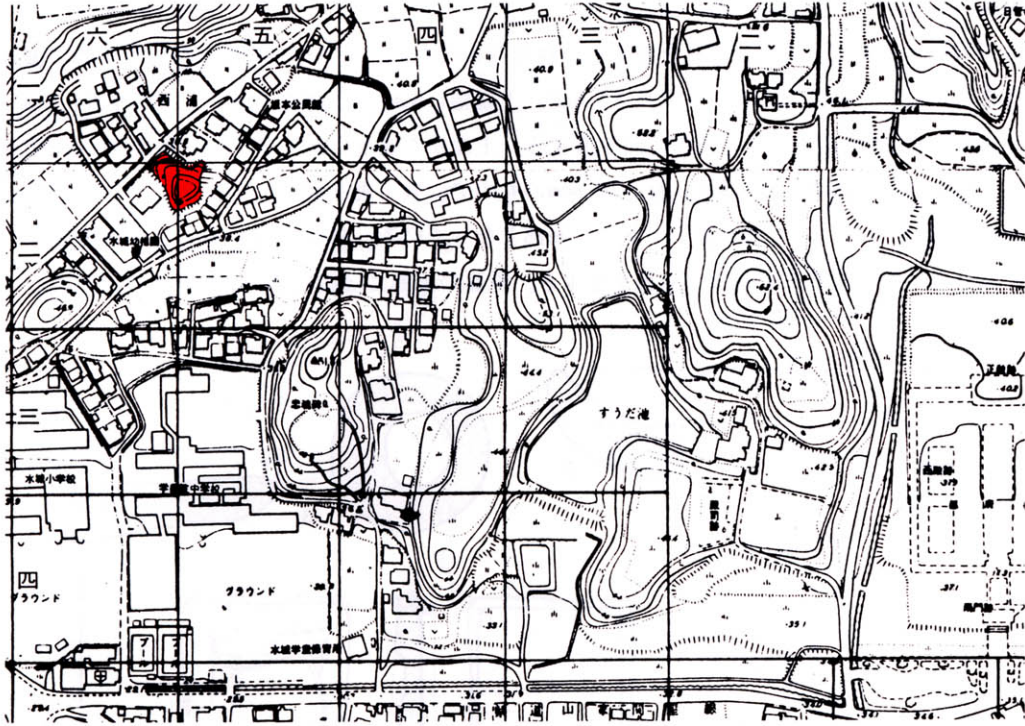


Fig 37. 6 AYP地区調査位置図 (1/5,000)

検出遺構 (Fig 38・39・40、PL 5・6)

SX085 墳墓と考えられ、低い墳丘を有する。墳丘は長径7.0m、短径5.0m、高さ0.9mで不整形プランをなす。盛土は黒色の旧表土の上に赤褐色を呈するごく大まかな積土を行なったものである。(Fig 39) 周溝、石列などの他の外部施設は認められない。主体部については全面調査を行なったにもかかわらず明確ではない。墳丘北側の断面には盛土の上面から掘りこむ径0.8mのピットが確認されたが、このピットは墳丘の中心をはずれており主体部としての可能性は薄い。後色の攪乱とも考えられる。結局、主体部の構造については解明できなかった。

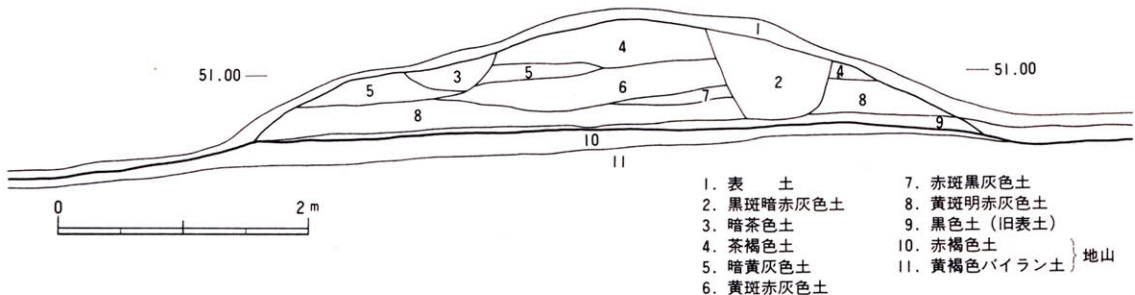


Fig 39. SX085 土層図

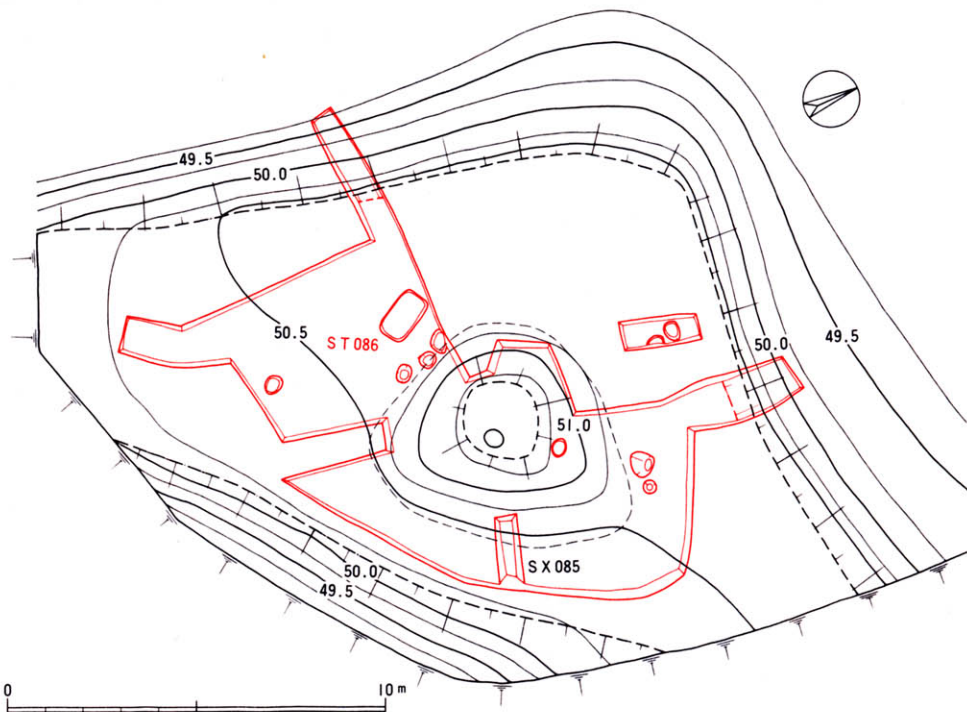


Fig 38. 地形図 (1/150) 発掘部分

ST086 (Fig 40) 墓壇は長方形プランで長軸は1.3m、南北の短辺は約0.8m、深さは約0.5mである。木棺などの痕跡は認められないため土塚墓と思われる。底面の北側よりには漆皿2点がやや底面より浮き、重なった状態で副葬される。SX085との重複関係はない。

出土遺物

漆皿 (PL27-I) ST086の副葬品である。2点出土したうち1点は保存が悪く細破片となっている。残る1点は木質部が完全に腐蝕し漆膜のみが遺存しているもので、これも保存状態は良好ではないが暗茶色の漆を内外に施し、「桐葉」様の文様を朱描きする。内面見こみの部分には3つを単位とし、外面体部には各1単位を3ヶ所に配置する。

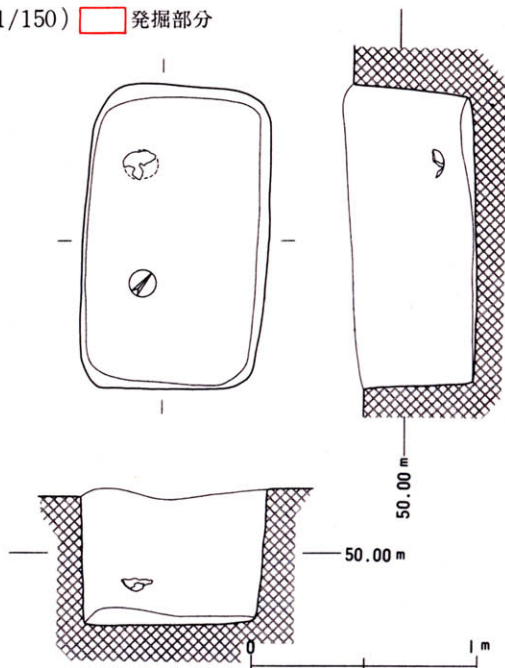


Fig 40. ST086 実測図

まとめ

ST086は漆皿などの遺物からみて中世頃と推定される。SX085については出土遺物はなく年代の決め手を欠いているが、ST086との関係から中世の墳墓として推定することも可能である。このように今回検出された遺構は中世の墓地群の一部と考えられよう。調査地点は、現在、独立丘陵状を呈しているが、従来は北東から南西へ長く連続する丘陵が後に削平をうけて現状のような地形に変形したものである。こうしたことから墳墓群は今回の地点のみでなく南北に分布していたことが推定される。今回検出された遺構も含め、中世の集落と墓地を検討することにより、太宰府条坊内の土地状況の変遷を伺い知ることができるであろう。

(4) 6 AYN-B地域

調査地点は条坊復原案による右郭十三条二坊の推定地にあたり、今回、住宅が建設されることになったため緊急調査を行った。

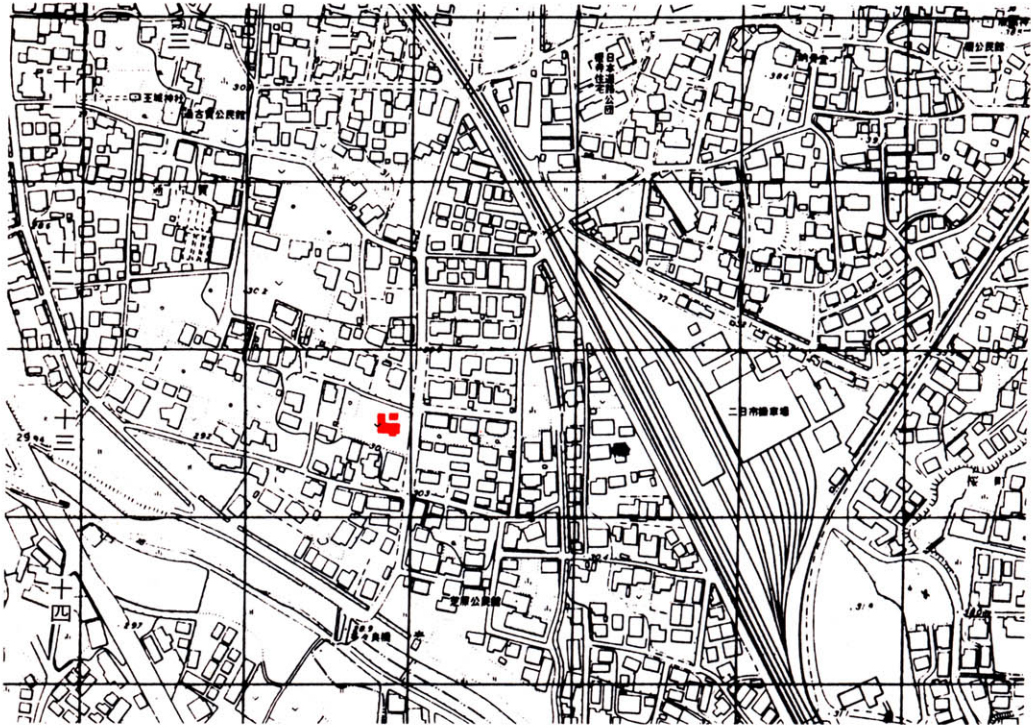


Fig 41. 6 AYN-B地域調査位置図 (1/5,000)

土層

新期の盛土を除去した後、上から表土、暗茶色土、黄色粘土の順に堆積し、遺構は黄色粘土から掘り込む。

検出遺構

SD087 南北溝で幅は約1m。

SD088 南北溝で幅は0.8m。SD091と平行して走り、一部SD091を切る。

SD091 幅0.8mの南北溝で一部SD088に切られる。

SD092 東西溝で幅0.8~1.0m。

SK089 長楕円形をした土塚で、北側一部は未発掘である。

幅1.2m、深さ0.5m。SK090と南北に並ぶ。

SK090 長楕円形をした土塚で南側一部は未発掘である。上面の幅は1.5~2.0mで、東側壁はゆるやかな勾配をもつ。検出した部分の地土は3.5m、深さ0.6m、中から多量の完形の土師器を出土した。

SK095 隅丸長方形をなす土塚である。一部は未発掘で検出した部分の長さは2.4m、幅は1.4m、深さは0.3mである。

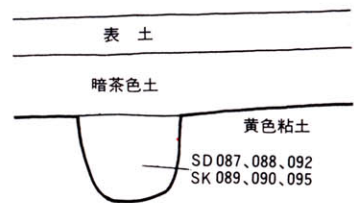


Fig 42. 6 AYN-B層位模式図

SK093 長方形の土壇で幅1.0m、検出した長さ1.7m、深さ0.3m。11世紀後半のもの。
 その他のピット群は出土遺物の範囲で、ほぼ平安時代のもと思われる。

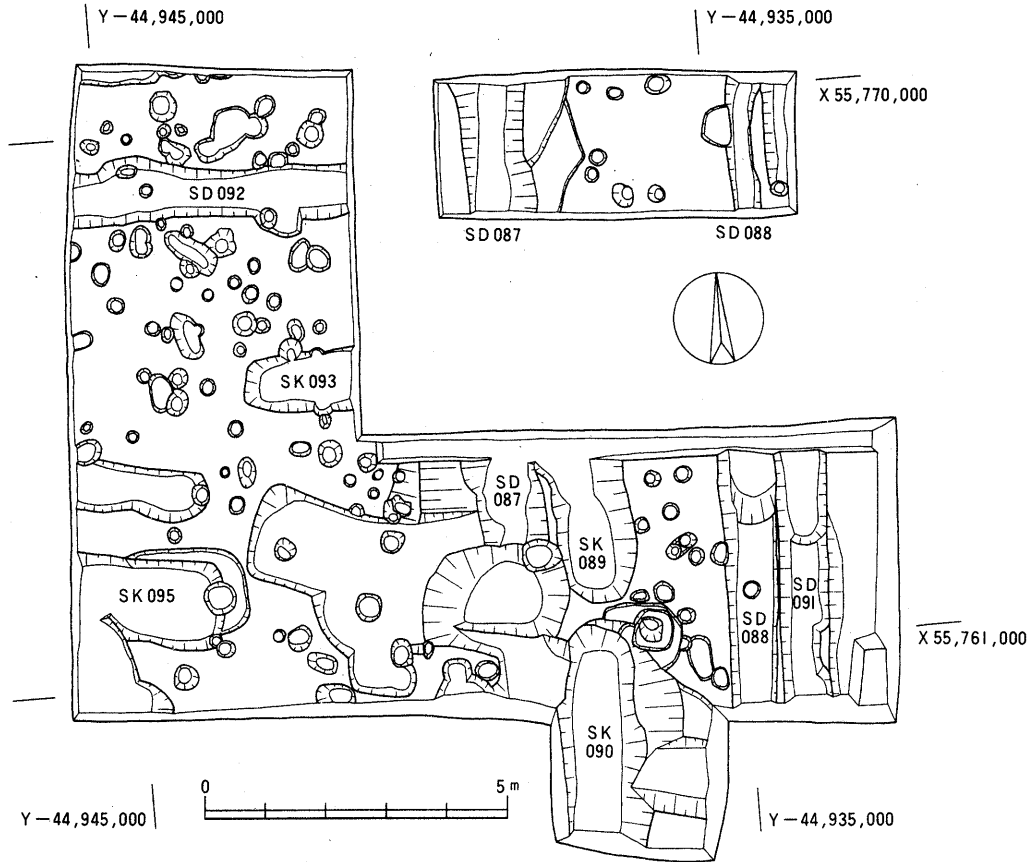


Fig 43 6 AYN-B

出土遺物

暗茶色土、表土出土土器 (Fig44、PL29)

白磁

碗 (1~3) 1・2はI-4類の口縁部、3はI-1類で底部外面は施釉しない。畳付は手持ちのへら削りにより凹凸がある。1は暗茶色土、2・3は表土出土。

越州窯系青磁

碗 (4・5) 4はIII類で内外全面に淡茶褐色釉を施す。外面底部見こみには、4ヶ所目あとがあるが、内面にはない。胎土は乳茶色を呈する。内面見こみに沈線状の段を有する。表土出土。5はI-2類で高台畳付は釉を掻き取る。表土出土。

壺 (6) I類の胎土と釉調をなす。内外面に光沢のある草色の釉を施し、胎土は茶色味の灰色をなす。暗茶色土出土。

緑釉陶器

皿 (7) 内面はへら磨き、外面はへら削りされ、内外面施釉される。胎土は須恵質のものである。暗茶色土出土。

壺(8) 外面はへら削り、内面に横なでを施す。内外に明るい黄緑色の釉を施す。胎土は黄白色で土師質のもの。暗茶色土出土。

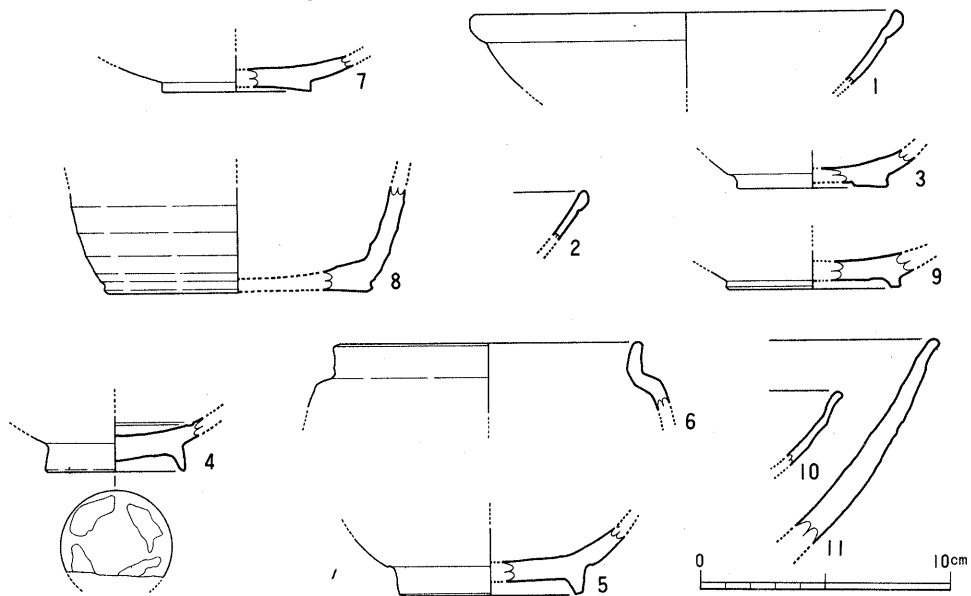


Fig 44. 表土・暗茶色土出土土器

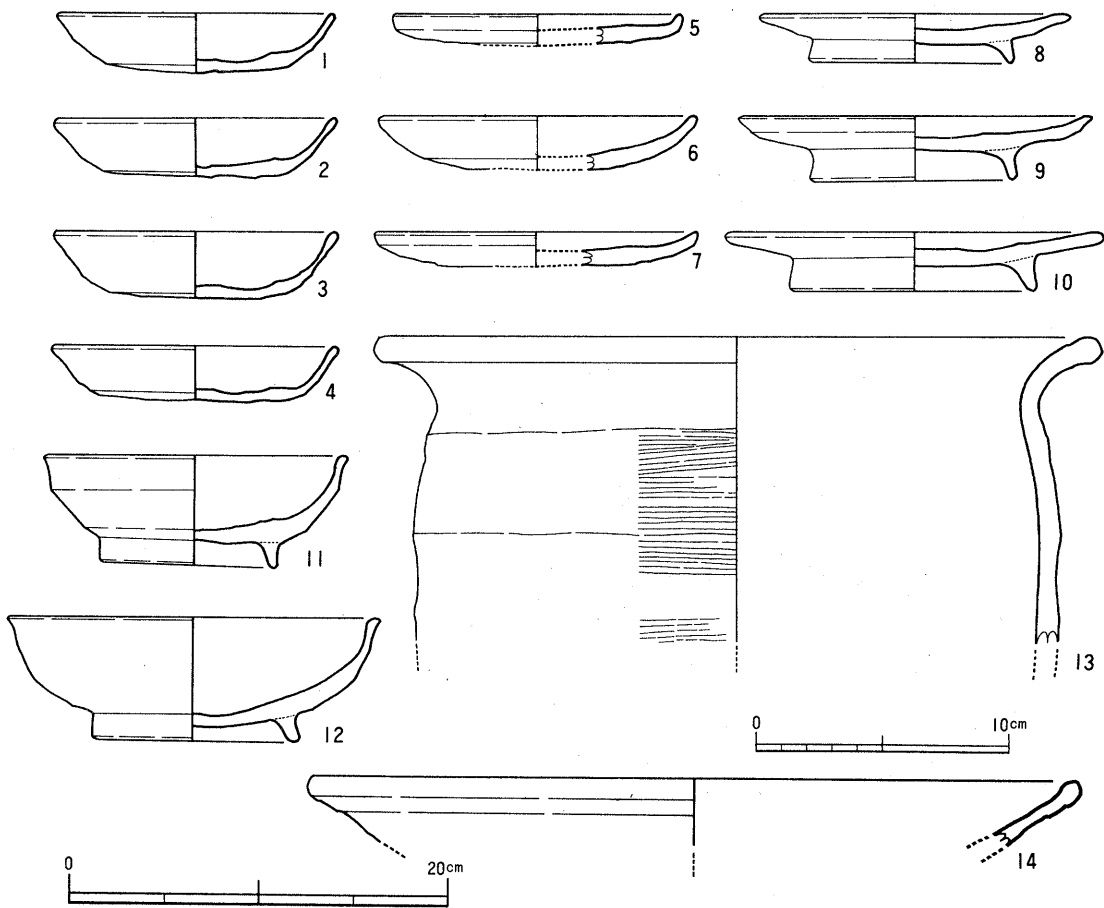


Fig 45. SK089 出土土器

灰釉陶器

9・10は椀で、9は外面高台見こみには施釉しない。胎土は黒色粒を含みあらい。11は鉢と思われる。内面にはまばらに釉が施され、外面にはほとんど釉がない。胎土に黒色粒含む。9～11は暗茶色土出土。

SK089 出土土器 (Fig45、PL30II、III)

土師器

坏 a (1～4) へら切りされ、計測可能なものは42個体である。底部内面中央のわずかな範囲になでを加えるものや全くなでを加えないもの(横なでのみ)もみられる。前者の場合には底部外面につく板状圧痕の範囲もなでの範囲に対応して中央一部につくことが多い。(付編P-8参照)口径10.4～12.0cm、器高1.8～2.9cm。平均口径11.3cm、平均器高2.5cm。

小皿 a (5～7) へら切りされる。口径11.6～13.0cm、器高1.2～2.1cm。

小皿 c (8～10) 口径12.3～14.9cm、器高2.0～2.6cm。

中椀 c₁(11) 体部に丸味を有する。口径12.0～13.6cm、器高4.1～5.1cm。

椀 c (12) 体部に丸味を有する。口径14.1～15.5cm、器高4.6～5.1cm。

甕 a (13) 口縁部内外面および体部内面は横なでされ、体部外面には横の刷毛目調整がある。

14は、復原口径41.0cmをはかる大形品であるが、破片のため器形は不明のもの。

PL31-bは、獣脚形土製品であるが、容器の脚部になるかもしれない。中間部を欠損し接合しない。下半部の現存する長さは9cm。cはbと同一種のもので、表土出土。

SK090 出土土器 (Fig46・47、PL28、30-I、別表)

土師器

坏 a (1～15) 底部はへら切りされる。計測の可能なものは200個体あり、法量、胎土、手法などの特徴により次の3群に分類できる。

I、器高2.4cm以下のもの。

II、器高2.5cm以上のもの。

III、口径12.2～13.0cm、器高2.6～3.3cmで、体部は丸味を持ちやや厚い器肉の一群(13～15)

I、II群は計195個体あり、口径10.2～12.4cm、器高1.9～3.3cmで、従来の分類によれば器高2.4cm以下のI群82個(大SK674型式)と器高2.5cm以上のII群113個(大SK678型式)とに大別される。しかし、器高数値の傾向は漸進的であることから、統計上ではI、II群を一括して平均的傾向をみる方が良いと思われる。I、II群195個体の平均口径11.4cm、平均器高2.5cm。SK089の出土土器と同型式と考えられ、底部内面に簡単ななでを施したり、あるいは全くなでを加えないものもある。

III群は計5個体で少なく、胎土はややざらついた厚手のつくりのものである。小皿aの一群と胎土、色調、焼成などが類似しており、共通の製作品ではないかと思われる。平均口径12.4cm、平均器高3.0cm。

小皿 a (16～21) へら切りされ、6個体ある。口径12.0～12.6cm、器高1.3～1.8cm、平均口径12.3cm、器高1.6cm。

小皿 c (22・23) 22・23は製作手法が小皿aと類似する。口径11.6～12.7cm、器高2.1～3.2cm。

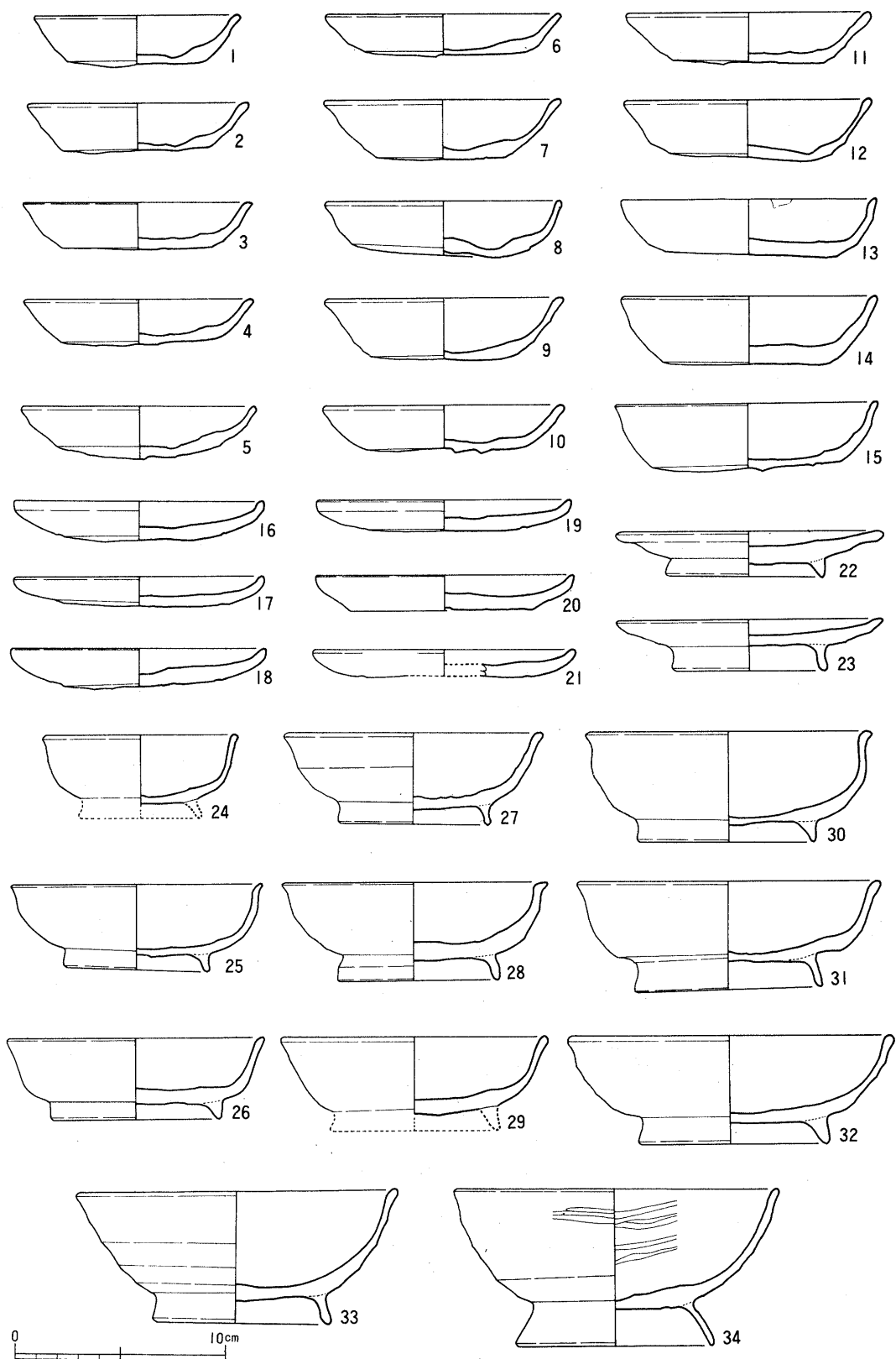


Fig 46. SK090 出土土器 (1)

小椀 c (24) 1点のみで、器種としてはまれである。口径9.5cm。

中椀 c₂(25~29) 26は坏 a のⅢ群に高台を付したものである。口径11.3~13.3cm、器高3.9~5.0cm。

椀 c (30~33) 体部に丸味を有するもの (30~32) と直線に近いもの (33) がある。口径13.8~17.1cm。器高5.2~6.3cm。

大椀 c (35) 高台が高く、深い坏部をもつ大形椀である。

鉢 (36) 口縁部は短く外反し、口縁部、体部の内外面に横なで、底部内面はなでを施す。外面は煤が付着する。

黒色土器

椀 (34) A類で、体部は丸味を有し、高台は細く高い。内面にはみがき c を施す。体部外面は上

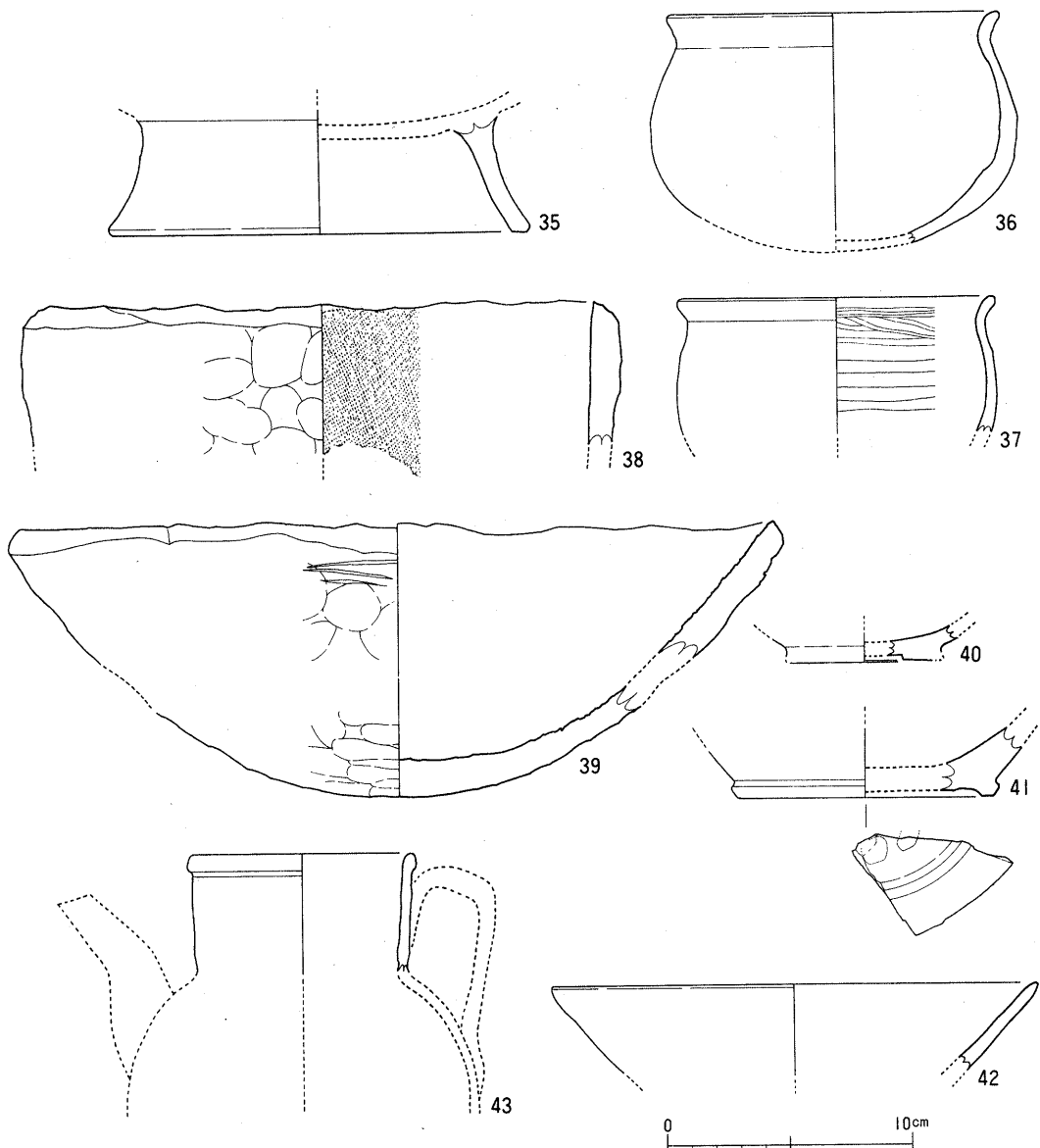


Fig 47. SK090 出土土器 (2)

中位に横なでを行なった後、一部にみがきcを施し、下位はへら削りする。口径15.6cm、器高7.5cm、底径9.5cm。

鉢 (37) A類、体部外面は横なで、内面はみがきcを施し燻している。外面は煤が付く。

製塩土器 (38・39、PL27II・III)

38は壺形で、外面は指押えで成形され凹凸が多い。内面には1cmあたり7～8本の目の布目がつく。破片の復原口径は25cmであるが、正円をなすかどうか不明のため、従来の出土例を参照するともっと小形のものに復原した方がよいかもしれない、39は内面1cm単位に4本前後のあらい布目を有する器肉の厚いもので、浅鉢形に復原したが小破片のため正確な器形は不明である。これらの製塩土器は本遺構に伴うものではなく、奈良時代のものが混入した可能性がある。

白磁

碗 (40) I-1類で、高台畳付から底部外面には施釉しない。

越州窯系青磁

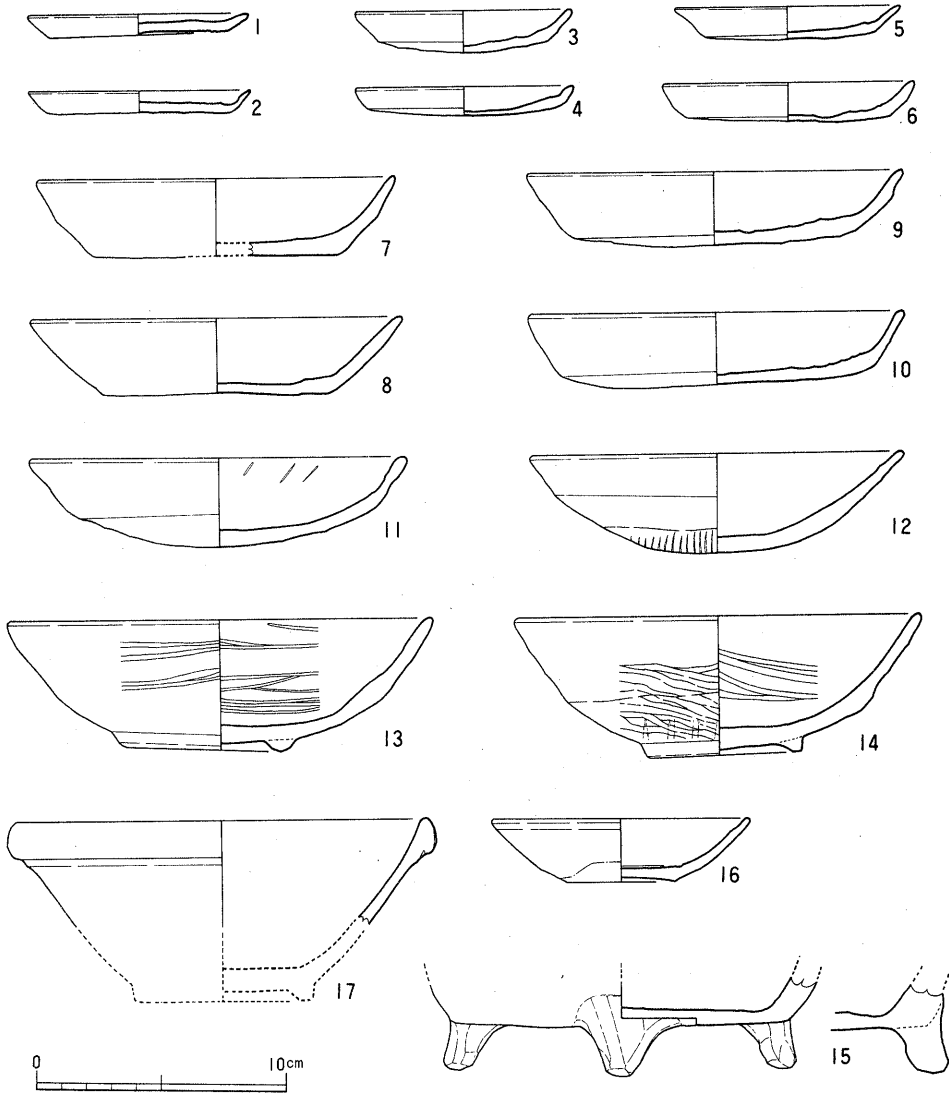


Fig 48. SK095 出土土器

椀(41・42) 41は大形の椀か鉢形のものと思われ全面施釉されるもので、I類に属する。外面高台見こみに目あとがあるが内面にはない。42はII-a～c類である。

水注(43) 6分の1の破片であり、把手や注口などの部分はないが一応、水注として復原した。内外光沢のある釉が施釉され、胎土は淡茶色味を呈する。口縁は玉縁状につくる。

SK095 出土土器 (Fig 48、PL29・31)

土師器

小皿 a (1～6) 計測可能な個体数24点のうち、1・2のように糸切りのものは6点ある。他はへら切りである。口径8.4～10.2cm、器高0.8～2.2cm。

坏 a (7～10) 計測可能な8個体のうち7・8は糸切りである。他はへら切りである。口径14.4～15.6cm、器高2.5～3.1cm。

丸底坏 a (11・12) 内面にはみがき b を施し、底部を丸く突出させた坏である。口径14.6～16.0cm、器高3.0～3.7cm。

その他15は底部のみ出土したもので、二脚が残存し復原すると三脚となる。鉢形の火舎のような器形を有するものであろうか。

瓦器

椀(13・14) 体部中位に鈍い屈曲を有し内外面にみがき c を施す。14の体部外面下半から底部にかけて器形の丸味に沿って板状圧痕がつくことから、内面に丸いものをあて底部を突出させた手法を構じたことがわかる。

その他、16は白磁皿VI-1 b、17は白磁椀IV類である。

遺構の時期と性格

遺構の時期

遺構は土器の型式より、次のように時期が推定できる。

SD087、088、091、092 087、088、092は出土遺物の範囲では11世紀後半頃と思われ、091は088から切られることからこれより若干、遡らせてよいと考えられる。

SK089、090 同一型式に属する土塚で、土師器坏 a の法量は、大SK678型式と大SK674型式の中間値を示していることから、2型式の中間頃に位置するものであろう。類似した型式のものに延長五年(927)銘の木簡を出土した大SD205Aがあり、年代の参考となる。

SK095 坏 a、小皿 a の法量とへら切り、糸切り手法の混在や、丸底坏 a の残存などから検討すると大SD1330の後半から大SK1204の2型式の間、12世紀初頭～中頃に推定される。

遺構の性格

土塚SK089、090は完形土器を数多く出土していることから、何らかの祭事に関連する遺構と思われる。

溝については政庁跡との位置関係を明らかにしておきたい。大宰府政庁跡の南門—正殿を結ぶ中軸線は国土調査法第II座標系からN0°34'24"E触れており、南門中心座標は〔X:56.708.68 Y:-44.820.73〕である。この中軸線の触れを考慮して計算すると、Fig 49のようにSD092心々と南門心々との南北距離は約940m、SD087心々と南門心々との東西距離は約108,30mを得る。SD087は政庁中軸線(推定朱雀大路中心線)から一町(108m)に近い数値をとることから、条坊遺構との関連

を考慮するうえで注目される。今回の調査により少なくとも11世紀には、推定右郭十三条二坊の一區画に条坊と関連した地割が存在することは肯定でき、10～11世紀前後の条坊内の状況を検討する材料となろう。なお奈良時代の遺構については調査範囲内では検出されなかったが、遺物は各遺構に混入しており周辺部に遺構の存在を予想させる。

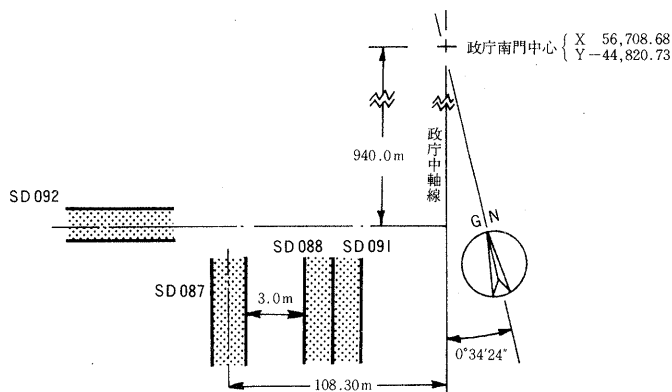


Fig 49. 政庁からの算出距離

瓦類 (Fig 50、PL18・21)

今回調査を行なった各地域から出土した瓦類のうち、軒丸瓦、軒平瓦、文字瓦および平瓦の顕著なものを以下の表にまとめた。

Tab 3

図版番号	名称	出土地及び層位	色調	焼成	胎土	備考
1	軒丸瓦	14トレンチ SX068	明灰色	良好	やや粗	単弁十四葉
2	〃	9トレンチ 灰褐色砂	暗灰色	良好	やや粗	複弁八葉
3	〃	14トレンチ	明茶褐色	良好	やや粗	単弁八葉
4	軒平瓦	14トレンチ	明茶灰色	良好	やや粗	扁行唐草
5	〃	6 AYN-B SX087	明灰色	良好	やや粗	斜格子
6	文字瓦	15トレンチ SK080	明灰色	良好	密	「四王」
7	〃	6 AYN-B 暗茶色土下層	明茶白色	良好	やや粗	「平井」
8	〃	9トレンチ 灰褐色砂	明灰色	良好	やや粗	「賀茂瓦」
9	平瓦	14トレンチ 南北トレンチ崩壊土	明灰色	良好	やや粗	叩目すり消し後へう状工具による斜格子
10	文字瓦	14トレンチ 灰褐色土	明灰色	良好	密	「太日」か？

古銭

各トレンチから発見された古銭類を以下の表にまとめた。

Tab 4

名称	出土地	径 (cm)	備考
熙寧元宝	11トレンチ 黒褐色土層	2.4	二枚が重なり合っており、下部の古銭については名称不明
熙寧元宝？	11トレンチ 表土	2.2	
元宝通宝	11トレンチ 土壌	2.4	
天聖元宝	12トレンチ SD060	2.4	
寛永通宝	9トレンチ 表土	2.3	
元豊通宝	14トレンチ 表土	2.5	
皇宋通宝	14トレンチ 黒褐色土	2.5	
太平通宝	14トレンチ 黒褐色土	2.5	
治平元宝	14トレンチ 表探	2.4	
？	14トレンチ 灰褐色土	2.2	

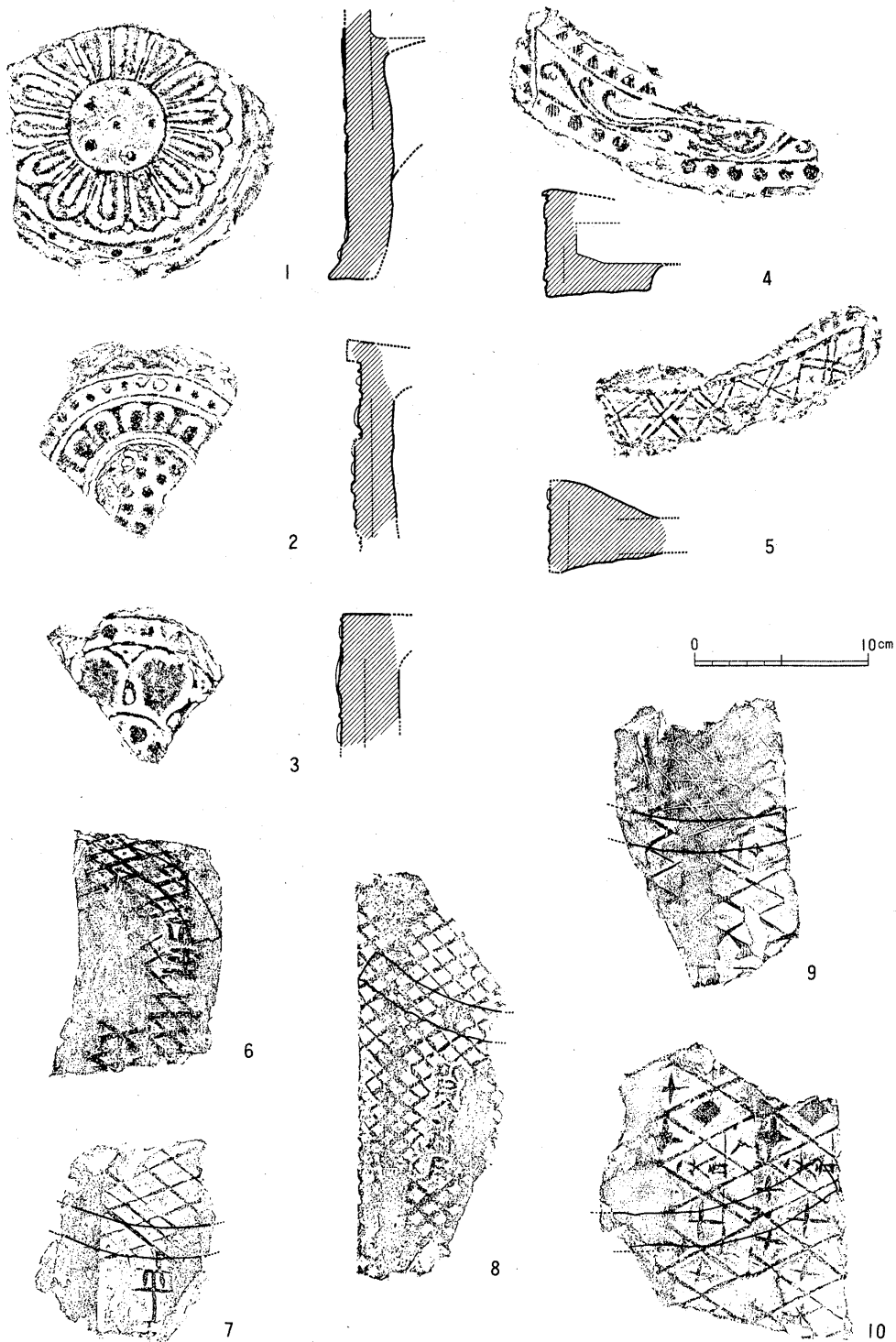


Fig 50. 各地域出土瓦類

別表 土師器の法量

A. 番号 B. 挿図番号 C. 内底のなでの有無 D. 板状圧痕の有無

単位cm

第11トレンチ 黒褐色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	2	8.8	1.2	6.5	○	×
	2	1	9.4	1.0	7.1	○	
小皿 a (ヘラ)	1	3	11.4	1.4	8.3	○	○

第11トレンチ 茶灰色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	10	8.6	1.3	6.7		
	2	11	9.2	1.1	7.2	○	○
小皿 a (ヘラ)	1	9	8.6	1.4	6.4	○	○
大皿 a (糸)	1	12	18.2	2.8	14.0		○

第11トレンチ 灰色砂

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
坏 a	1	15	10.6	2.0	7.4	○	×
	2	16	16.0	3.1	12.8		○
丸底坏 a	1	17	14.4	3.4			○
	2	18	16.4	3.2+			

第11トレンチ SX049

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	6	7.8	1.0	6.1	○	○
	2	7	8.6	1.1	6.0		
	3	8	8.6	1.1	6.7	○	○
	4		8.8	1.0	6.8	○	○

第11トレンチ SX045

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	4	9.2	1.2	7.6	○	○
	2	3	9.2	1.0	6.6	○	○
	3	5	9.2	1.4	7.1	○	○

第11トレンチ SK050

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1	6	8.6	1.4	6.8	○	○
	2	5	8.6	1.0	6.6	○	○
	3	3	8.8	1.1	6.2	○	○
	4	1	9.0	1.2	7.0		×
	5	2	9.0	1.2	6.2	○	×
	6	4	9.0	1.3	7.1	○	○
坏 a	1	7	16.0	3.0	9.6	○	○
	2	8	16.2	2.7	11.4	○	○
丸底碗 a	1	11	16.8	4.7	12.2		

第12トレンチ 灰白色砂

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1	11	8.2	1.3	5.6		×
	2	9	8.2	1.1	6.4	○	○
	3	8	8.8	1.3	6.3	○	○
	4	10	9.0	1.0	6.6	○	○
小皿 b	1	12	7.4	1.8	5.0	○	○
坏 a	1	13	13.0	3.0	7.7	○	○
	2	15	16.0	2.3	12.4		

第12トレンチ SD060

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 b (糸)	1	7	6.4	2.0	4.1	○	○
坏 a (糸)	1	4	15.0	2.7	10.2		
	1	2	12.8	3.0	7.4	×	×
坏 b (糸)	2	3			7.4	○	○
	3	5			6.1	×	×

第14トレンチ 黒褐色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	5	6.6	1.2	4.6	○	○
	2	6	6.6	1.2	4.7		
	3	7	7.1	1.2	6.1	×	×
	4	8	7.2	1.1	5.1	○	○
	5	9	7.4	1.2	6.1	×	×

	6	10	7.5	1.4	5.5	×	×
	7	11	7.5	1.3	5.3	○	×
	8	12	7.6	1.4	5.3	○	○
	9	13	7.6	1.4	5.4		
	10	14	7.9	1.0	6.0	○	○
	11	15	8.0	1.0	6.7	○	○
	12	16	8.0	1.6	5.6		○
	13	17	8.2	1.2	6.2	○	○
	14	18	8.2	1.3	6.4	○	
	15	19	8.5	1.3	6.4	○	
	16		8.6	1.5	7.2	○	○
	17		8.8	1.4	5.7	○	○
	18		9.1	1.2	6.8	○	○
	19		9.2	1.1	7.1	○	○
	20		9.2	1.2	6.6	○	○
小皿 b	1	1	6.8	1.9	4.3	○	○
	2	2	7.0	1.6	4.7	○	○
	3	3	7.2	1.6	4.7	○	○
	4	4	7.3	2.1	4.3		
	5	5	8.2	2.0	3.8		
坏 a	1	1	11.8	2.9	7.9		○
	2	2	12.0	2.7	7.3	○	○
	3	22	12.0	2.6	8.4		○
	4	23	12.2	2.8	7.9	○	○
	5	24	12.3	3.2	7.7	○	○
	6	25	12.3	3.0	7.9	○	○
	7	26	12.3	3.0	7.9		○
	8	27	12.4	2.6	7.5	○	○
	9	28	12.5	2.7	8.2	○	○
	10	29	12.6	3.0	8.4	○	○
	11	30	12.7	2.5	8.4	○	○
	12	31	13.0	2.5	8.6	○	○
	13	32	13.0	2.5	9.5	○	○
	14		14.0	3.0	9.3	○	○
	15		14.5	3.0	9.1	○	○

第14トレンチ 暗褐色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	1	8.0	1.4	6.6		○
	2	2	8.0	1.5	5.7		
	3	4	8.6	1.0	6.1	○	○
	4	3	8.8	1.0	6.0	○	○
	5	5	8.9	1.1	6.7		○
	6	6	8.9	0.9	7.2		○
	7	7	9.0	1.0	7.5	○	○
	8	8	9.0	0.9	7.3		
	9	9	9.2	1.2	7.6	○	○
	10	10	9.4	1.0	8.0	○	○
	11	11	9.8	1.2	7.4	○	○
	12	12	9.0	1.0	7.0	○	○
	13	13	(9.2)	(1.1)	(7.4)	○	○
	14	14	9.1	1.2	7.2	○	○
小皿 c	1	15	9.1	1.6		○	○
	2	16	9.2	1.6			
	3	17	9.4	2.0			
	4	18	9.9	1.8		○	○
	5	19	11.3	2.1		○	
坏 a	1	20	11.9	2.4	7.4	○	○
	2	21	12.0	2.7	8.0		
	3	22	12.2	2.7	8.1	○	○
	4	23	12.4	3.1	8.0		
	5	24	12.8	3.0	8.2	○	○
	6	25	13.4	3.3	9.4	○	○

(へラ)	7	26	14.8	2.5	11.1	○	○
	8	28	15.2	2.8	10.3	○	○
	9	27	15.8	2.5	11.7	○	○
	10	29	16.0	2.4	12.1	○	○
丸底坏 a	11	30	16.2	3.3	11.7		○
	1	31	14.9	3.1			○
	2	32	15.1	3.6			
	3	33	15.6	3.2			
瓦質坏(糸)	1	34	15.3	3.8	7.8	○	

第14トレンチ 灰褐色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D	
小皿 a(糸)	1	1	8.8	1.1	7.3	○	○	
	2	2	9.0	1.0	7.4	○	○	
	3	3	9.0	1.2	6.9	○	○	
	4	4	9.0	1.4	6.5	○	○	
	5	5	9.2	1.1	7.4	○	○	
	6	6	9.4	1.3	5.9	○	○	
	(へラ)	7		8.2	1.2	6.4	○	○
		8	7	9.0	1.5	6.4	○	○
		9		9.0	1.2	6.8	○	○
		10		9.2	1.3	7.7	○	○
	(手捏ね)	11	8	9.3	1.2	7.3	○	○
		12	9	10.0	1.4	8.9	○	○
		13		10.0	1.6	8.2	○	○
黒色土器B小皿	14	10	9.4	0.9	7.6			
小皿 c	1	11	11.0	1.6			○	
	1	12	9.2	1.6				
	2	13	9.4	2.0			○	
	3	14	9.4	2.0		○	○	
	4	15	9.9	2.5		○	○	
坏 a(糸)	1	16	17.0	2.6	11.5	○	○	
	2	17	15.7	2.9	11.4	○	○	
坏 c	1	18	18.9	4.7				
瓦器小椀	1	19	8.2	2.4				
	2	20	8.2	2.5				
瓦器椀	1	21	16.8					

第15トレンチ SK080

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 c	1	5	10.8	1.8	6.7		×
坏 a	1		10.2	1.9	7.0		×
	2	1	10.4	1.9	7.0	○	○
	3		10.9	2.2	7.0	○	○
	4	3	11.2	1.8	7.4		○
	5	2	11.4	2.1	7.5		○
	6	4	11.9	1.9	7.6	×	○
中椀 c	1	6	13.0	5.9	7.6	○	×
椀 c	1	7	15.8	6.2	9.1		

6 AYN-B SK089

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1	5	11.6	1.2	6.1		
	2	6	12.8	2.1	9.0		
	3		13.0	1.5	8.7		○
	4	7	13.0	1.3	7.9		
小皿 c	1	8	12.3	2.0	8.1		○
	2		12.5	2.2	6.8		×
	3		13.3	2.5	7.5		
	4		13.7				
	5	9	14.0	2.6	8.2		
	6	10	14.9	2.3	9.8		
坏 a	1		10.4	2.2	7.2	○	○
	2		10.5	2.5	6.9		○
	3		10.7	2.4	7.1		○
	4		10.8	2.6	6.8		○
	5		10.9	2.4	7.5	○	
	6		11.0	2.5	6.9	○	○
	7		11.0	2.4	7.0		○

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D	
坏 a	8		11.0	2.5	6.8		×	
	9		11.0	1.8	7.4	○	○	
	10	1	11.1	2.4	7.2		○	
	11		11.1	2.4	7.1		○	
	12		11.2	2.2	7.1		×	
	13		11.2	2.9	6.3		○	
	14		11.2	2.8	6.2		×	
	15		11.2	2.5	7.1	×	○	
	16	2	11.2	2.3	7.3		○	
	17		11.2	2.4	6.9		○	
	18		11.3	2.6	7.4	○	○	
	19	3	11.3	2.6	7.0		×	
	20		11.3	2.4	7.4	○	○	
	21		11.3	2.5	7.7		○	
	22		11.4	2.5	6.1	×	○	
	23		11.4	2.4	7.5	×	○	
	24		11.4	2.7	7.0		×	
	25		11.4	2.6	7.0	○	○	
	26		11.4	2.6	6.9		○	
	27		11.4	2.4	8.1		○	
	28		11.4	2.3	7.6		○	
	29		11.5	2.5	7.2			
	30		11.5	2.3	7.1		○	
	31		11.5	2.5	6.8		×	
	32		11.5	2.4	7.0		○	
	33	4	11.5	2.1	8.5	×	×	
	34		11.5	2.8	7.1	○	×	
	35		11.6	2.8	7.3		×	
	36		11.6	2.5	7.9		×	
	37		11.6	2.5	6.7		○	
	38		11.6	2.8	7.4		○	
	39		11.7	2.8	7.4		×	
	40		11.8	2.7	6.8		×	
	41		11.9	2.4	7.9		○	
	42		12.0	2.5	7.5		×	
	中椀 c	1		12.0	4.2	6.7	×	○
		2	11	12.1	4.4	7.0	○	○
		3		12.4	4.1	7.4		○
		4		12.7	4.8	7.5		
		5		12.7	4.5	7.9		○
		6		12.8	4.4			
		7		12.8	4.6	7.0	○	×
8			12.8	4.9	7.1		○	
9			13.2	5.1	7.7		×	
10			13.6	4.6	7.1			
椀 c	1		14.1	4.6	8.2			
	2	12	14.9	4.9	8.2			
	3		15.5	5.1	8.0	×	○	

6 AYN-B SK090

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D	
小皿 a	1	17	12.0	1.4	8.3		○	
	2	16	12.1	1.8	7.5	○	○	
	3	19	12.2	1.5	7.3	○	○	
	4	18	12.2	1.8	7.2		○	
	5	20	12.5	1.7	8.7	○	○	
	6	21	12.6	1.3	7.6			
	小皿 c	1		11.6	2.3	6.7	○	×
		2		12.4	2.2	7.5		
		3		12.7	2.4	6.6	○	○
4			12.8	2.8	7.4		×	
5			13.0	2.3	8.5	○	×	
6			13.0	3.2	7.1	×	×	
7			13.2	2.7				
8			14.0	2.8	7.8	○	○	
9		22	12.7	2.1	7.3		×	
10		23	12.7	2.5	7.4			

环	a							
(I·II)		1	10.2	2.3	6.8	○	○	
		2	10.2	2.2	6.6		×	
		3	10.4	2.4	5.6	○	○	
		4	10.5	2.0	7.2			
		5	10.6	2.4	6.9	○	○	
		6	10.6	2.8	5.8	○	○	
		7	10.6	2.6	6.9	○	×	
		8	10.6	2.0	7.6		×	
		9	10.6	2.5	6.3	○	○	
		10	10.6	2.2	6.6		×	
		11	2	10.7	2.2	7.0	×	×
		12		10.7	2.2	7.4		×
		13		10.8	2.5	7.3	○	○
		14		10.8	2.3	7.1	○	○
		15		10.8	2.4	7.3	○	○
		16		10.8	2.5	7.3	○	×
		17		10.8	2.2	7.5		○
		18		10.9	2.9	6.2	×	×
		19		10.9	2.8	7.4		○
		20	3	10.9	2.2	7.1	○	○
		21		10.9	2.2	7.2	○	○
		22		11.0	2.4	7.8	○	×
		23		11.0	2.5	7.1	×	○
		24		11.0	3.1	7.2	○	×
		25		11.0	2.5	7.5	○	○
		26		11.0	2.8	6.6		○
		27		11.0	2.5	6.8	○	○
		28		11.0	2.1	7.2		
		29		11.0	2.2	7.4		○
		30		11.0	2.0	7.1		×
		31		11.0	2.2	6.6		
		32		11.0	2.6	7.3		
		33	4	11.0	2.2	7.3		○
		34		11.0	3.3	6.4	○	○
		35		11.0	2.9	6.8	×	○
		36		11.0	2.5	7.4	○	○
		37		11.0	1.9	7.2		○
		38		11.0	2.2	7.0		○
		39		11.0	2.6	7.6		○
		40		11.1	2.6	7.1	○	○
		41		11.1	2.2	7.8	○	
		42		11.1	2.8	7.8	○	○
		43		11.1	2.4	6.6	×	×
		44		11.1	2.4	7.8	○	○
		45		11.1	2.3	7.8	○	○
		46		11.1	2.6	6.7		
		47		11.2	2.1	6.9	○	○
		48		11.2	2.7	7.2	○	○
		49		11.2	3.0	7.9		
		50		11.2	2.7	7.6		○
		51		11.2	2.7	7.2	○	○
		52		11.2	2.5	7.6	○	
		53		11.2	2.8	7.9		
		54		11.2	2.7	6.9	○	○
		55		11.2	2.6	7.6	○	○
		56		11.2	2.3	6.7	×	○
		57		11.2	2.7	6.6	×	
		58		11.2	2.4	7.2	○	○
		59		11.2	2.3	7.6		
		60		11.2	2.8	7.0		○
		61		11.2	2.4	7.0	×	×
		62		11.2	2.2	7.6		
		63		11.2	2.3	7.4		
		64		11.2	2.4	7.3	○	○
		65	5	11.2	2.5	7.8	×	○
		66		11.2	2.7	7.3	○	○

环	a							
		67	11.2	2.1	7.0			○
		68	11.2	2.5	7.0	○	○	
		69	11.2	2.3	7.2			×
		70	11.2	2.3	7.3			○
		71	11.2	2.6	7.4			○
		72	11.2	2.9	7.6	○	×	
		73	11.2	2.4	7.5			×
		74	11.2	2.7	7.5			○
		75	11.2	2.6	6.3	○	○	
		76	6	11.3	1.9	7.7	×	○
		77	10	11.3	2.3	7.4	○	
		78		11.3	2.4	7.3	○	○
		79		11.3	2.5	7.8		
		80		11.3	2.9	7.4	○	○
		81		11.3	2.2	7.2	×	○
		82		11.3	2.3	7.6	○	○
		83	7	11.3	2.7	6.1		○
		84		11.3	2.4	7.2		○
		85		11.3	2.7	6.6	×	×
		86		11.3	2.5	7.6	○	○
		87		11.4	2.8	7.4		○
		88		11.4	2.6	7.2		○
		89		11.4	2.5	7.7		
		90		11.4	2.5	7.4	×	○
		91		11.4	3.0	6.8	○	○
		92		11.4	2.4	6.4	×	×
		93		11.4	2.7	7.3	×	×
		94	8	11.4	2.5	8.5	×	○
		95		11.4	2.9	7.3	×	○
		96		11.4	2.4	7.4	×	×
		97		11.4	2.3	7.3	○	×
		98		11.4	2.5	7.4		○
		99		11.4	2.1	7.5	×	○
		100	12	11.4	2.3	7.7	×	○
		101		11.4	2.7	7.0	○	○
		102		11.4	2.2	7.2		○
		103		11.4	2.2	7.3	○	○
		104		11.4	2.6	7.8		○
		105		11.4	2.9	6.8	○	×
		106		11.4	2.5	7.2		
		107		11.5	2.5	8.4		○
		108		11.5	2.5	7.5	×	×
		109		11.5	2.4	8.8	×	×
		110		11.5	2.5	7.7	○	
		111		11.5	2.2	8.3	×	×
		112		11.5	2.4	7.6	○	○
		113		11.5	2.8	7.0	○	○
		114		11.5	2.4	6.8	○	○
		115		11.5	2.7	6.8	○	○
		116		11.5	2.6	7.5		×
		117		11.5	2.7	7.8	○	○
		118		11.6	2.5	7.0	○	○
		119		11.6	2.8	7.5	×	○
		120		11.6	2.4	6.8	○	○
		121		11.6	2.5	7.7	×	○
		122		11.6	2.5	6.6	×	○
		123		11.6	2.6	7.0		
		124		11.6	2.6	6.9		○
		125		11.6	2.8	7.3	○	○
		126		11.6	2.7	7.2	×	○
		127		11.6	2.5	7.1	○	○
		128		11.6	2.6	7.9		○
		129		11.6	2.5	7.8		
		130		11.6	2.5	7.2		
		131		11.6	2.0	7.3	×	×
		132		11.6	2.2	6.9	○	○

坏	a	133		11.6	2.2	7.0		○		
		134		11.6	2.8	7.2		○		
		135		11.6	2.2	7.9		○	○	
		136	9	11.6	2.8	7.0	×	×		
		137		11.6	2.2	7.2				
		138		11.6	2.1	7.6				
		139		11.6	2.4	7.7		×		
		140		11.6	1.9	8.7		○		
		141		11.6	2.3	9.0		○	○	
		142		11.6	2.3	7.3		○	○	
		143		11.6	2.6	7.6	×	○	○	
		144		11.6	2.5	7.0	×	○	○	
		145		11.6	2.4	7.0		○	×	
		146		11.6	3.1	7.1		○	○	
		147		11.6	2.9	6.7		○	×	
		148		11.6	2.4	7.4		○	○	
		149		11.6	2.8	7.3		○	×	
		150		11.6	2.8	7.3		○	○	
		151	11	11.7	2.3	7.2		○	○	
		152		11.7	3.1	7.3		×	×	
		153		11.7	2.5	7.6		○	○	
		154		11.7	2.8	6.8		×	×	
		155		11.7	2.1	7.6		○	○	
		156		11.7	2.4	7.2				
		157		11.7	2.3	7.1				
		158		11.7	2.7	8.0		○	×	
		159		11.7	2.6	7.0		○	○	
		160		11.7	2.4	6.8		○	○	
		161		11.8	2.4	6.8		○	○	
		162		11.8	2.3	7.2		○		
		163		11.8	2.4	7.7		○	○	
		164		11.8	2.5	6.9		○	○	
		165		11.8	3.0	7.6		○	○	
		166		11.8	2.6	7.0				
		167		11.8	2.6	6.6				
		168		11.8	2.4	8.2				
		169		11.8	2.8	7.8	×	○		
		170		11.8	2.1	8.1				
		171		11.8	2.3	7.5		○	○	
		172		11.8	2.7	6.8		○	×	
		173		11.8	2.8	6.8		○	×	
		174		11.8	2.9	7.6		○	○	
		175		11.8	2.8	8.3			○	
		176		11.9	2.5	7.4				
		177		12.0	2.8	7.3		○		
		178		12.0	3.1	7.8		○	○	
		179		12.0	2.3	7.6		○	○	
		180		12.0	2.7	8.3				
		181		12.0	2.1	7.1				
		182		12.0	2.7	7.2				
		183		12.0	3.1	6.5		○	×	
		184		12.0	2.6	6.7			×	
		185		12.0	2.8	8.4			○	
		186		12.0	2.5	7.2	×	×		
		187		12.0	2.6	7.6		○	○	
		188		12.0	2.1	7.3		○	○	
		189		12.0	2.7	7.2		○	×	
		190		12.2	2.4	8.9				
		191		12.2	2.7	8.2				
		192		12.2	2.3	6.8		○	○	
		193		12.2	2.5	6.0			×	
		194		12.3	2.7	7.2				
		195		12.4	2.7	7.4				
	(III)		196	14	12.2	3.2	8.0		○	○
			197	13	12.2	2.6	8.1		×	×
			198		12.2	2.8	8.2		×	×

坏	a	199	15	12.5	3.1	8.5		○	○	
		200		13.0	3.3	8.9		○	○	
	小 碗	c	1	24	9.5	3.2+				
	中 碗	c	1		11.3	4.0	6.7			
			2		11.6	4.4	7.2		○	
			3		12.0	4.6	7.9			×
			4		12.2	4.3	6.8		○	
			5		12.2	4.7	7.5			
			6		12.2	4.8	6.7		○	○
			7		12.2	4.4	7.0			
			8	25	12.2	4.1	7.0			○
			9		12.4	4.5	7.4		×	○
			10		12.4	4.1	7.8			
		11		12.4	4.4	7.3		○		
		12		12.4	5.0				×	
		13		12.4	4.1	7.2			○	
	14		12.5	4.2	7.3		○	×		
	15	27	12.5	4.3	7.3		×	×		
	16		12.6	4.0				○		
	17		12.6	4.7						
	18		12.6	4.5	7.8			×		
	19		12.6	4.5	7.5		○	×		
	20	28	12.7	4.7	7.7			×		
	21		12.7	4.4	7.2					
	22		12.7	4.3	7.9					
	23		12.7	4.7	7.7		×	○		
	24		12.8	4.4	7.7		○	×		
	25		12.8	3.7+			×	○		
	26		12.8	4.2	7.1		○			
	27		13.0	4.6	7.8			○		
	28		13.0	4.7	7.2		○			
	29		13.1	5.0	7.6		○	×		
	30		13.2	4.3	7.4		○	×		
	31		13.2	4.5	7.5		○			
	32		13.2	4.7	7.9			○		
	33		13.3	4.5	7.4		○	○		
	34	26	12.2	3.9	8.0		○			
碗	c	1		13.8	5.2	8.5				
		2		14.5	5.4	8.0			○	
		3		14.5	5.2			○	○	
		4		14.6	5.2	8.9		×	○	
		5		14.8	5.8	8.2			○	
		6		14.8	5.7	8.7			○	
		7		15.0	5.3	7.9				
		8		15.0	5.6	8.6		×	×	
		9		15.2	5.4+				×	
		10	33	15.4	6.3	8.5		×	○	
		11	32	15.5	5.1	9.0		×	○	
		12		15.6	4.1+				○	
		13		17.1	4.8+					

6 AYN - B SK095

器 種	A	B	口 徑	器 高	底 徑	C	D	
小 皿 a △ (△糸) △	1		8.4	1.0	7.0	○		
	2		8.4	0.9	6.7	○	○	
	3		8.5	1.2	7.3	○	○	
	4		8.5	1.0	6.8	○		
	5		8.6	1.3	7.1	○	○	
	6	3	8.7	1.7	6.8	○	○	
	7		8.8	1.2	7.1	○	○	
	8		8.8	1.3	7.1	○		
	9		3.8	1.3	7.6		○	
	△	10		8.9	1.0	7.8		○
		11	4	8.9	1.2	7.6		○
	△	12		9.0	1.5	7.6	○	○
		13		9.0	1.1	7.6	○	○
		14		9.0	1.7+			

△	15	5	9.0	1.3	6.9	○	○	
	16	1	9.0	0.8	7.2	○	○	
	△	17	2	9.0	0.9	7.4	○	○
		18		9.2	1.4	7.1	○	○
		19		9.2	1.1	7.4	○	○
		20		9.4	1.4	7.3	○	○
		21		9.5	1.3	7.5	○	
		22		9.5	2.2	8.1		
		23		9.6	1.3	7.3		×
		24	6	10.2	1.6	8.2	○	○
	坏 a △	1	7	14.4	3.1	9.8	○	○
		2		15.0	2.5	12.0		
3			15.0	2.9	10.6	○	○	
△		4	8	15.0	3.0	9.2		
		5	9	15.1	2.9	11.3	○	×
		6	10	15.1	2.8	12.5	○	○
		7		15.1	2.6	12.0	○	○
		8		15.6	3.1	11.5	○	○
丸底坏 a	1		14.6	3.3	11.5		×	
	2		15.0	3.0	11.8		○	

	3		15.0	3.4	11.9		○
	4		15.0	3.4	11.7		○
	5		15.0	3.0	12.2		○
	6	12	15.0	4.0	12.4		○
	7		15.1	3.3	12.9		○
	8		15.2	3.4	12.2		○
	9		15.2	3.0+			
	10		15.3	3.6	11.9		○
	11	11	15.3	3.6	11.9		○
	12		15.4	3.5	10.8		○
	13		15.5	3.7	13.1		○
	14		15.5	3.3	11.6		
	15		15.5	3.2+	12.0		
	16		15.5	3.5	12.3		×
	17		15.6	3.2	12.0		○
	18		15.6	3.7	13.5		○
	19		15.6	3.5	12.3		○
	20		16.0	3.3	12.8		○
	21		16.0	3.0	13.4		○

別表 遺構・層位出土遺物一覽表

() 点数 ● 参照 ○ 写真参照

SK031

土師器	・小皿a(1) 碗c	・丸底坏a(1)	
青磁	越州窯系 碗	I(1)	
SD035			
須惠器	坏c 壺 甕		
土師器	・小皿a		・丸底坏a 坏 碗c 甕
黑色土器	A	碗c	
	B	破片	
青磁	越州窯系 碗	I-1 b(1) II	
白磁	碗	・碗(1)	
		破片(1)	
青白磁	・碗?(1)		
瓦類	軒丸(1)		

SD036

須惠器	壺	
土師器	中碗c	
青磁	越州窯系 破片(1)	
白磁	碗	IV(3)
	皿	・III(1) ・VII-1(1)
		破片(5)
陶器	無釉(1) A(1)	
石製品	石鍋	

第11トレンチ 茶灰色土

土師器	・小皿a 坏a		・大皿a
青磁	越州窯系	壺	(1)
	同安窯系	碗	(1)
白磁	碗	IV-1 a(4) V-2(1) 他(2)	
	皿	VI-1 a(2) VI-1 b(1) III(1)	
陶器	A' ・b 壺(1)		

第11トレンチ 灰色砂

土師器	・小皿a			・丸底坏a	・坏a	・小碗?
瓦器	破片					
白磁	碗	II-3(1) V(1) 他(3)				
	皿	VI-1 a(1)				
灰釉	破片					

SD041

土師器	・小皿b 坏a		
白磁	碗	II(2) V~VIII(1) 他(2)	
	皿	・III(1) V~VIII(1) ・IX-1 b(1) IX(1)	
		四耳壺(2)	
陶器	黄釉(1) 陶器片(1)		

SX042

青磁	龍泉窯系	碗	I-5 b(1)
		小碗	・III-1(1)
		破片(1)	
白磁		破片(1)	
瓦質土器	片口		

SX043

土師器	・小皿a		
青磁	龍泉窯系	碗	I-1~4(1)
	同安窯系	碗	破片(2)
白磁	碗	破片(1) V~VIII(1)	
	皿	VII(2)	
		破片(1)	
金屬製品	鉄器(1)		

SX040

土師器	・小皿a			・坏a
瓦器	小皿a(1)			
青磁	同安窯系	皿	I-1 a(1)	
白磁		破片(2)		
金屬製品	鉄鎌?(1)			

SX046

土師器	坏a			
青磁	龍泉窯系	碗	I-1~4(1)	
			破片(1)	
白磁	碗	V~VIII(2) IV(1)		
	皿	VI-1 a(1) VII-1(1)		
		四耳壺(1)		
瓦質土器	片口			
陶器	褐釉壺片(1)			

陶器	B'	・蓋?(1)
石製品	滑石片	

SX047

土師器	・小皿 a	
白磁	椀	IV(2)
	皿	IX-1(1) VIII(1)
石製品	石鍋片(1)	

SX051

須恵器	壺	
瓦器	・椀 c	
青磁	同安窯系	椀 破片
白磁	椀	V~VIII(2) 破片(2)
石製品	滑石製品	

SX049

土師器	・小皿 a	
青磁	龍泉窯系	椀 I-5b(2) I-1~4(2)
		椀 V
白磁	皿	IX-1d(1)
		四耳壺(1) 破片(8)
瓦質土器	片口	
石製品	石鍋	
金属製品	鉄釘(2)	

SX050

土師器	・坏 a ・小皿 a ・大坏 c ・丸底椀 a	
瓦器	・椀 小皿 a	
白磁	椀	V-2ないしVII(1) V-4b(4) V(1) V-1ないしVIII-2(2) IV-1a(1)
	皿	・III(3) ・IV(1) 破片(5)
青白磁	破片(1)	
瓦質土器	・鉢 ・甕 片口	
陶器	鉢	・I-1b(1)
		B(1) ・B'-a 鉢(1) ・古瀬戸系 四耳壺(1)
瓦類	丸瓦	
石製品	石鍋	

SD060

土師器	小皿 a ・ b ・丸底坏 a ・坏 a ・ b	
瓦器	破片	
青磁	龍泉窯系	椀 I-1~4(3) ・I-5a(1) ・I-5b(5) ・I-4b(1) ・III-2(2)
		坏 ・III-5(1) III(1) 坏ないし小椀III(1) 壺(1)
	同安窯系	椀 I(2) II?(1)
		皿 I(3) 高麗(1)
白磁	椀	・VIII-2~3(2) IV(1) V~VI(1) ・V-4b(3) V~VIII(3) ・VIII(1) ・VII(2)
	皿	・VI-1a(3) IX(3) IX-1(2) ・IX-2(1) ・II-1a(1) 破片(8) ・四耳壺(2) ・壺(1) ・枢府坏(1)
青白磁	合子	・(2) 梅瓶(1)
緑釉	・盤	
土師質土器	・片口 鉢	
瓦質土器	・片口 ・火舎	
陶器	甕	・I(1)
	鉢	・III(1) V?(1) ・A-a(1) ・D'(1) E(1) ・陶器(2) ・常滑?(1)
石製品	石鍋(2) 砥石	

第12トレンチ 暗灰色砂

青磁	龍泉窯系	椀 I-1~4(2)
----	------	------------

白磁	椀	II-1・2(1) IV(1)
	皿	IV~VII(1) ・VII-1a
金属製品	鉄釘(1)	

第12トレンチ 灰白色砂

土師器	・坏 a ・小皿 a ・ b	
青磁	越州窯系	椀 I-2(1)
		龍泉窯系
		坏 III?(1)
		皿 I(1) 高麗椀(1)
白磁	椀	II?(1) ・II-3a(1) ・IV-1a(1) ・V-3(1) ・V-4a ・VIII-2orV-II(1) ・II-1a(1) ・VI-a(1) 1b ・V(2) ・VII?(1) ・IX(2) ・壺片(1) 破片(3)
	皿	
	灰釉	・壺(1)
陶器	盤	・b(1)
	壺	IV?(1) ・A-a(1) ・D-a(1) ・A-b(1)

第14トレンチ 表土 ・ その他

青磁	越州窯系	椀	・I-2
			壺(2)
	龍泉窯系	椀	・I-1~5
		坏	・III-3
	同安窯系	皿	・I-1a
		椀	I-1 ・I-1b
白磁	椀	I-1 ・I-2 高麗・李朝 ・椀(1) ・小椀(1) ・IV-1a ・II-1~3 ・V1-4 ・VI~VII	
	皿	・VI-1a・b ・IX-1・1d ・IV ・II-1a ・VII-1b 四耳壺	
青白磁	合子	・壺 ・梅瓶	
緑釉	椀		
陶器	甕	I~IV(1) IV(1)	
	小盤	・II-1	
	四耳壺	・VII(1)	
	鉢	・II(1) ・B-a 茶入(1) ・A'-a(1) ・C(1) ・B'(1) 近世陶器	
石製品	砥石 滑石製品		
その他	ルツボ 鉄滓		

第14トレンチ 暗褐色土

青磁	越州窯系	椀	II
		龍泉窯系	椀
		小椀	・I
		皿	・I-2b 香爐(1)
同安窯系	椀	・I-1 ・III-1	
	皿	・I	
白磁	椀	・II・IV・V・VI・VII・VIII・IX	
	皿	・II・III・IV・VI・VII・VIII・IX 四耳壺	
青白磁	合子	・椀 ・梅瓶	
緑釉	盤		
陶器	鉢	・I	
	四耳壺	・III ・IV VII?(A-a) XII?	
	盤	・I・II ・II-2 ・b	
	壺	・I?(C-b) IV?	
	黒釉	・椀 常滑、A-b壺、水注、A-c、茶入れ	
瓦類	・塼		

石製品	◦石鍋 ◦砥石
その他	◦土錘 ◦ルツボ ◦フイゴ

第14ト レンチ 黒褐色土

青磁	越州窯系	碗	I・II
		壺 I	水注
	龍泉窯系	碗	◦I-1-7 III-2
		小碗	◦I・III
同安窯系		坏	◦III ◦盤III
		碗	I-1b ◦III-1c
		皿	◦I-1・2
白磁	碗	◦II・IV・V・VI~VII・VIII・IX	
	皿	◦II・III・IV・VI・VII・VIII・IX	
		◦四耳壺 ◦短頸壺 ◦壺 ◦枢府系坏(1) 皿(1)	
		◦定窯系碗	
青白磁	合子	◦蓋 ◦小壺	◦梅瓶
陶器	甗	I~IV	
	壺	IV	
	鉢	V? ◦I-1c	
	盤	◦II-2、II-2b	
		B'-a	
	常滑、備前		
石製品	◦四角硯 ◦石鍋		

第14ト レンチ 灰褐色土

青磁	越州窯系	碗	◦I-4 ◦I-2、III(1)
		壺	
	龍泉窯系	碗	◦I-1~5c(4)
白磁	碗	◦VI-1b VI~VII ◦II? ◦VIII-2	
		◦IV-1a・2 ◦II-1・2・3 ◦V-1・2 ◦3a・3b・4c	
	皿	II-1a・II・III ◦IV ◦VI-1 ◦VII-1b	
		四耳壺 壺? I(1)	
青白磁		◦合子蓋 碗	
緑釉		◦壺?	
陶器	四耳壺	◦III・IV	
	盤	b	小盤
		黒釉碗(1)	
		B、A'-b、A'-a 壺	
石製品	◦滑石製品 石鍋		

SK075

土師器	◦坏 a 碗 c		
青磁	越州窯系	碗	◦I-2(2) I・II片(1)
			◦壺(1) 合子 I(1)
白磁	碗	IV(1)	
緑釉	◦土師質(5)		
金属製品	鉄釘(1)		
その他	縄文前期後半~中期土器片(1)ルツボ(1)		

SK080

須恵器	碗 c (墨書あり、判読不可) 甗 b		
土師器	◦小皿 c ◦中碗 c 2 ◦大碗 c ◦坏 a		
	◦碗 c ◦鉢 b 甗		
黒色土器	A	◦碗 c	
	B	◦用途不明製品	
青磁	越州窯系	碗	I(8) I-2(1) II(6)
		皿	I(1)
		壺	II(1)
緑釉	◦皿(須恵質)(2) 壺(土師質)(1)		
灰釉	(1)		
土師質土器	かまど		
瓦類	文字瓦「平井」(1)		
金属製品	鉄器(2) 鉄釘(1)		

SK089

土師器	◦坏 a ◦小皿 a・c ◦碗 c 中碗 c		
	◦獸脚 ◦甗		

黒色土器	A	碗 c	
	B	破片	
青磁	越州窯系	碗	◦I(2) ◦II(2)
白磁	碗	I-4?(1)	
緑釉	◦土師質 破片(1)		
その他	鉄澤		

SK090

須恵器	壺		
土師器	◦坏 a ◦小皿 a・c ◦小碗 中碗 碗 c		
	◦大碗 c ◦鉢 ◦壺 ◦鉢 ◦甗		
黒色土器	A	碗 c 鉢	
		◦I(1) ◦I-2(1) ◦II-2 a~c(1)	
青磁	越州窯系	碗	水注 I(1)
白磁	碗	◦I-1(1) I(2)	
緑釉	◦土師質(1) ◦須恵質(1)		
灰釉	破片(1)		
石製品	石鍋(1)		
金属製品	鉄刀子(1)		

SK095

須恵器	甗		
土師器	◦丸底坏 a ◦小皿 a 三脚付鉢? ◦坏 a		
黒色土器	A	碗 c	
		◦IV(7) II(1) I(1)	
白磁	碗	◦VI-1b(1)	
陶器		E?(1)	
石製品	石鍋(1)		

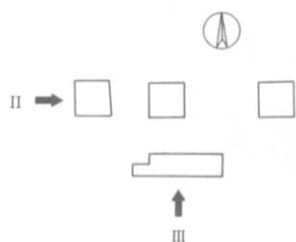


版 図

I 第4トレンチ
SX 030



II 第8トレンチ



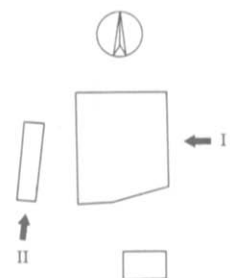
III 第8トレンチ



PL-2



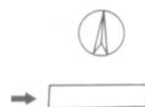
I 第9トレンチ



II 第9トレンチ



III 第15トレンチ



I 第11トレンチ



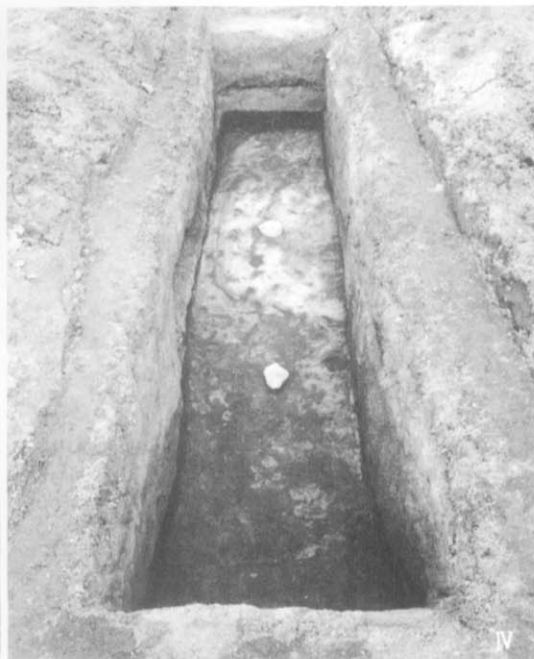
II 第11トレンチ



III 第12トレンチ



PL-4



第14トレンチ



I 6 AYP 地域遠景 (北西から)



II S X 085 墳丘 (東から)



III S X 085 墳丘断面

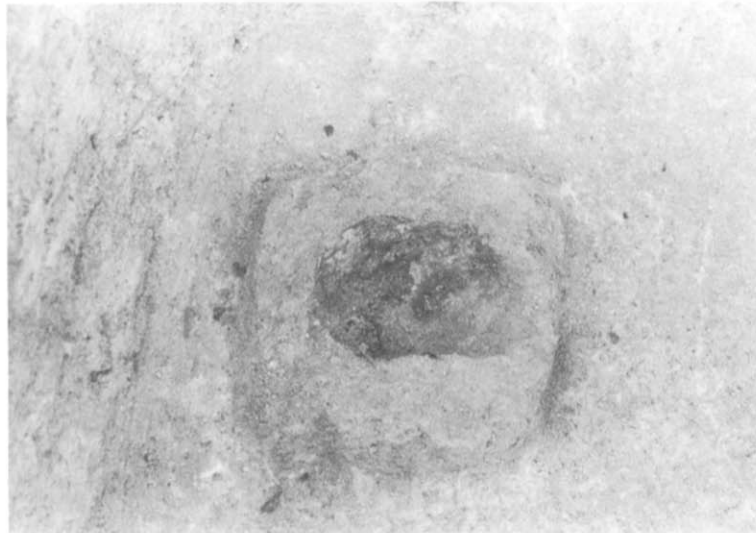




I 6 AYP 地域全景 (南から)

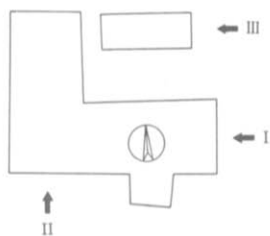


II ST086



III ST086 漆皿出土状態

I 6AYN-B



II

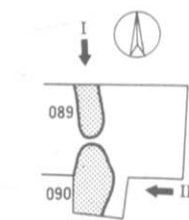


III





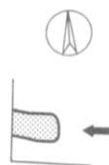
I SK 089・090



II SK 090 (拡張後)



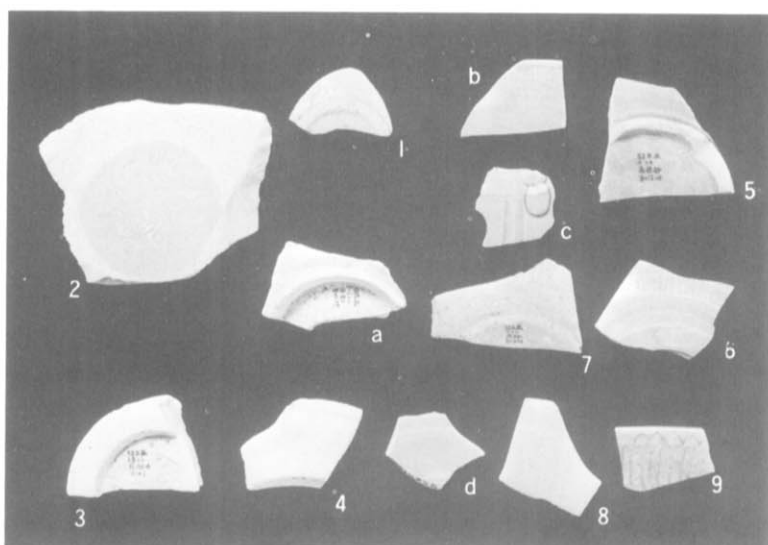
III SK 095



- I 第1トレンチ(12、c)
 第4トレンチ茶灰色砂
 (1、4~6、8、9、d)
 第7トレンチ灰色砂(7)
 第13トレンチ(3)
 6AYE表採(2)

白磁

- (1.皿Ⅱ-1 2.椀C、3.四耳壺、a.椀V)
 越州窯系青磁(5.椀Ⅰ-2、6.椀Ⅱ-2a
 7.椀Ⅱ、b.椀Ⅰ、c.壺Ⅰ)
 青磁(8、9、d.椀)
 青白磁(4.合子)

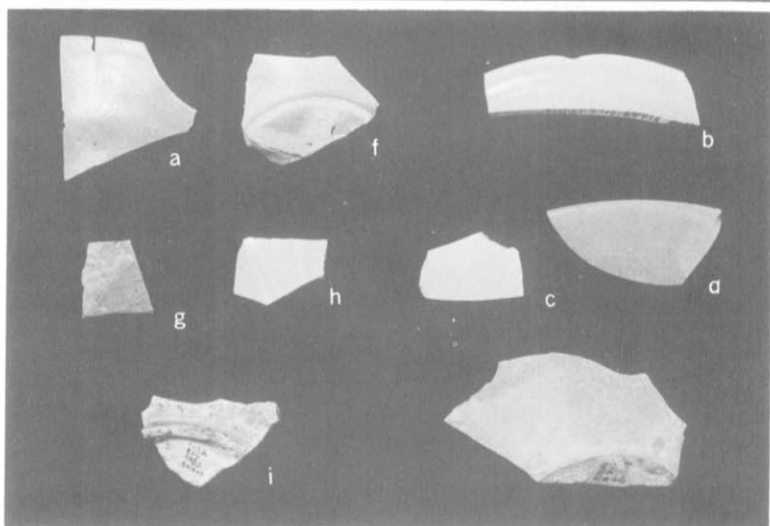


II 第8トレンチ

- SK031(a、h)
 SD035(b~e)
 床土、黄灰色土(f、g、i)

白磁(b.椀 h.)

- 越州窯系青磁
 (a、d.椀Ⅰ、e、f.椀Ⅰ-1b、g.椀Ⅱ)
 青白磁(c.椀)
 緑釉(i)

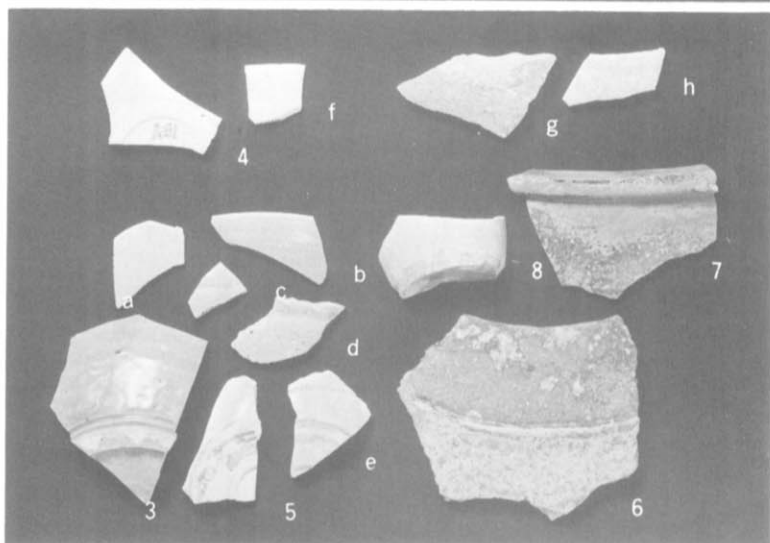


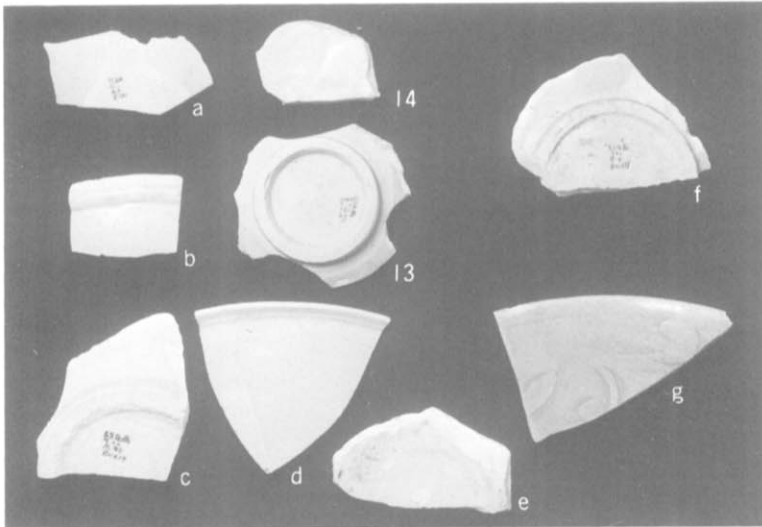
III 第9トレンチ

- 灰色砂(3、a、b、g)
 茶灰色土、表土(4~8、d~f)
 SX038(c、h)

白磁(4.皿Ⅶ-1b、f)

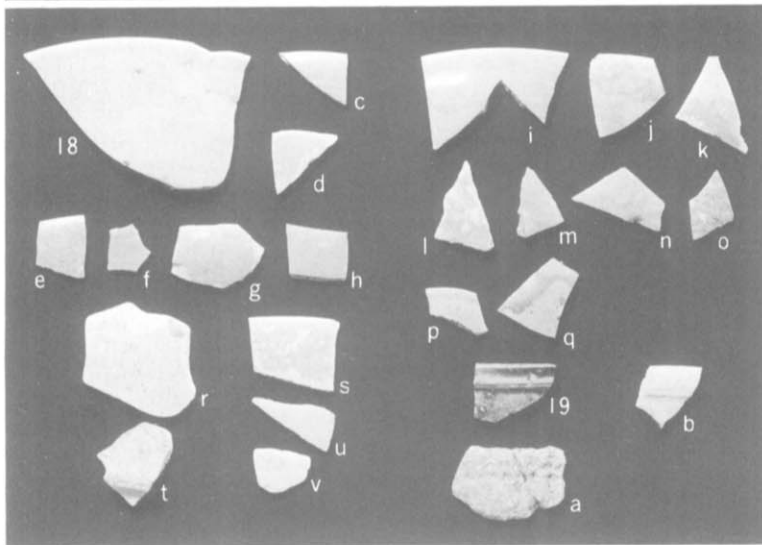
- 越州窯系青磁
 (3.椀Ⅰ-2、5.椀Ⅰ-1b、a~e)
 陶器
 (6.甕Ⅳ、7.鉢Ⅳ-1、8.壺A'-a)
 灰釉(g、h)





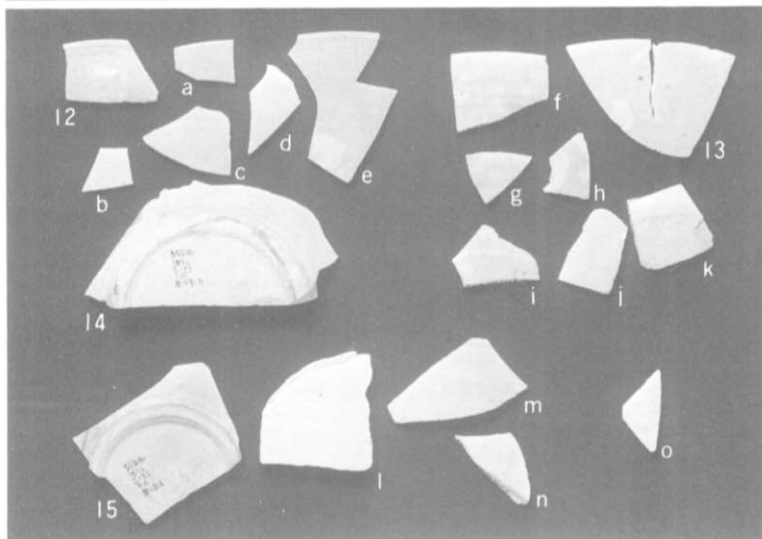
I 第9トレンチ
SD036(13、14、b)
灰色砂(c、d)
床土(e-g)

白磁(13. 皿Ⅲ、14. 皿Ⅷ-1、a. 皿Ⅳ
b. c. 椀Ⅳ、d. 椀Ⅴ-4、e. 椀Ⅷ)
龍泉窯系青磁(f. 椀Ⅰ、g. 椀Ⅰ-2a)



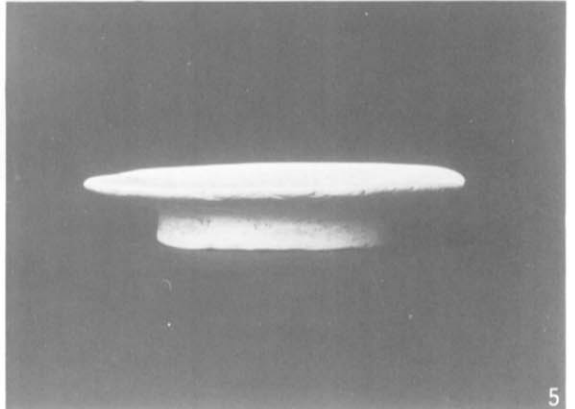
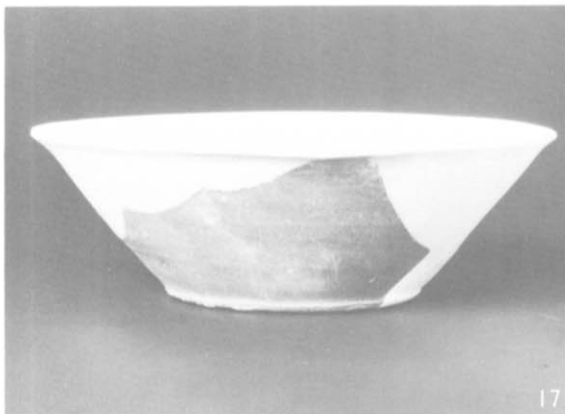
II 第15トレンチ SK075

縄文式土器(a・前-中期)
白磁(b. 椀Ⅳ)
越州窯系青磁(18. c-h. 椀、合子Ⅰ
i-q. 椀Ⅱ、19. 壺)
緑釉陶器(r-v)



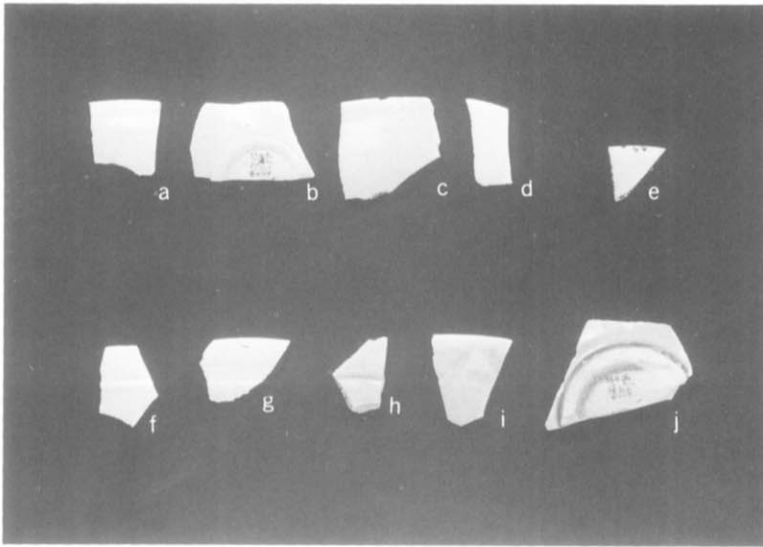
III 第15トレンチ SK080

越州窯系青磁(12. 14. a-e. 椀、皿Ⅰ
13. f-k. 椀、壺Ⅱ)
緑釉(15. l-n)
灰釉(o)



第9トレンチ灰色砂





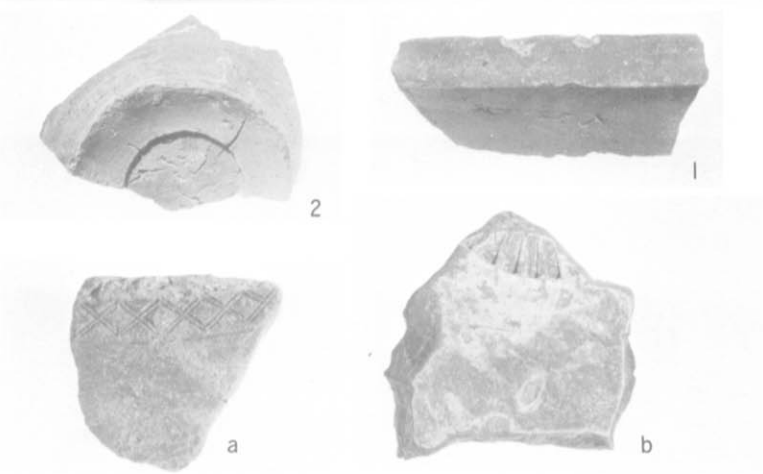
I 第10トレンチ表土

白磁(a. 椀II、b. 皿II、c. 椀V-2
d. 椀V、e. 皿IX、f. g. 椀IV)
同安窯系青磁(h. 皿)
龍泉窯系青磁(i. 椀I-5 b、j. 椀I)



II 第10トレンチ表土

石 臼



III 第10トレンチ表土

1. 備前焼、鉢
2. 陶器D-b
a. 釜(土師質)
b. 火舎(土師質)

I 第IIトレンチ

表土(6、a、c、d、f~i)

黒褐色土(4、b、e)

SX 042(24)

龍泉窯系青磁

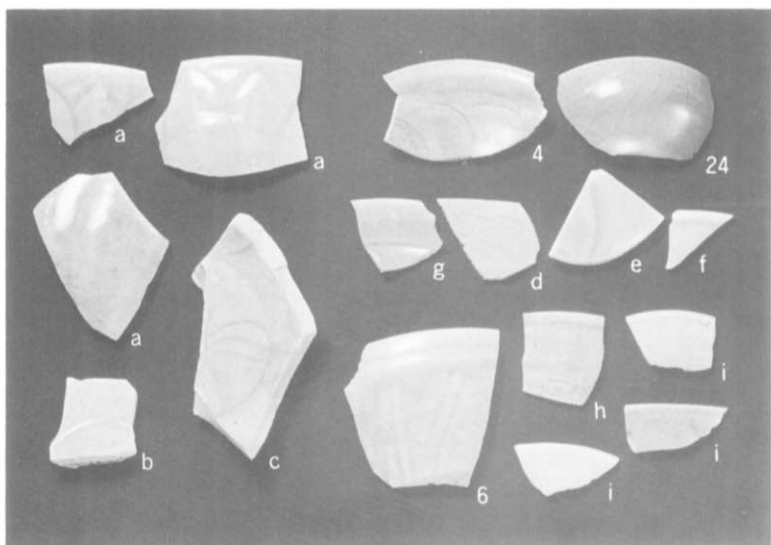
(24.小椀III-1、a.椀I-5b)
(b.小椀I-5c? c.椀I-2)

(d. e.椀 f.坏III-1 g.皿I)

同安窯系青磁(6.椀III-1 c、h.椀II

i.皿I)

青磁(4.浅形椀)



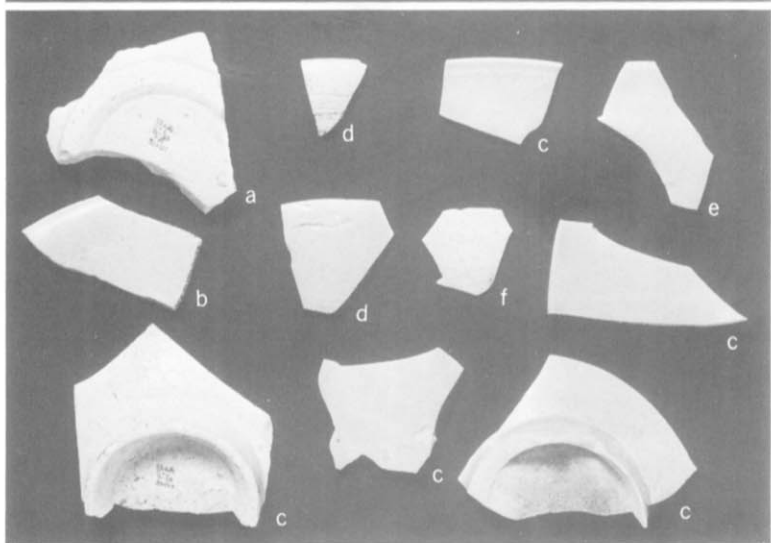
II 第IIトレンチ SK050

白磁

(a.椀IV-1 a、b.椀VI-1 b、c.椀V、)

(d.椀V-1 or VIII、e.椀V2 or VII

青白磁(f))



III 第IIトレンチ茶灰色土

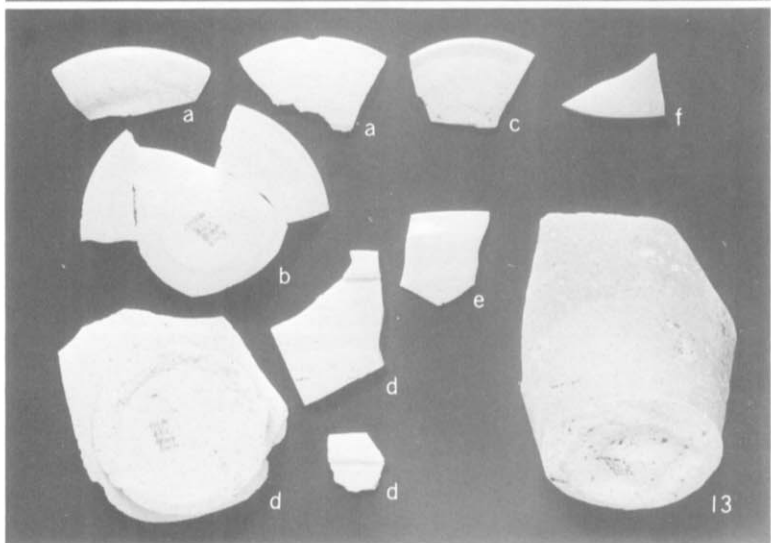
陶器(13. A'-b)

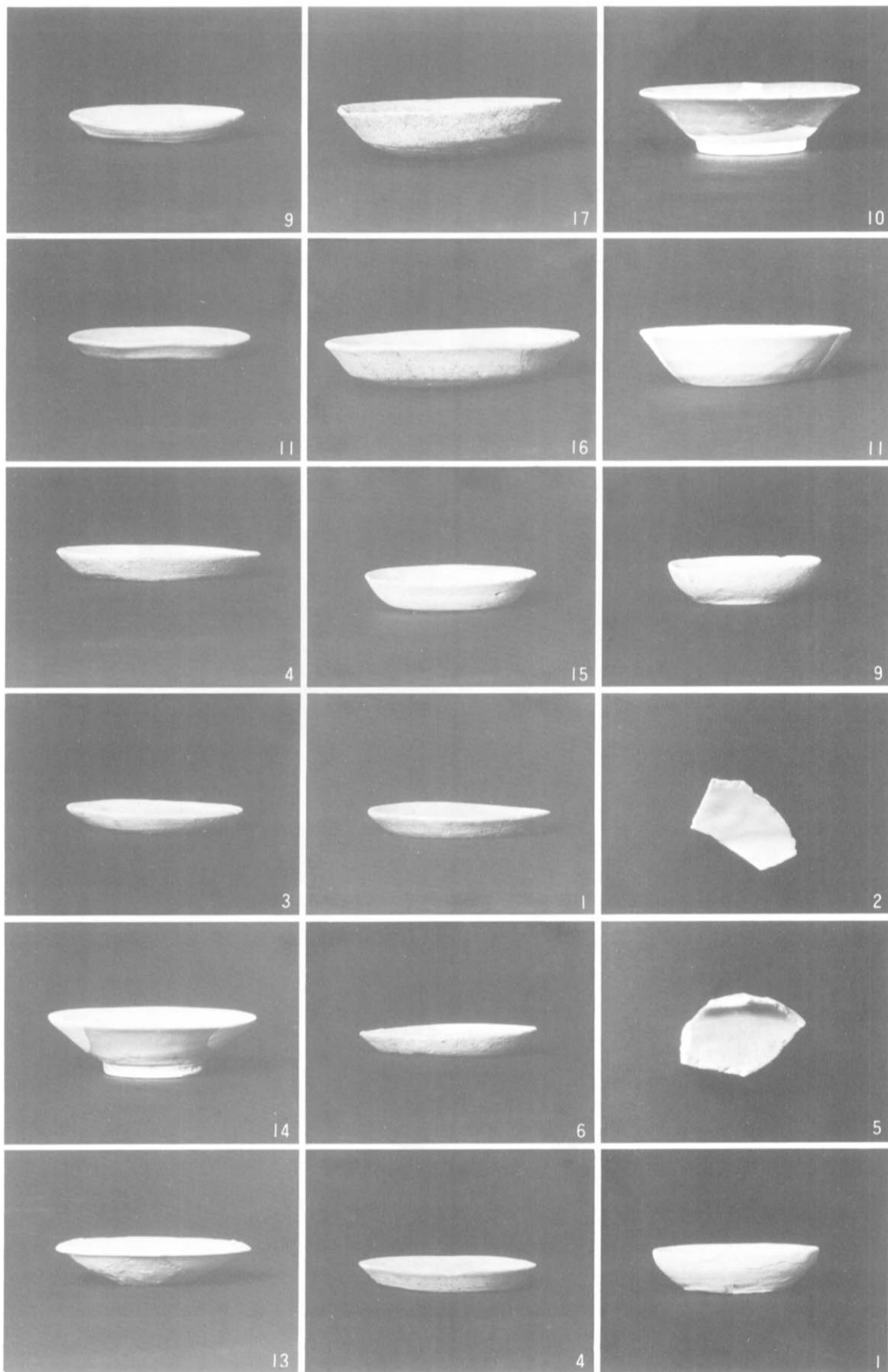
白磁

(a.皿VI-1 a、b.皿VI-1 b、c.皿III)

(d.椀IV-1 a、e.椀V-2

越州窯系青磁(f.壺))





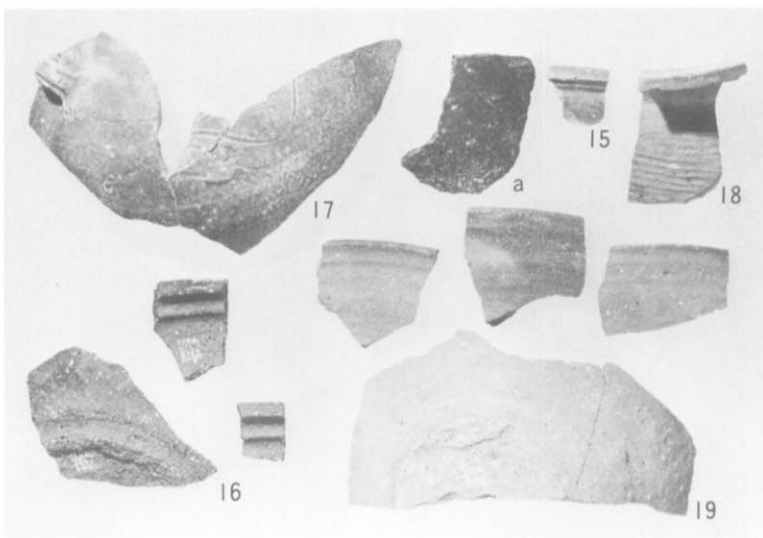
第11トレンチ
茶灰色土(9、11)
SK 050(3、4、13、14)

第11トレンチ
灰色砂(15-17)
SX 040(1) 049(6) 045(4)

第11トレンチ
SD 041(9-11)
黒褐色土(5)
第12トレンチ
灰褐色土(1、2)

I 第IIトレンチ SK050

陶器(15. B'-a, 16. 鉢I-1 b, 17. 壺
a. B大形品)
瓦質土器(18. 甕 19. 鉢)



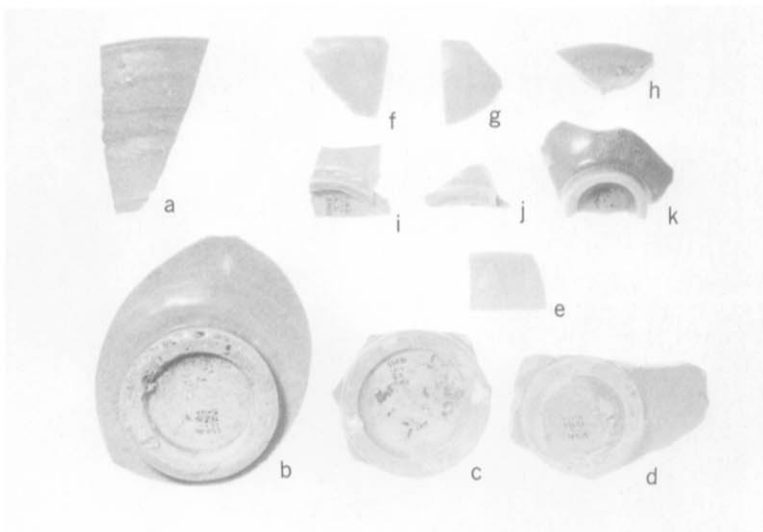
II 第12トレンチ

表土(a, c, e, f, g, h, j, k)
暗灰色砂(b)
暗褐色土(d)

越州窯系青磁(a. 椀II)

龍泉窯系青磁

(b. 椀I-1 a, c. 椀I, d. e. 椀I
-5 b, f. 椀III-2, g. 小椀, h. 坏
III-3 c, i. 坏III, j. 椀I-7
k. 小椀III-2 a)



III 第12トレンチ

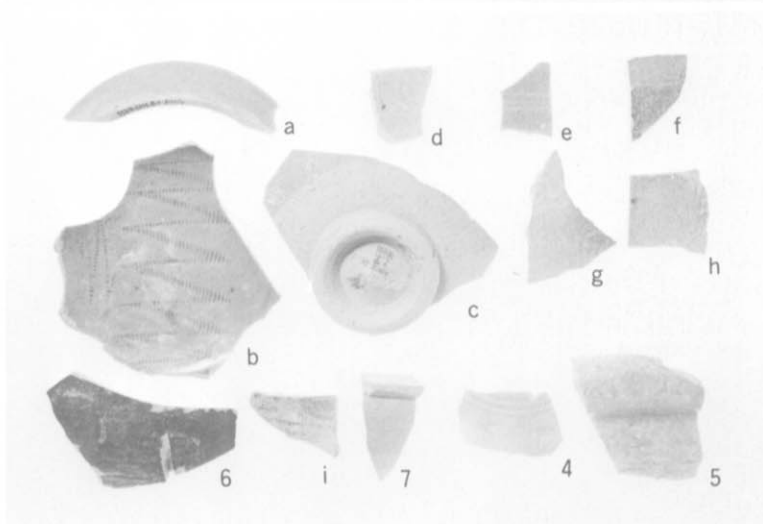
表土(a, b, c, d, f, h, i)
灰白色砂(e)
灰褐色土(g, 6)
暗褐色土(4, 5, 7)

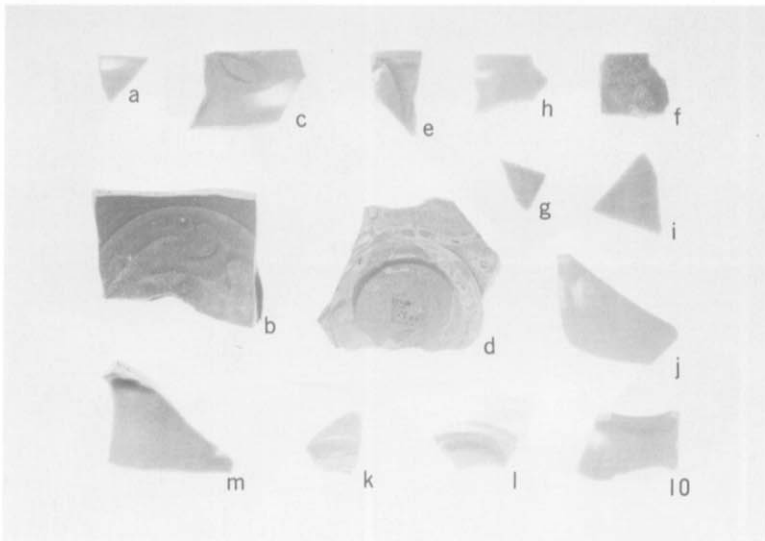
同安窯系青磁

(a, 皿I, b. 皿I-1 b, c. 椀I-1 b)

高麗青磁(d, e)

陶器(f~h, 破片, i. E, 4. 蓋, 5. 備前系
甕 6. C-a, 7. 鉢VII)

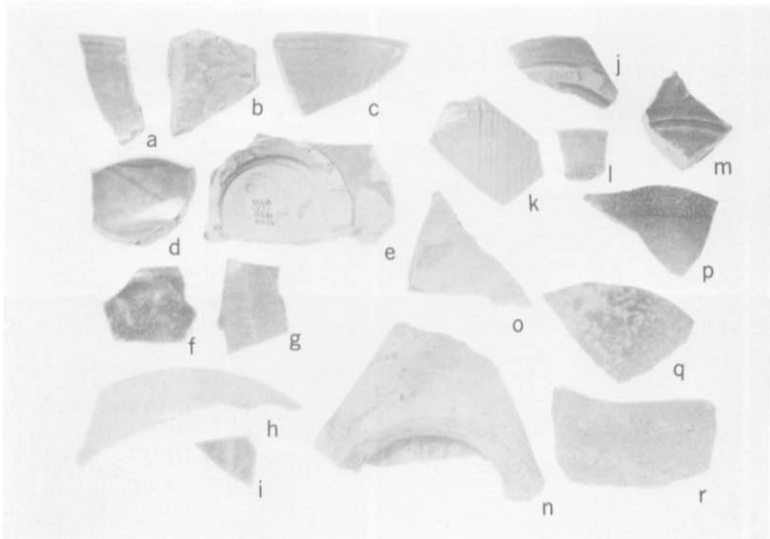




I 第12トレンチ SD060

龍泉窯系青磁

(a. b. 椀 I-4, c. 椀 I-2, d. 椀 I-5 a, e-g. 椀 I-5 b, h. i. 椀 III-2, j. 坏 III-5, k. l. 坏・小椀 III m. 盤 III, 10. 壺)



II 第12トレンチ

暗灰色砂 (m. n)

灰白色砂 (m. n以外)

龍泉窯系青磁

(a-d. I-2~4, e. 椀 I-5 d) (f. g. 椀 I-5 b, h. 皿 I, i. III)

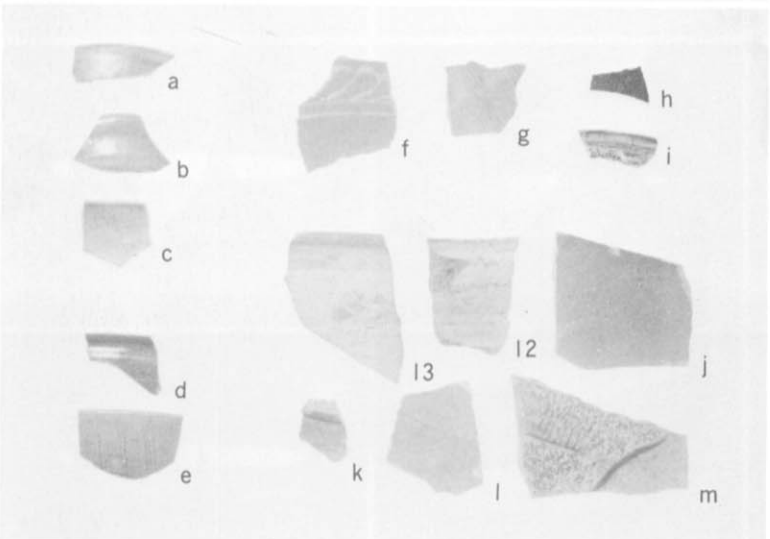
越州窯系青磁 (j. 椀 I-2)

同安窯系青磁

(k. 椀 I-b, l. 皿, m. 椀)

陶器 (n. A'-b壺, o. 盤 b, p. D-a壺?)

q. A-a, r. A-b壺 IV?)



III 第12トレンチ SD060

陶器 (12, 13, g~m)

同安窯系青磁 (a~e)

高麗青磁 (f)

同安窯系青磁 (a~c. 皿 I, d. 椀 II or III, e. 椀 I-1 b)

高麗青磁 (f)

陶器

(g. 澱青釉・鉢 V, h. 黒釉, i. 緑釉・盤) (j. C', k. A-a, l. E m. 常滑?)

I 第12トレンチ

灰白色砂

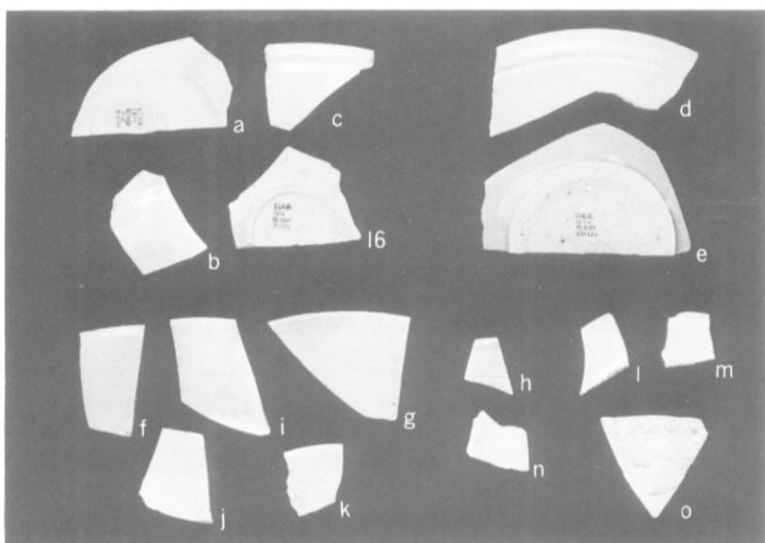
(a, b, e, f, g, h, i, j, k)

暗灰色砂(c, l6, d)

白磁

(a, 皿VI-1a, b, 皿V, l6, 皿VII-1a, C, 椀II, d, e, 椀IV-1a, f, 椀V-1orVIII-2, g, 椀V-4a, h, 椀V-3, i, 椀II-3a, j, 椀II, k, 皿II-1a, l, m, 皿IX, n, 壺

灰釉(o)



II 第12トレンチ SD060

土師器



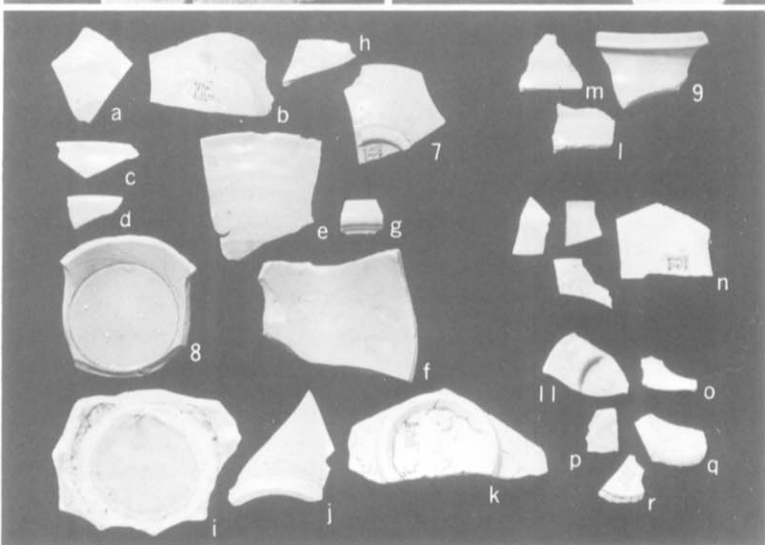
III 第12トレンチ SD060

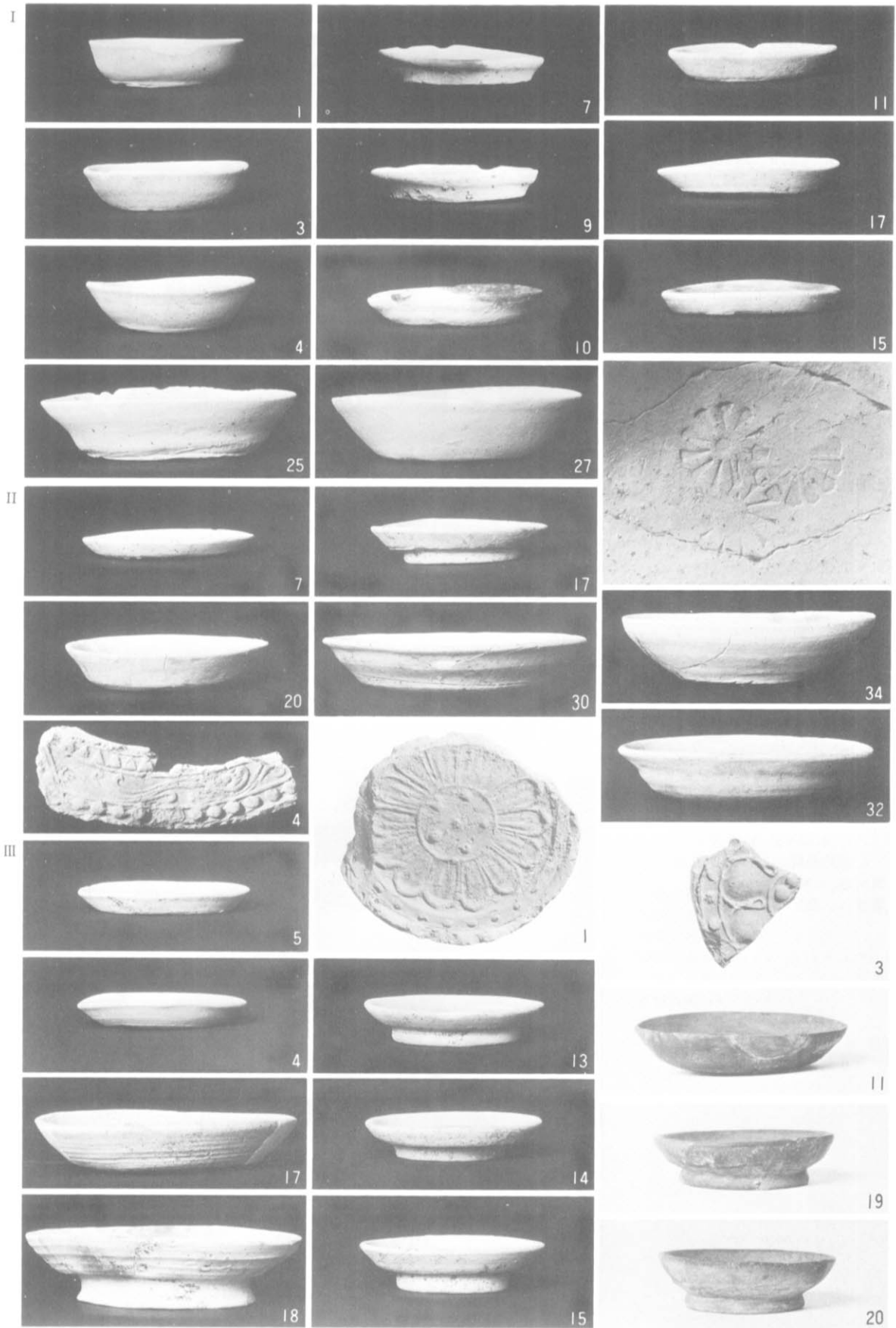
白磁

(7, 皿II-1a, 8, 椀VII, a, b, 皿VI-1a, c, d, 椀V-1, 2, e, f, 椀V-4, g, 椀IV, h, 椀VII, j-k, 椀VIII, l, m, 9, 四耳壺, n, 皿IX-1, 2, o, 枢府系坏

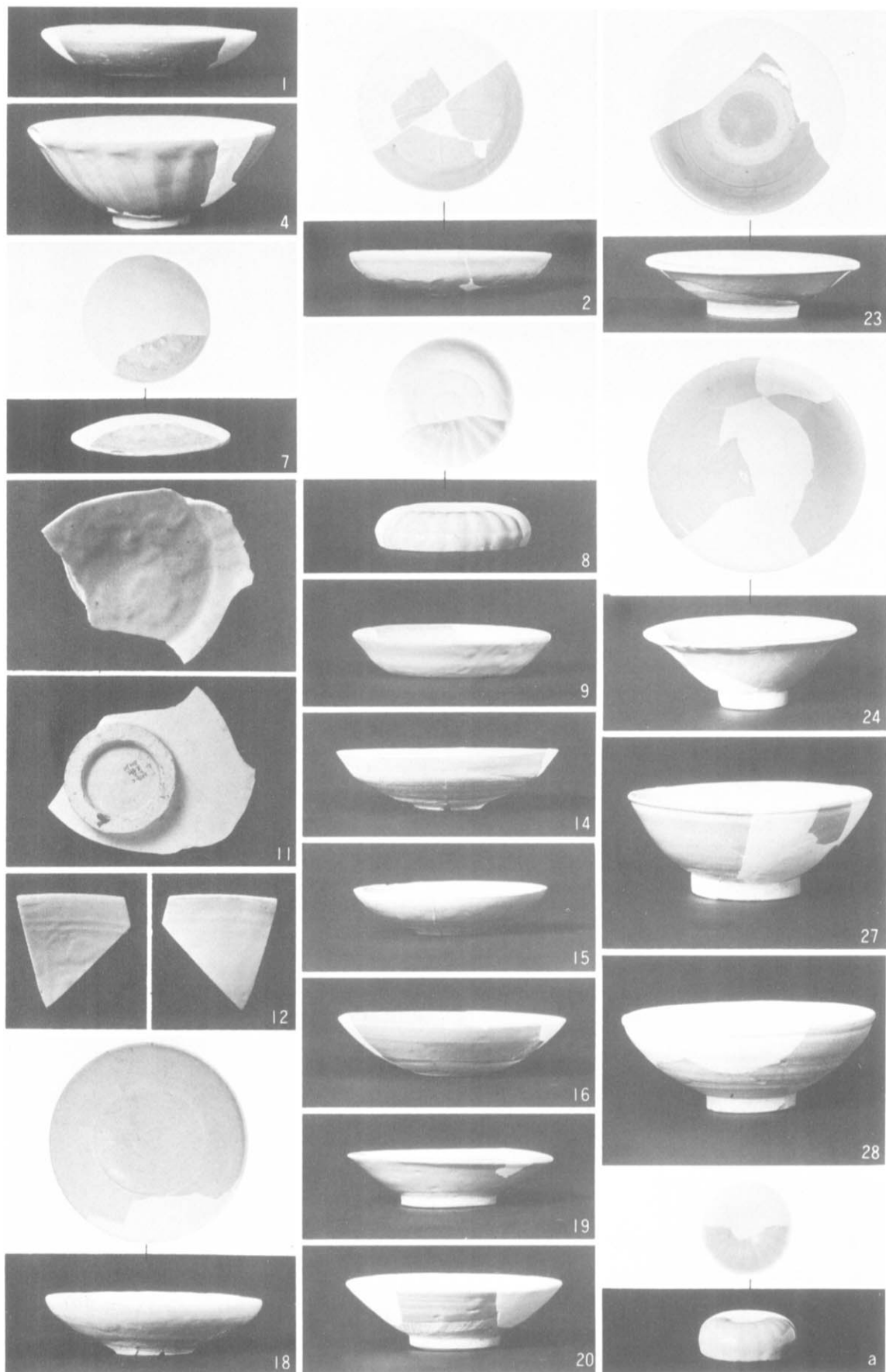
青白磁(p, 梅瓶, q, r, 合子)

陶器(11, 皿)

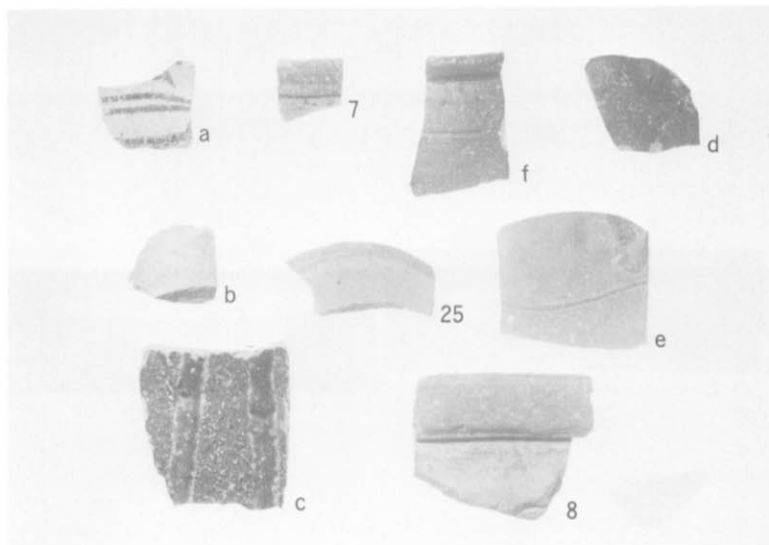




第14トレンチ I. 黒褐色土 II. 暗褐色土 III. 灰褐色土



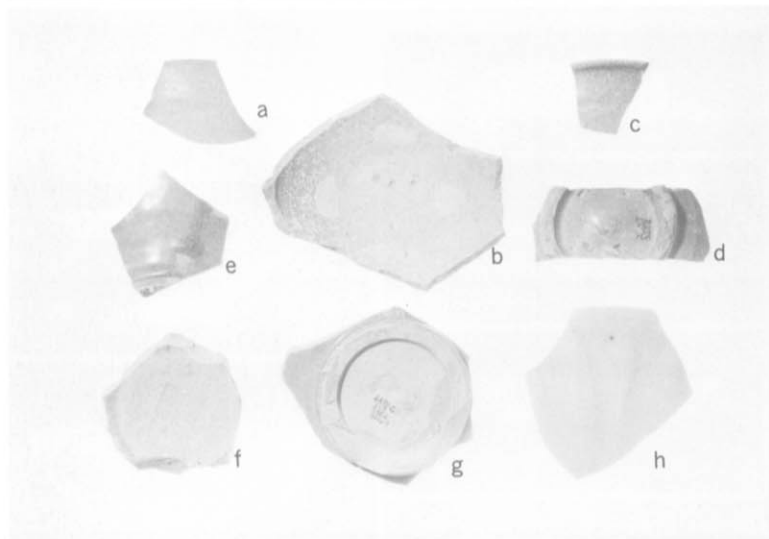
第14トレンチ 暗褐色土(1.4.9.14.15.16.18.19.20) 黒褐色土(2.11.12.) 出土層不明(7.8.)
 灰褐色土(23.24.27.28.a)



I 第11トレンチ
SX 046(25)
表土(a~e、7、8)
ビット(f)

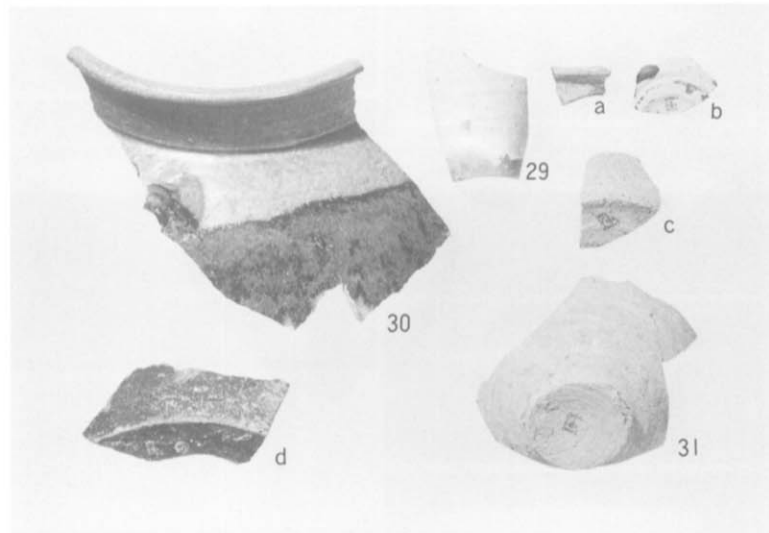
陶器

(a. 盤 b. A-a. 壺?、c. 常滑
d. D-b. 壺?、e. A-b. 壺?
f. D-a. 鉢III?、7. B'-a、8. 備前系
壺、25. B')



II 第14トレンチ
灰褐色土

越州窯系青磁(a~d. 椀、e. 椀I-2)
龍泉窯系青磁(f. 椀I-5 c、g. 椀I-
1-4、h. 椀I-5 b)



III 第14トレンチ
灰褐色土

陶器

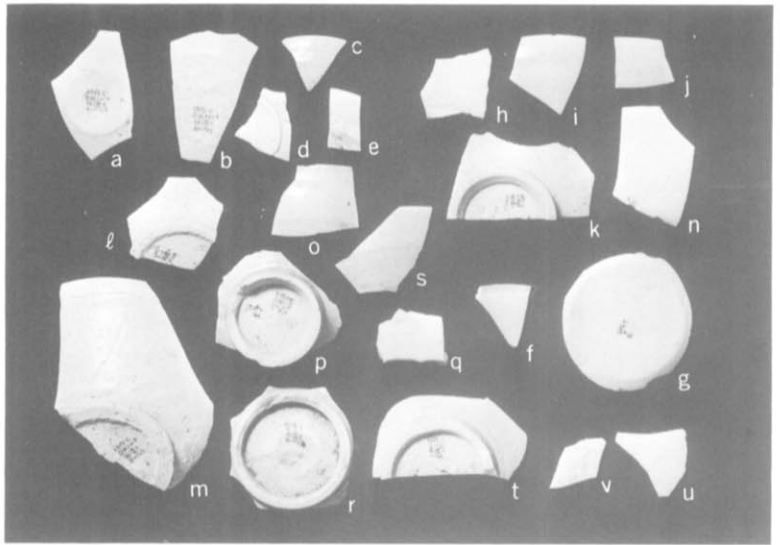
(29. 壺 A'-a、30. 四耳壺III、a. 壺?
A'-b、b. 黒釉・椀、c. 小盤、d. 緑釉
須恵質土器(31. 椀)

I 第14トレンチ
表土、排土

白磁

- (a. 皿VI-1 a, c. 皿VI-1
d. 皿VII-1 b, e. 皿IV, f. 皿IX-1
d, g. 皿IX-1, h. 椀II-2
i. 椀II-3, j. 椀II-1-2, k. 椀II-1-3,
l. m. 椀IV-1 a, n. 椀V-1 o. 椀V-2 a, p. 椀V, q. 小椀
r. 椀VI, VII, s. 椀V-1 or VIII-2
t. 椀VII ?

青白磁 (u. 壺, v. 合子)



II 表土、その他

越州窯系青磁 (a. 椀 I-2)

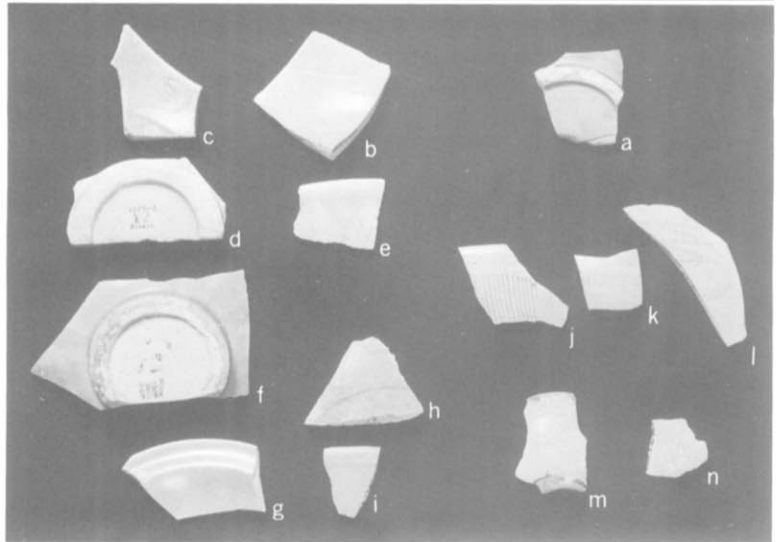
龍泉窯系青磁

- (b. 椀 I-2, c. 椀 I-4, d. 椀 I-1
-4, e. f. 椀 I-5 b, g. 坏 III-3)

青磁 (h. i. 椀)

同安窯系青磁 (j. k. 椀 I-1 b, l. 皿 I-2)

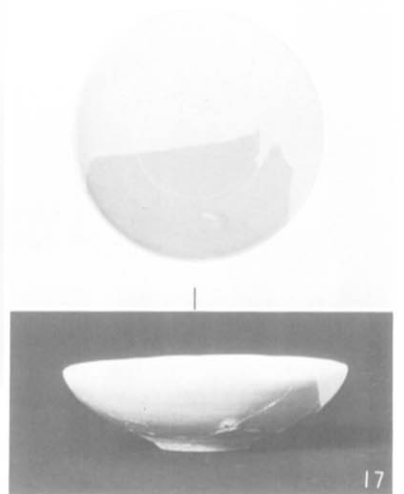
高麗、李朝青磁 (m. 小椀 h. 椀 ?)

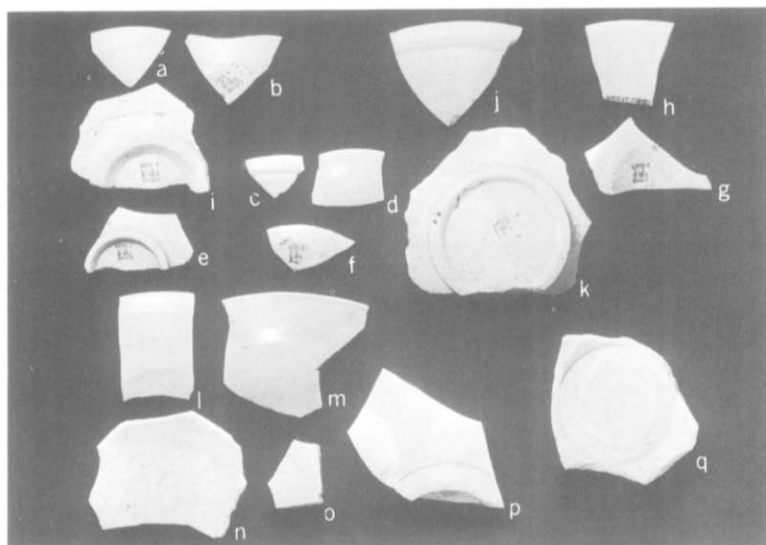


III 暗褐色土

白磁 (17. 皿 VII-1 b)

導 (a)



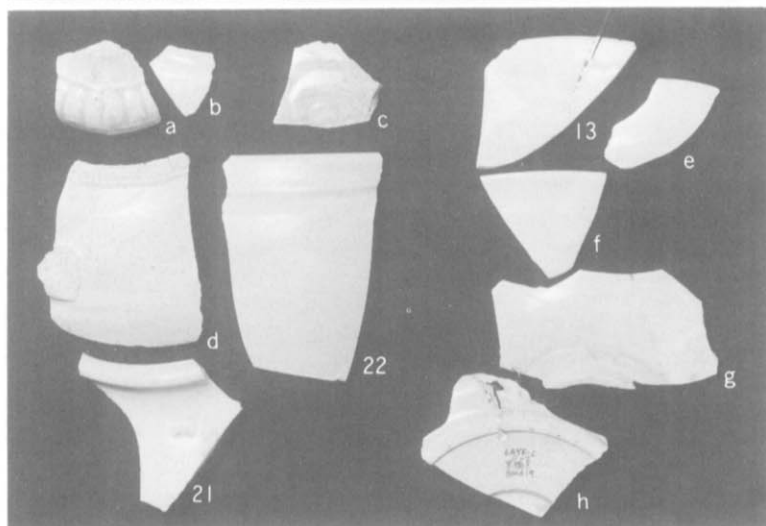


I 第14トレンチ

黒褐色土

白磁

- (a. 皿VII-2、b. 皿VI-1 b、c. 皿II-1 b、d. 皿II-1 a、e. 皿III f. g. 皿IV、h. 皿IX-1 c、i. 椀II-2、j. k. 椀IV、l. 椀V-1 or VIII-2、m. 椀V-4 a、n. o. 椀V-4 b p. 椀V、q. 椀VIII-2・3)



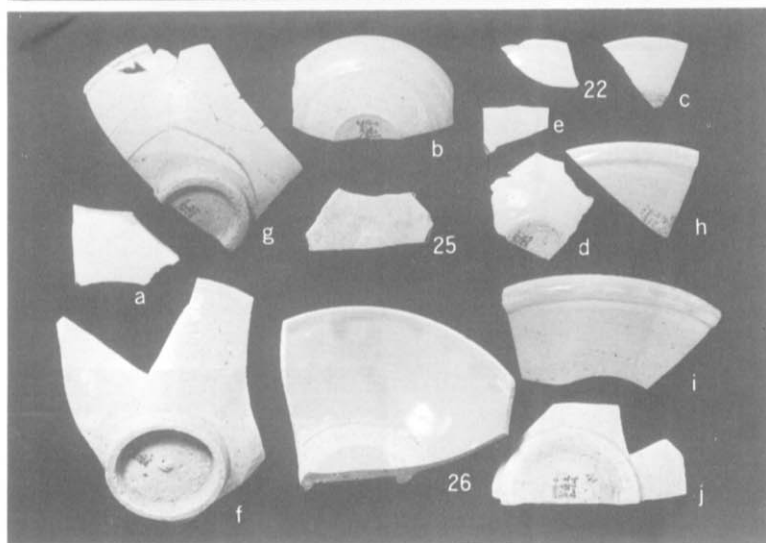
II 黒褐色土

白磁

- (21. 22. 壺、d. 四耳壺、13. 小椀)
 (e. 皿、f. 枢府系坏、g. 椀II)

青磁 ? (h)

青白磁 (a. 合子蓋、b. 小壺、c. 梅瓶)



III 灰褐色土

白磁

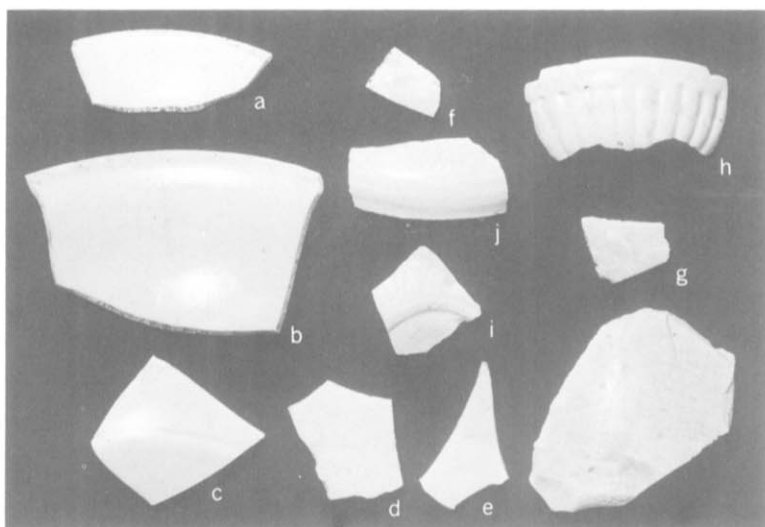
- (a. I、b. c. 皿VI-1 a、d. 皿IV e. 皿VII-1 b、f. 椀V-3 a g. 椀II-1、h-i. 椀IV、22. 小椀 25. 椀II ?、26. 椀VIII-2)

I 第14トレンチ
暗褐色土

白磁(a. 皿IX-2、b. 椀IX)

青白磁

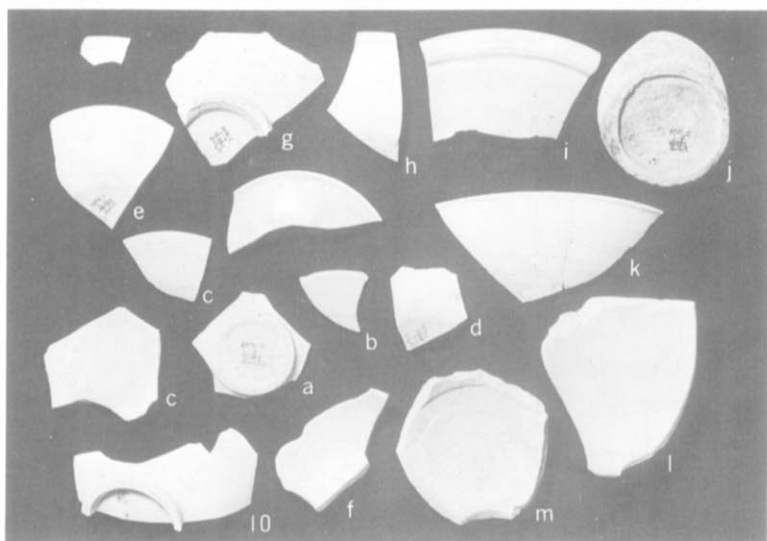
(c~e. 椀、f. g. 破片、h. i. 合子身
j. 合子蓋、k. 梅瓶)



II 暗褐色土

白磁

(a. 皿II、b. 皿II-1 a、c. 皿III
d. 皿IV、e. 皿VI-1 b、f. 皿VIII-1
g. 椀II-1. 3、h. 椀II-1、i. 椀IV
-1 a、j. 椀IV-2、k. 椀V-4 a
l. 椀V-2 c. 4 c、m. 椀VIII-2. 3
10. 椀IX-1)



III SX 066(b, e)

SX 068(c)

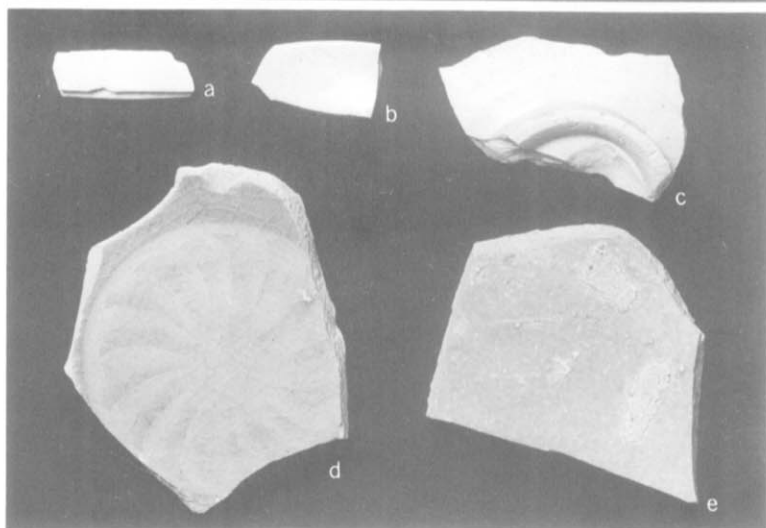
SE 070(a, d)

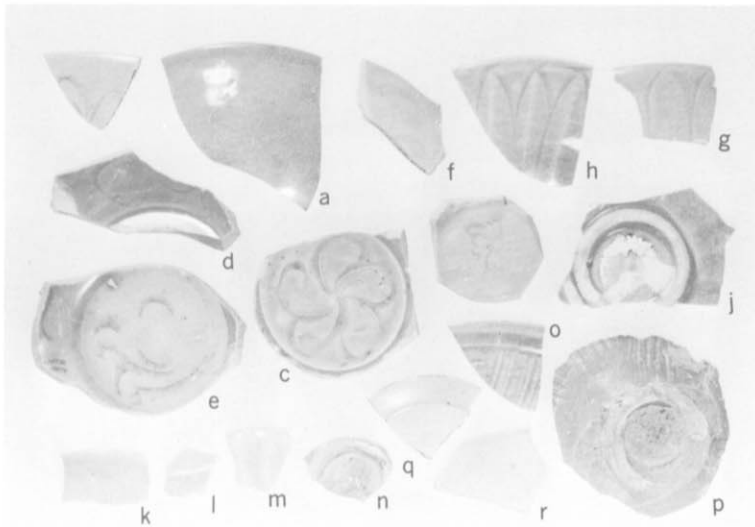
青白磁(a. 合子身)

白磁(b. 皿VII-1 b、c. 椀V-2 c?)

龍泉窯系青磁(d. 椀I-2 a)

青磁(e. 椀、越州窯系?)



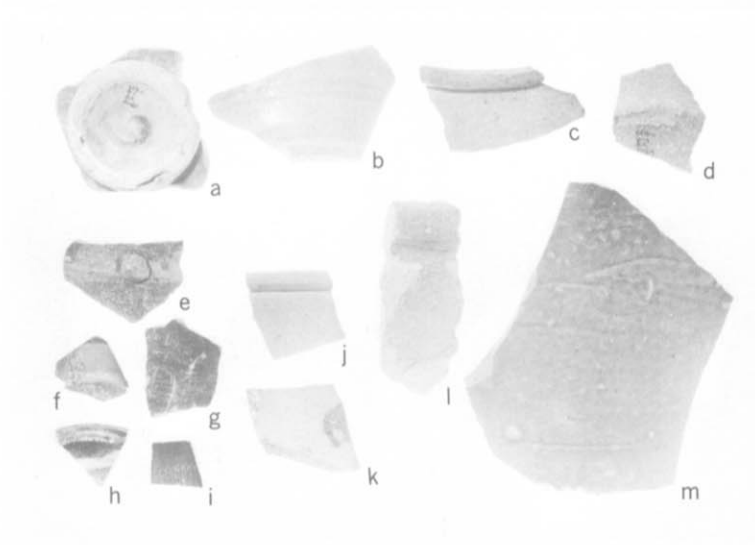


I 第14トレンチ

暗褐色土

龍泉窯系青磁

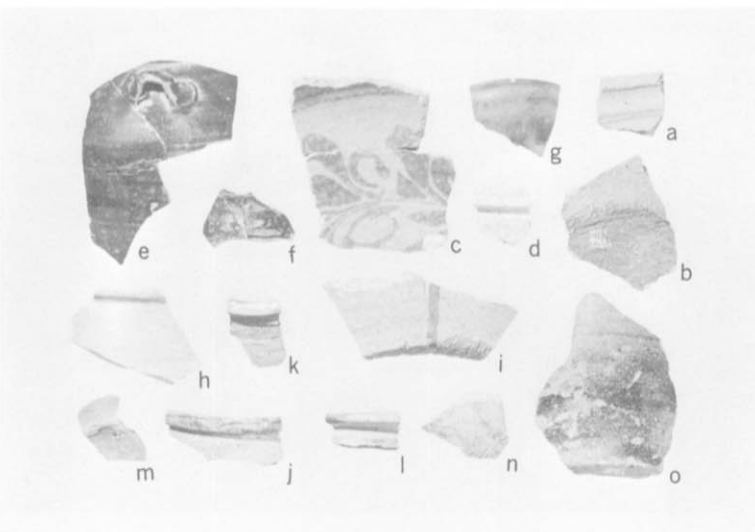
- (a. 椀 I-1、b. c. 椀 I-2、d. 椀 I-6?、e. 椀 I-4、f. 皿 I-2 b、g. 椀 I-5 a、h-j. 椀 I-5 b、k. 椀 I-6 b、l. 香爐、m. 椀 III-2、n. 小椀 I)



II 表土、その他

陶器

- (a. 椀、b. 梅瓶、c. 四耳壺 VII、d. A'-a、e. B'、f. 茶入、B-a、g. 近世陶器、h. B'-a、i. 鉢 II、j. k. 小盤 II-1?、l. 壺 IV、m. 壺? C)



III 暗褐色土

陶器

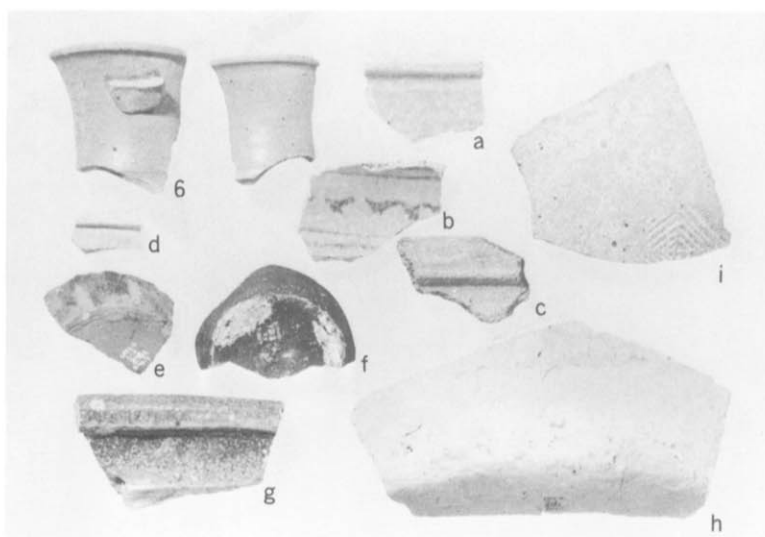
- (a. b. 鉢 I、c. 盤 b、d. 盤 II-2、e. f. 水注 B-a、g. 黒釉・椀、h. 四耳壺 VII?、i. 四耳壺 III、j. 四耳壺 IV?、k. 椀 I? (C-b)、l. A-c、m. 椀 A-b、n. B'-a、o. 須恵質)

I 第14トレンチ
黒褐色土

越州窯系青磁(6.水注)

陶器

- (a. 盤II-2、b. 盤II-2 b、c. 鉢I
-1 c、d. 無釉、e. B'-a、f. 壺D
-a、g. h. 備前系甕、i. 常滑)



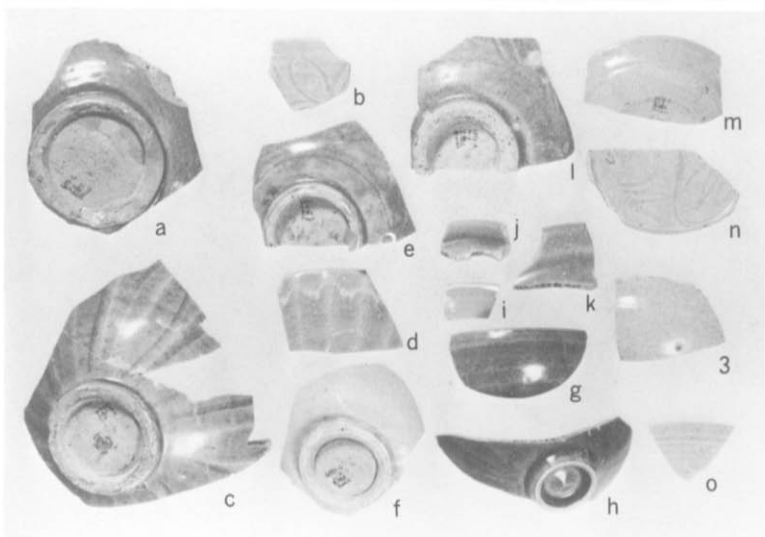
II 黒褐色土

龍泉窯系青磁

- (a. 椀I-1、b. 椀I-2、c. 椀I-
5 b、d. 椀III-2、e. 椀I-7
f. 小椀I-1、g. 小椀III-1 a
h. 小椀III-2 a、3、小椀III-3
i. 坏III-1、j. 坏III-4 a、k. 盤III
青磁(o. 椀)

青磁(o. 椀)

同安窯系青磁(l. 椀III-1 C、m. 皿
I-a、n. 皿I-2)

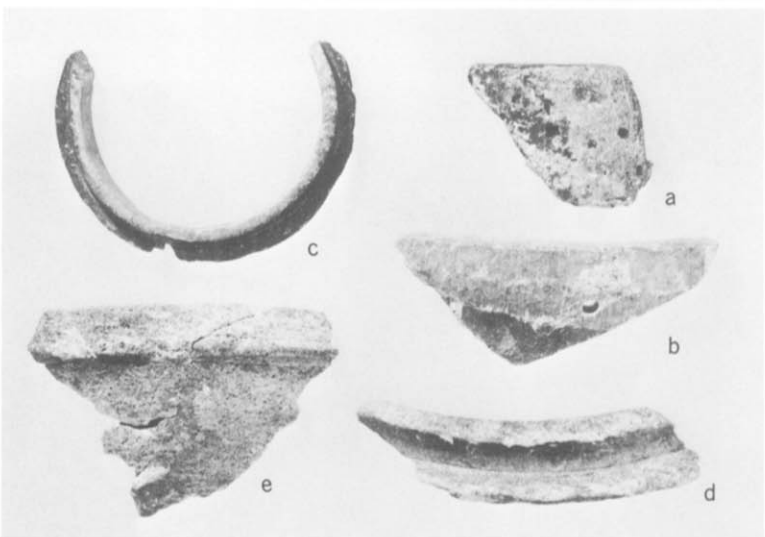


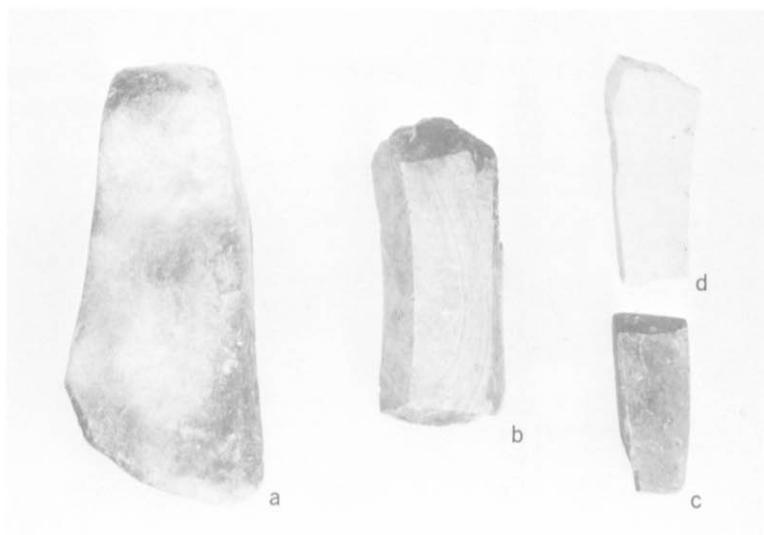
III 石鍋

灰褐色土(a)

暗褐色土(b)

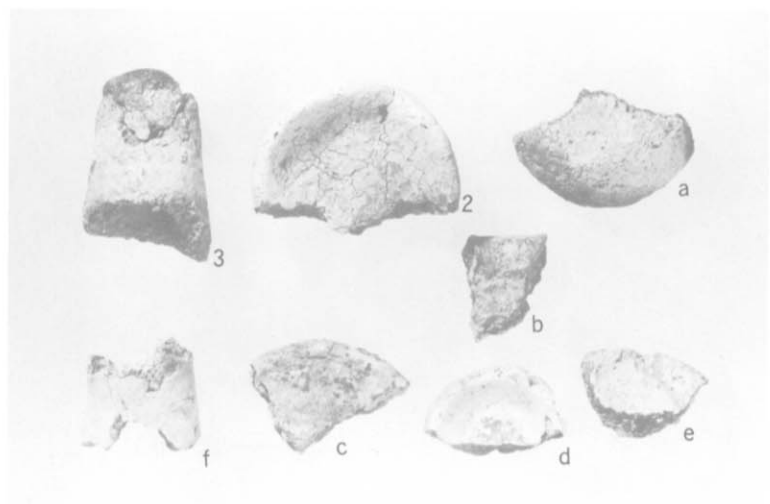
黒褐色土(c-e)





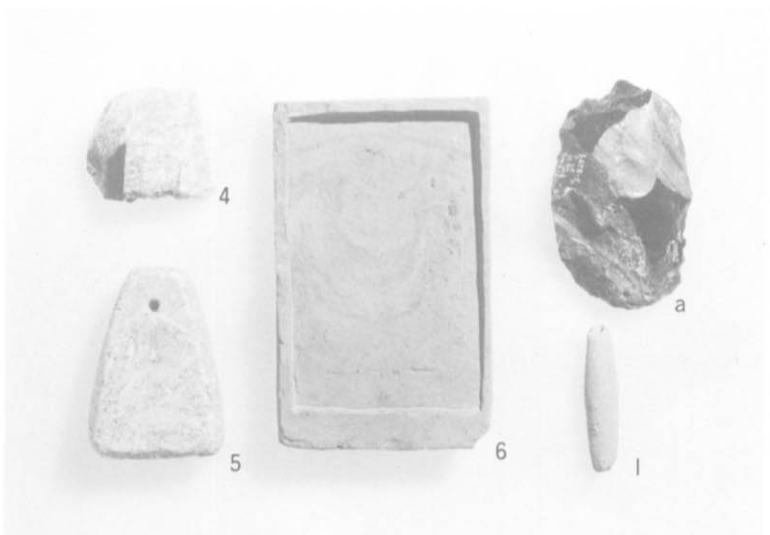
I 第14トレンチ
砥石

出土層不明(a)
暗褐色土(b、c)
黒褐色土(d)



II 埴埴(2、a-e)
韃羽口(3、f)

灰褐色土(a、b)
暗褐色土(2、3)
その他(c-f)

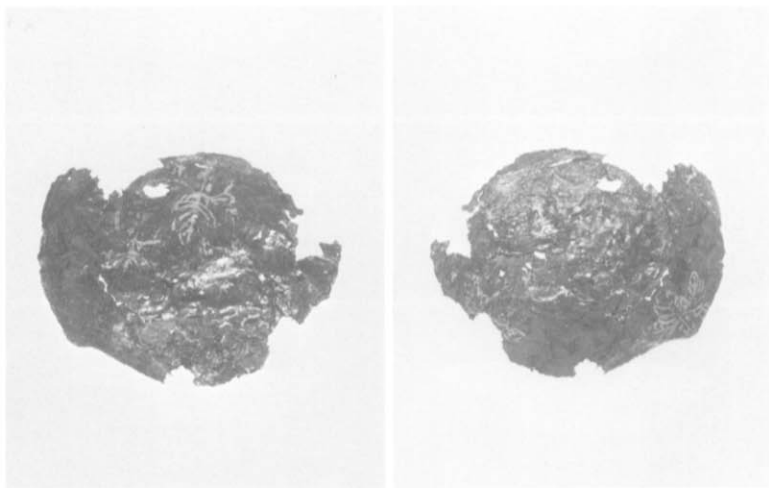


III 石製品、土製品

灰褐色土(4、a)
暗褐色土(1)
黒褐色土(6)
排土(5)
黒曜石(a)

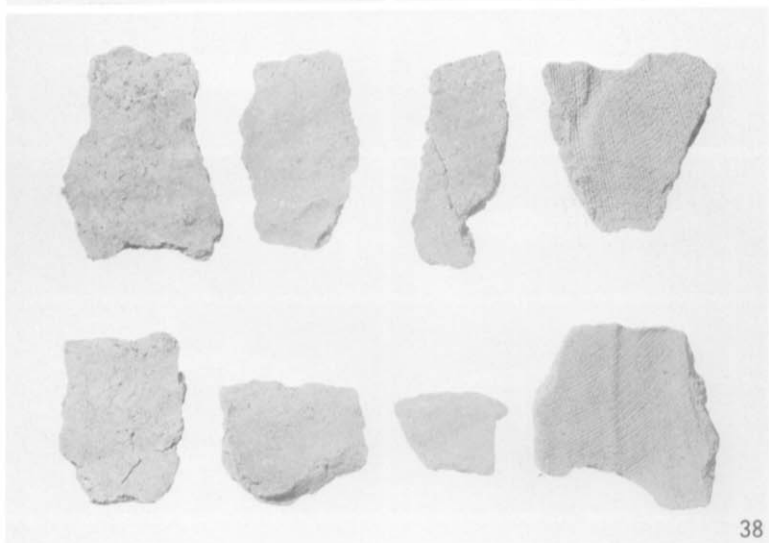
I ST086 出土

漆 皿
 (左)内面、(右)外面



II SK090 出土

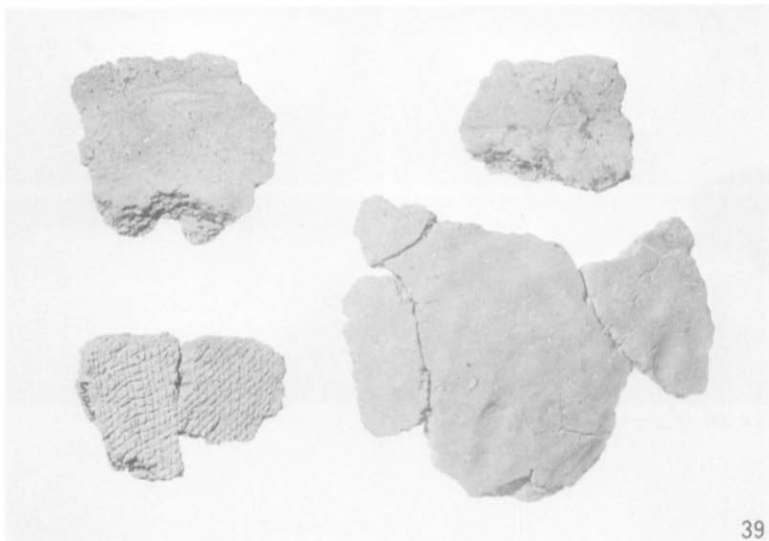
製塩土器(壺)



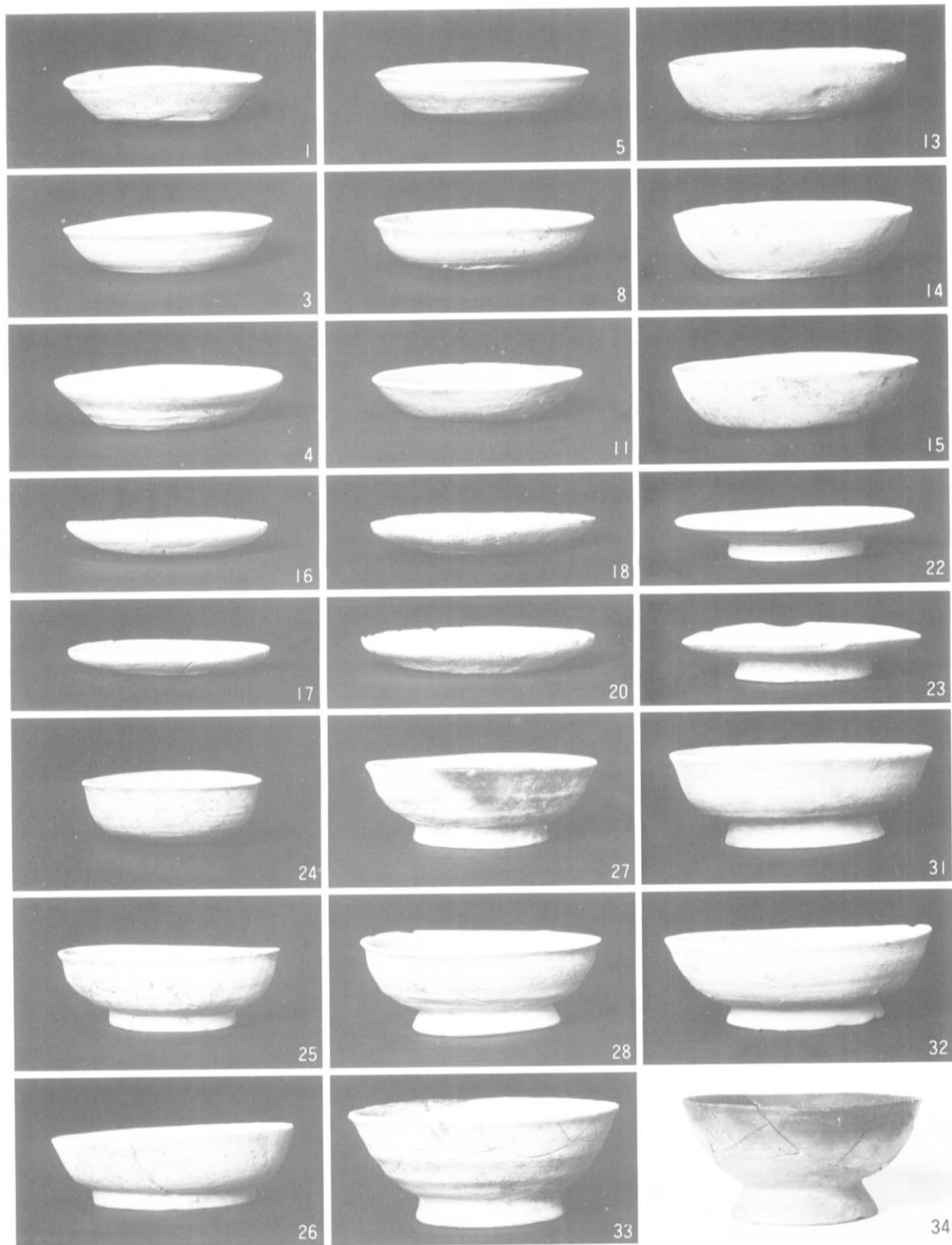
38

III SK090 出土

製塩土器(鉢)



39



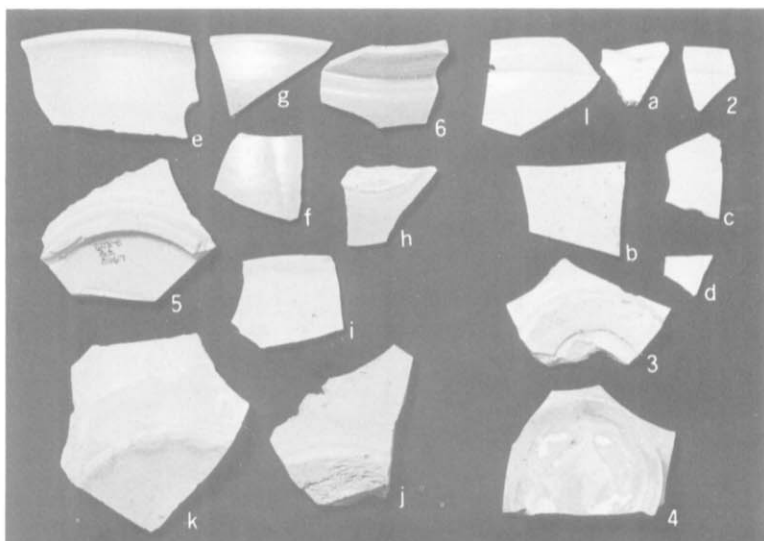
SK 090 出土

I 6AYN-B地域
表土、暗茶色土出土

白磁 I類(1-3、a~d)

越州窯系青磁

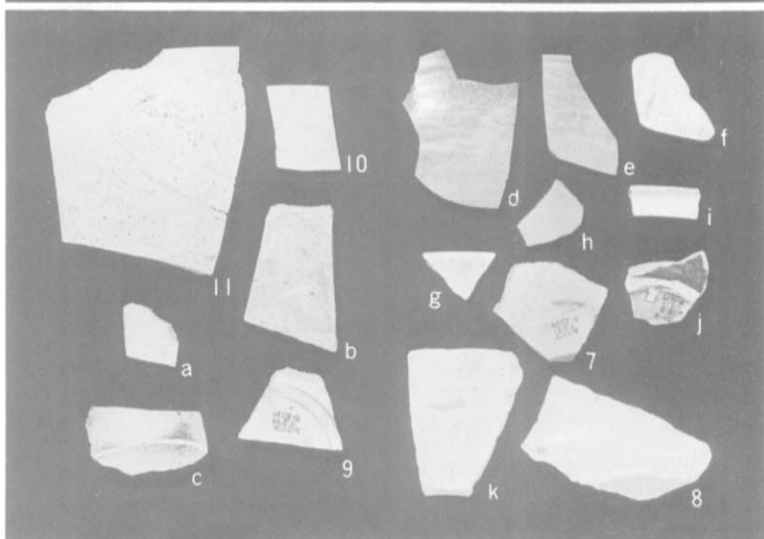
(4. 椀Ⅲ、5. e. f. 椀Ⅰ-2、g. 椀Ⅰ
6. h. 壺Ⅰ、i. j. 椀Ⅱ-2、k. 椀Ⅱ
-3)



II 表土、暗茶色土出土

灰釉(9.10. a~c)

綠釉(7.8. d~k)



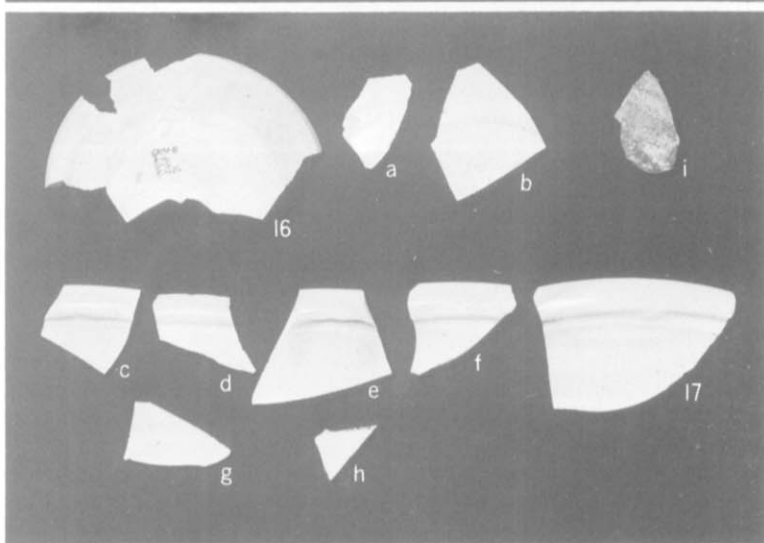
III SK095 出土

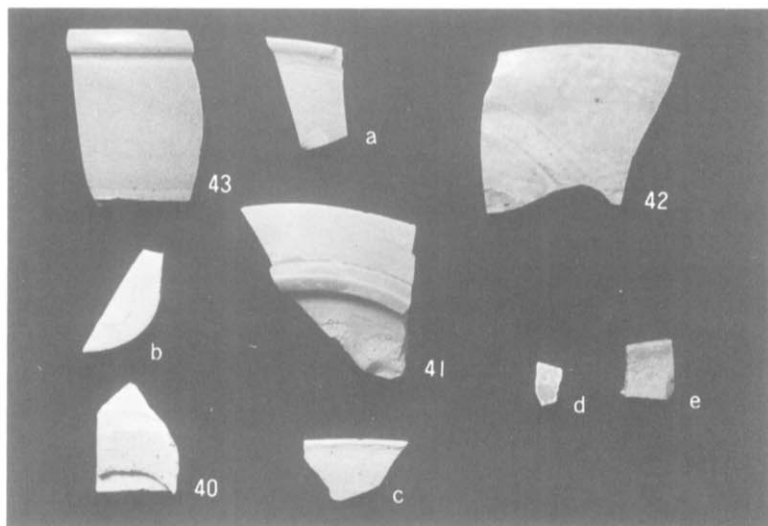
白磁

(a. 椀Ⅰ、b. 椀Ⅱ、16. 皿Ⅵ-1 b)

17. c~h. 椀Ⅳ

褐釉(i. E)





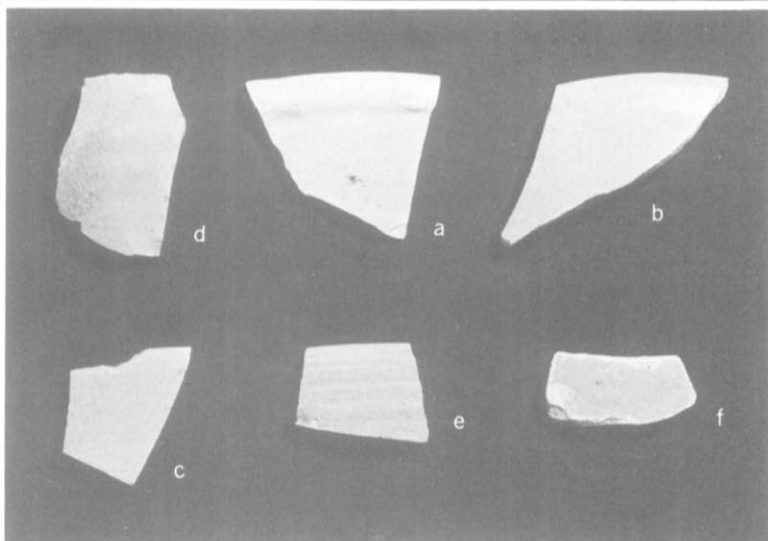
I SK090 出土

白磁 (b. 40. 椀 I)

灰釉 (c)

綠釉 (d. e)

越州窯系青磁 (a. 椀 I-2, 42. 椀 II-2, 41. 椀 I, 43. 水注 I)

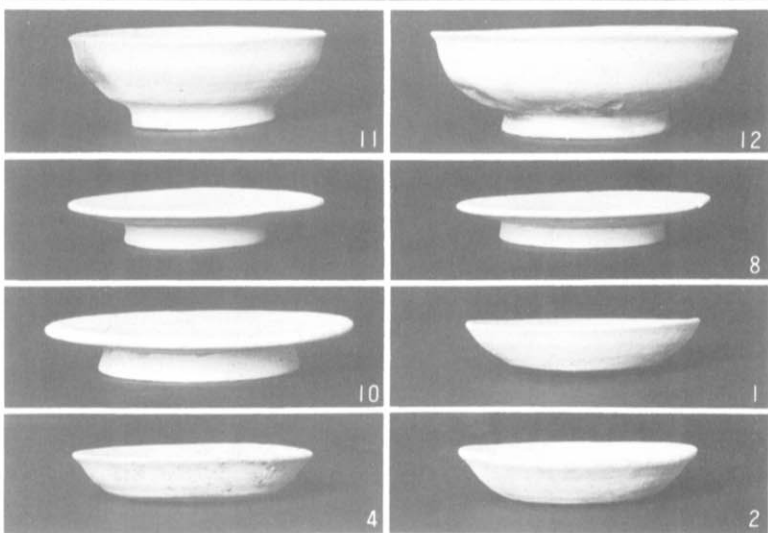


II SK089 出土

白磁 (a. 椀 I-4)

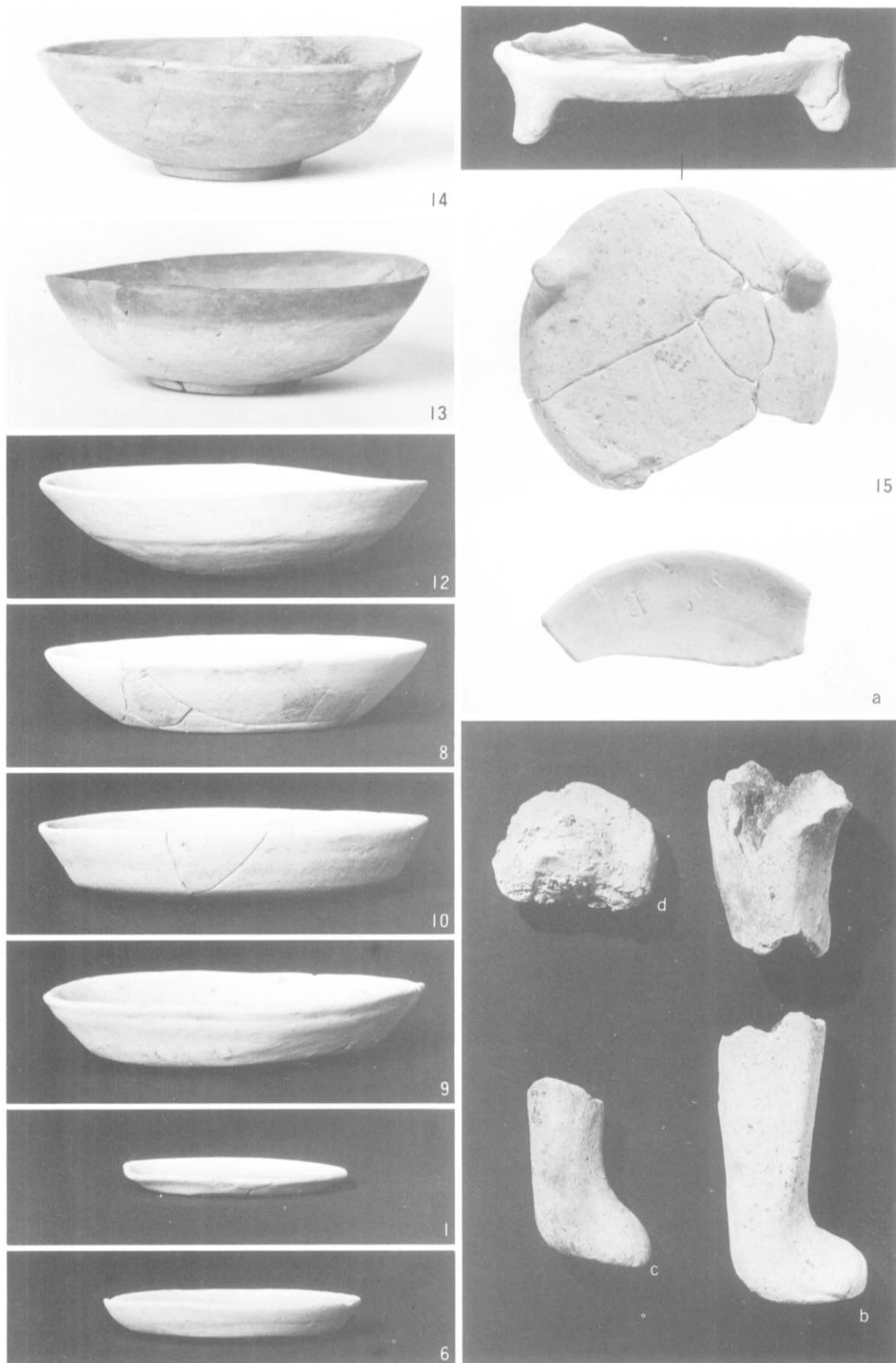
越州窯系青磁 (b. c. 椀 I、d. e. II)

綠釉 (f)



III SK089 出土

土師器



SK095 出土(1~15. a)

a. 丸底坏a(葉圧痕を残す)

b. SK089 出土獸脚形土製品

c. 表土出土

d. SD088 出土円盤形土製品

付編・土器の分類

土器分類の必要性

出土した土器の全部を紹介することは不可能に近いし、また無意味でもある。しかし、一定の基準で分類すると類似しているものの群にまとめられるものがある。これらは背後に技術・文化に対して何らかの関連のあったことを示唆する。また、分類にあてはまらない個性的、独創的な手法、特色を有する小数の土器も認められる。このようなタイプのものは個々の創造性を追求するという点からみれば評価が与えられる。全体と細部にわたる解明の基礎資料としてまず土器分類を必要とする。ここに分類したものは、土師器、磁器、陶器である。

土師器の器種分類

8 C^{*1}から15 Cに至る出現率の多い土師器については便宜的に次のように分類する (Fig 1)、図からもれた多くの土器についても資料の増加によって細分化が今後可能である。ここで使用する分類の呼称は

小椀 c 1

のように器種 (坏、蓋、皿……) の前に大小関係を表示し、器種のヴァリエーションを a、b、c、…と記す。さらに部分的な特徴によって a₁、a₂…などのように数字を付す。平城宮跡出土の土師器は次のように、さらに細かく合理的な分類法を使用している。

坏 A I a

前から順に類別された器種 (坏、皿……) 器形のヴァリエーション (A、B……) Aの中の大小関係 (I、II……) 手法 (a、b……)。手法は製作された土器の器形的特徴に関連してくる場合がある。一つの土器は、人の行為+手法+利用形態+社会的要請+あるいは独創性……など特定の社会的状況の中で制作されたことにより、特定の器形 A と特定の手法 a との相関関係が分類表示されうる。こうした場合にデーターとして把握しやすい。ただし、欠点もある。分類の項目が長くなりすぎて器形と分類はすぐさま視覚的に捉えることが難しい。

本文で用いた器種の説明 (Fig 1)

坏 a は 8 C以降延々と続くごくノーマルな器種である。12 C中頃より以前はへら切り、以後は糸切り底となる。**坏 b** は a に比べ底径の比率が小さく、体部は外へ大きく開く形で糸切り底のもの。分類では出現時は 13 C中頃以降。**坏 c** は坏 a に高台のつくもの。**丸底の坏 a** は坏の底部を丸く突出させ、そのために外面下位に指頭痕を有し、内面にみがき b (後述) を伴う。**丸底の坏 c** は a に高台のつくもの。**小皿 a** は小形で浅い。10 C中頃の坏は小形化して、皿と近似した器形法量を有することから、以後小皿が坏 a から分化したとも推定されるが、今回報告の SK090 では 10 C前半の段階ですでに小皿 a が伴っていることから、小皿 a の系譜は坏と切り離して考えてもよい。底部は坏 a と同様に 12 C中頃より以前はへら切り、以後は糸切り底となる。

* 1 C…… century (世紀) の略号

小皿**b**はaに比べ器高が高く、糸切り底である。現在の分類では出現時期は13C中頃以後。小皿**c**は小皿aに高台を付すもの。小椀**c**は高台のつく口径11cm以下の椀、中椀**c**は高台がつく口径11.0~13.0cm前後の椀で、 c_1 は体部が直線的に外へひらくもの、 c_2 は丸味をもつもの。椀**c**はひと回り大形の椀で高台がつく。小鉢**a**は胴部対称の位置に2個1対の把手を有する小形鉢で、まれに把手が1つのもも存在する。甕**a**は口縁が外反し、外面刷毛目、内面へら削りされる。甕**b**は外面に平行、格子の叩き目を有する。小甕**a**は甕aを小形化したものである。

土師器の型式と編年 (Fig 2)

8C~14Cに至る土師器の中で、坏a、小皿aは各時期を通じて普遍的に出現し、法量の変化、手法などから18型式ほどに細分が可能である。大宰府においては、この分類型式は2つタイプのものがある。(Fig 2) 前川作製の(1)は手法の分類 (Iはへら切り、IIは糸切り、これらを1、2…と細分)を型式名として使用し、横田、森田作製の(2)は遺構番号を型式名としている。Fig 2は(1)(2)の型式名、遺構、相対年代を比較したもので、(1)(2)の相対年代に若干差のあることも認められるが大まかな年代観ではほぼ一致している。(3)は1976年段階における横田・森田の相対年代観で、その後1978年に(2)に若干変えられた。この報告書の相対年代の推定では(2)の方法を採用しているが、将来、編年の標式化が進行するにつれ大宰府I、II、III、IV…式などに統一して用いた方がよいように思われる。

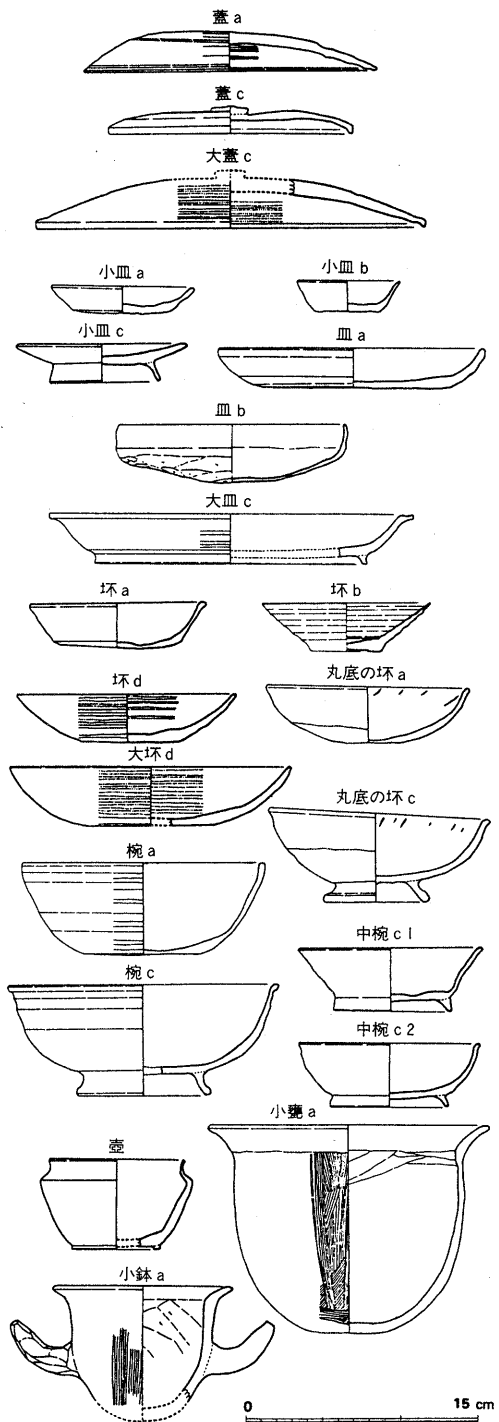


Fig1. 土師器の器種分類 (1/5)

Fig 2 土師器の型式と編年

★君畑遺跡 ●浦城跡 ▲筑前国分寺跡

(1) 前川			(2) 森田・横田1978			(3)				
年代観	型式	遺構	遺構	型式	年代観	年代観				
800	I	6次MF13区下層	SK1084	SE1081	▲SK053 SE1340	-775	9C前半			
				SE400				-800		
			1 A	★2号・4号 SE614		▲SK045		SK1800	-825	
			2 A	★18号		SK678			-850	
			2 B	SK341 ★16・19号 3次MF35区暗灰粘	▲土壇1 SE1558	SD 205A		SK674	SD865	-900
			2 C	SK633・339 ★12号				SE1083		-950
			3 A	(なし)	SE725 31次暗褐土			SK802		-990
			3 B	6 AYE CK				SD1330		-1050
			3 C	●I	SE772 SD860Ⅲ層				SD860	-1100
			3 D	(なし)	SK976 SD860 I・II層			SK1204		-1150
1100		4	SD305	SE225・727			-1200			
1150	II	SD604・SK312 SK211・SE401	SE721	SK1085	SD605	-1200				
1			SK219・SD401・SK520 SK231・SK629・SD103●II-1				-1225			
2			SK606・SE505・SK407 SE610・SE514・SK317	SK835		SK601		-1250		
3			SE609・SD601・603・SX101●II-2 SK501・SK513・309・424		SK 823			-1300		
4			SK333・621・304 SD602	SK 822		SK830	SX1200	-1330		
5 A			SE516・SD502	SK1101・1103 SK641		SX1200新		-1350		
5 B			(なし)	SK624				-1500		
1300				6						
1350						SD1805				

土師器の規格性

単純な器形、とくに坏 a、b、小皿 a、b に法量の画一性が顕著である。編年における標式遺構の細分化は、これらの器種の法量的変遷を基準の一つとしている。各型式法量の比較のポイントは口径、器高にある。Fig 3 は、横田、森田 (1978) の型式設定における坏 a、小皿 a、b の変遷表、Fig 4 は、同じく前川の変遷表。これらの黒点は平均値を示している。両者の法

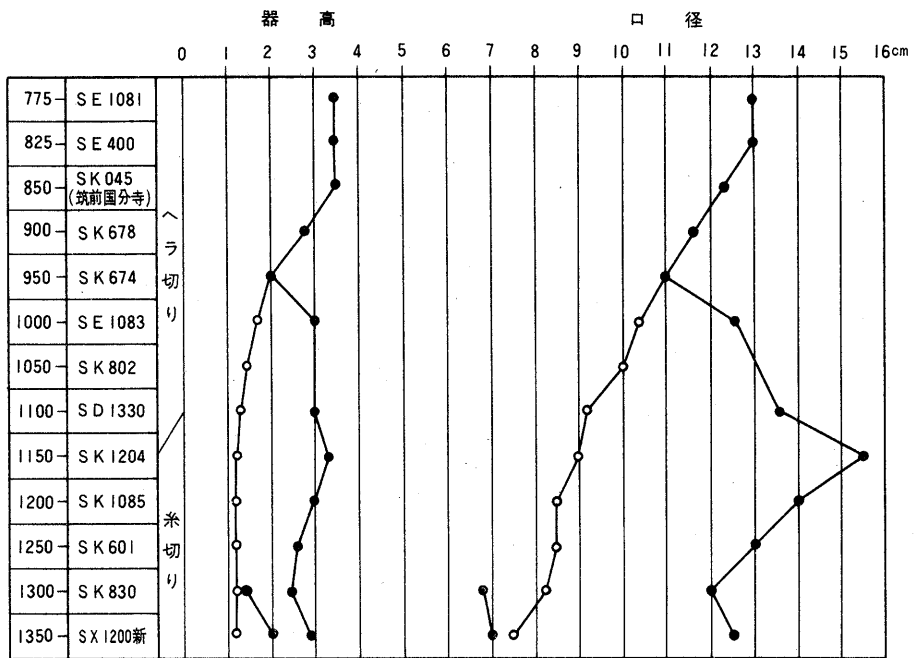


Fig3. 口径、器高から見た杯・小皿の推移
(●杯、○小皿、◎小皿 b)

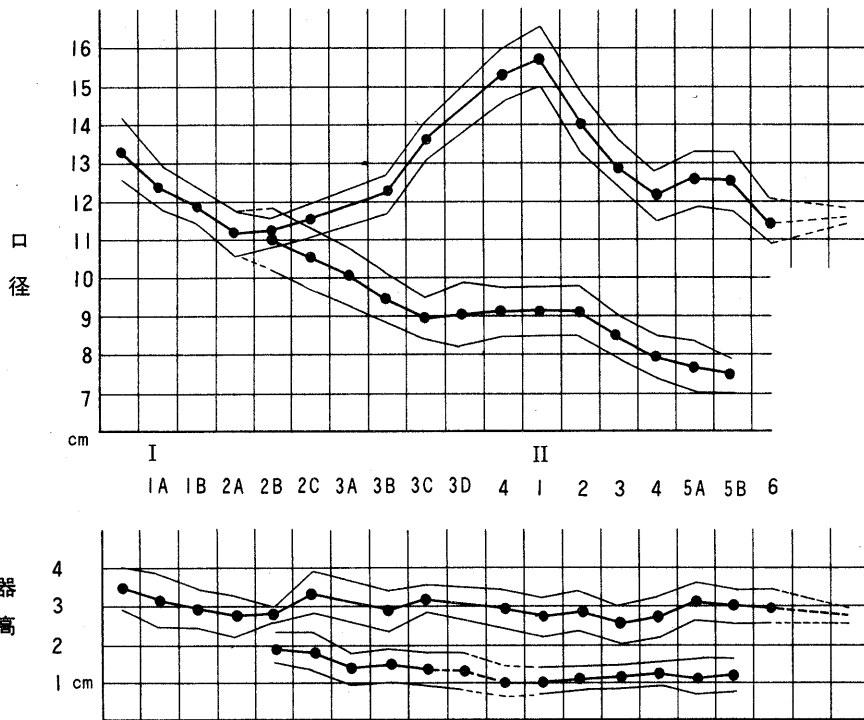


Fig4.

量数値の細部については異を認めるが、折れ線グラフの形が類似しており、大まかな傾向については一致をみる。規格性は、統計の方法によってこれらの集中範囲を計算することが可能でこの場合の条件として、①器種の分類と分離…必ず共通な標本（坏 a の器種だけとか）とする。②個々の土器一点について口径、器高、底径の数値を付す（別表とした）。③同一器種内での数値のばらつきを故意に変更しない（たとえば最小と最大の部分をとり去ったりはしない）。などを考慮しなければならない。

Fig 5 標式遺構の坏 a・小皿 a 統計値

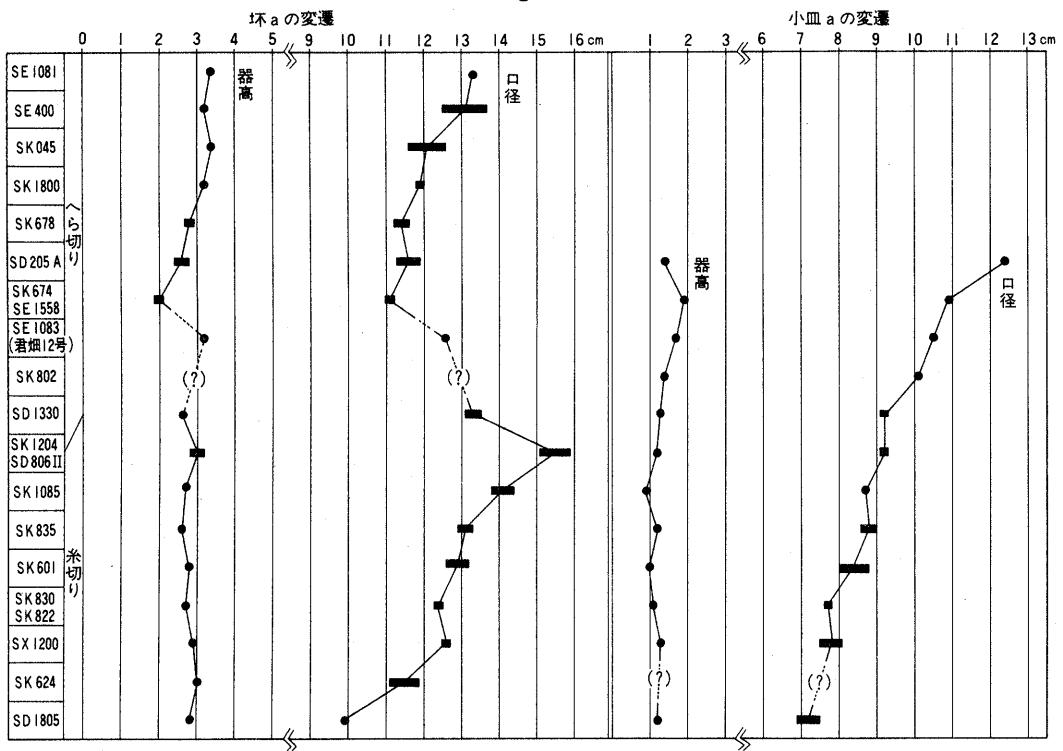
▲筑前国分寺跡 ★君畑遺跡

標式遺構	坏 a			小皿 a		
	口径95%集合範囲 中央平均値	器高平均	個体数	口径95%集合範囲 中央平均値	器高平均	個体数
SE1081	-13.3-	3.4	3			
▲SK053	13.0-13.1-13.2	3.6	19			
SE1340	-13.2-	3.6	3			
SE400	12.5-13.1-13.7	3.2	7			
▲SK045	11.6-12.1-12.6	3.4	19			
SK1800	11.8-11.9-12.0	3.2	109			
SK678	11.2-11.4-11.6	2.8	15			
SD205 A	11.3-11.6-11.9	2.6	13	12.4	1.4	1
SK674	10.7-11.0-11.3	2.1	5	10.9	1.9	1
SE1558	11.0-11.1-11.2	2.0	35	-	-	-
SE1083	★ -12.6-	3.2	2	10.3-10.5-10.7	1.7	18
SK802	-	-	-	9.8-10.1-10.4	1.4	11
SD1330	13.1-13.3-13.5	2.6	6	9.1- 9.2- 9.3	1.3	36
SD860III	-	-	-	8.9- 9.1- 9.3	1.4	14
SD860II	-16.3-	2.6	1	9.0- 9.1- 9.2	1.3	63
SD860 I	-15.6-	2.5	1	9.1- 9.2- 9.3	1.4	23
SK976	-	-	-	8.5- 8.8- 9.1	1.3	11
SK1204	15.1-15.5-15.9	3.0	10	9.0- 9.2- 9.4	1.2	12
SE225	14.3-15.0-15.7	2.7	10	8.9- 9.2- 9.5	1.1	15
SK1085	13.8-14.1-14.4	2.7	12	- 8.7-	0.9	3
SD605IV層	12.7-13.1-13.5	3.0	19	8.1- 8.2- 8.3	1.1	12
SK601	12.6-12.9-13.2	2.8	6	8.0- 8.4- 8.8	1.0	6
SK835	12.9-13.1-13.3	2.6	34	8.6- 8.8- 9.0	1.2	16
SK823	11.9-12.2-12.5	2.8	12	7.5- 7.6- 7.7	1.2	23
SK822	12.3-12.4-12.5	2.9	26	7.6- 7.7- 7.8	1.1	36
SK830	12.3-12.4-12.5	2.7	38	8.0	1.0	1
SX1200	12.5-12.6-12.7	2.9	46	7.5- 7.8- 8.1	1.3	12
SK1101	11.9-12.5-13.1	2.6	6	7.4	1.0	1
SK1103	11.5-12.4-13.3	2.9	6	- 7.3-	1.0	4
SK641	12.1-12.3-12.5	3.2	5	- 8.2-	1.6	4
SK624	11.1-11.5-11.9	3.0	6	-	-	-
SD1805	-10.9-	2.8	2	6.9- 7.2- 7.5	1.2	9

統計的推定の一例

Fig 5は、標式遺構の坏a、小皿aに対する95%の集合範囲を統計によって求めたもので、とくに今回は比較の差が大きく出る口径を対象とした。個々のデータについては、各報告書に記載しているものを参照した。Fig 3の横田・森田の作製のグラフにこの計算値を適用すると、95%の集合範囲区間の変遷表として扱えられる。(Fig 6)さらに平均値がこれらの各型式の集合範囲内にあれば、あらたに比較しようとする土器群、坏a、小皿aはその型式に同定できることを示す。

Fig 6



付表の説明

統計推則を可能とするための個々のデータとして、口径—器高—底径と手法上の要素内底部のな[○]と板状圧痕の有無[×]を記入する。

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1	11	8.2	1.3	5.6		×
	2	9	8.2	1.1	6.4	○	○
	3	8	8.8	1.3	6.3	○	○
	4	10	9.0	1.0	6.6	○	○
小皿 b	1	12	7.4	1.8	5.0	○	○
坏 a	1	13	13.0	3.0	7.7	○	○
	2	15	16.0	2.3	12.4	○	○

単位cm

A 番号、B 挿図番号、C 内底な[○]の有無
D 板状圧痕の有無[×]

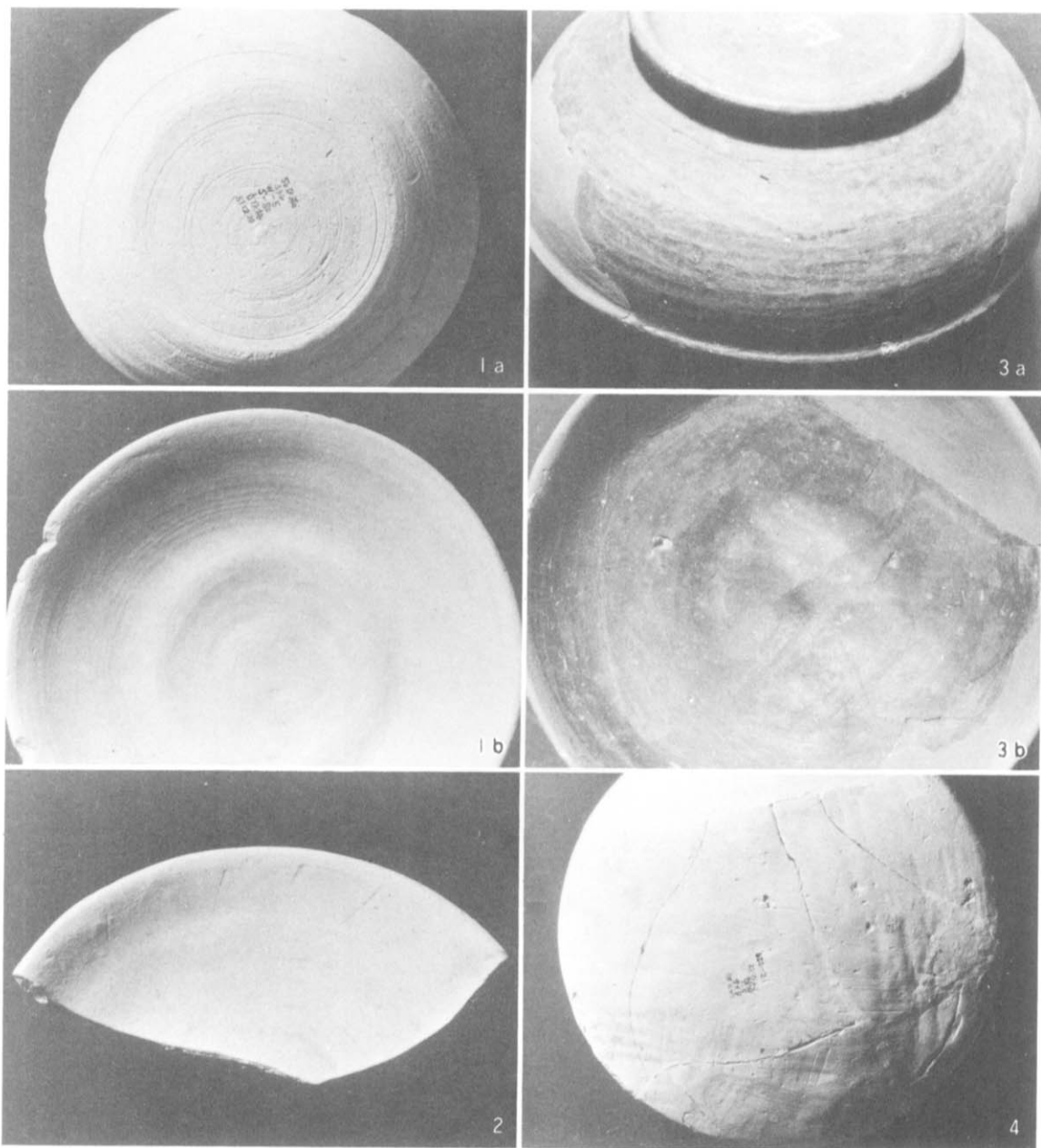


Fig 7.—(1)

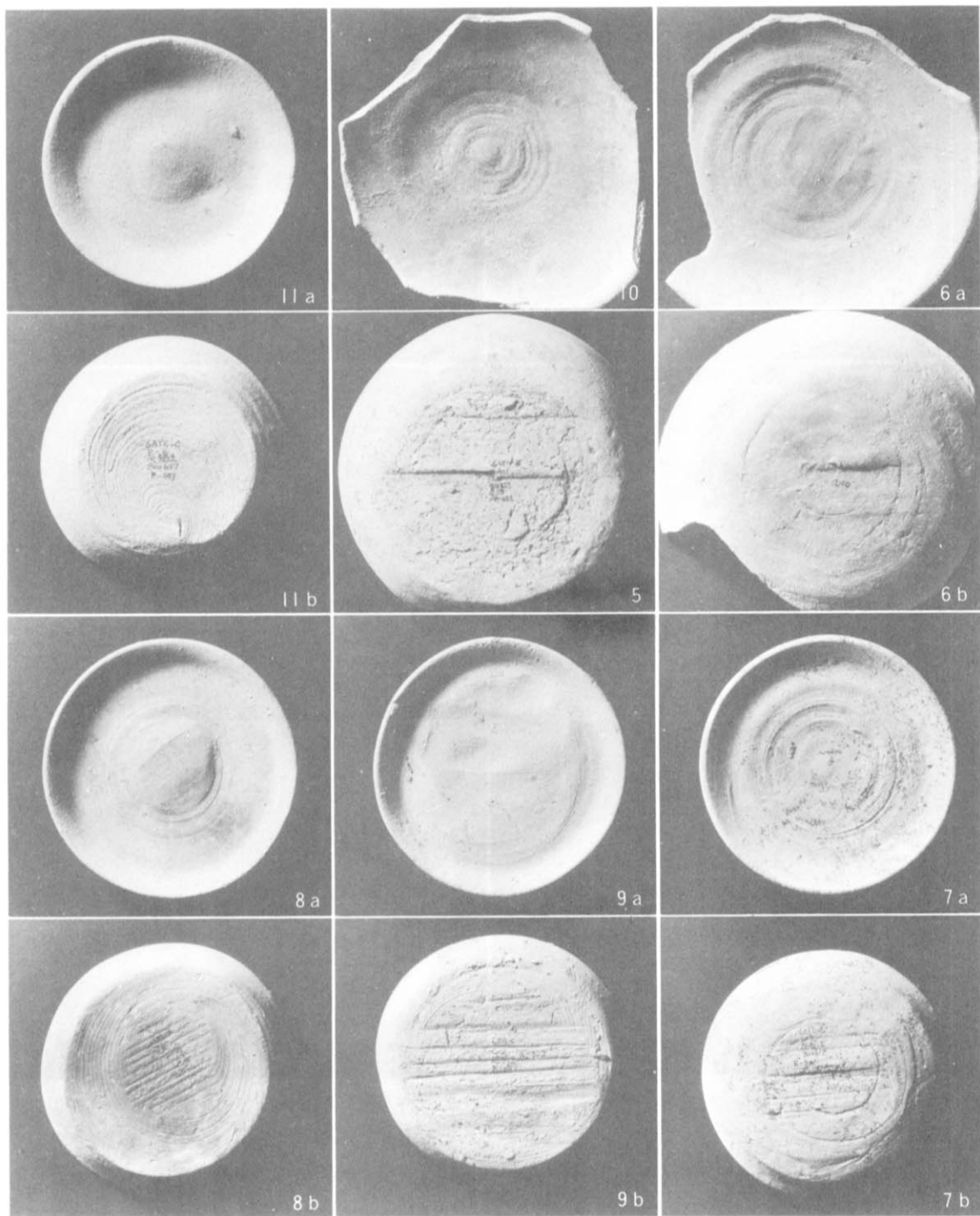


Fig 7.—(2)

土師器の手法と調整 (Fig 7)

みがき (へらみがき) は3種類の方法がある。(Fig 7 参照) みがき a は、ろくろ回転などの回転を利用した水平方向のみがきで (1)、8C の土師器に多く認められる。みがき b は、内面のみにみられ巾広の工具で平滑にする方法で工具の先端部のあたりが右上りの刻線 (おそらく右利きに関連する) として残る (2)。少しずつ回転させ、数度に分けて調整を行なっている。工具はこて状のものと思われ「こてあて痕」の別名称を有する。みがき c は、ジグザグに交叉するもので黒色土器・瓦器など内外面に多くみられる手法である (3)。みがき方は古い時期のものほど規則的、かつ丁寧で全体の1/4~1/6ずつ分けてみがいている。底部の切離しには、回転を利用したへら切り (5、6、7、10) と、糸切り (8、9、11) がある。糸切りは、大宰府においては11C 後半に出現し、12C 以後一般化する。底部の器壁をへら削りによって薄くする場合、手持によるもの (4) や、回転を利用するもの (1) がある。

板状圧痕となでの関係

底部外面の板状圧痕には凹凸の幅の狭いもの (8) から、広いもの (5) まで各様のものがあり、痕跡には板か否か疑しいものもある。板状圧痕の範囲と底部内面のなでの範囲とは一致する傾向が多い (6、7、8、9)。また内面になでを加えない場合には、外面に板状圧痕のない場合が多い (11)。板状圧痕は、土器をロクロ上で切り離した後、なでを加えた段階で下に敷いた板などの圧痕がついたものである。

調整などの図化 (Fig 8)

図化に用いる線の分類を便宜的に次のように分けた。

1. 細線の実線。シャープな段、稜を表わす。横なでとへら削りの境にも使用する。
2. 細線の長い破線。鈍い段、稜を表わす。横なで、へら削り、指頭痕、なでの稜線にも使用。
3. 平行する細線。刷毛目、かき目を表わす。
4. 細線の一点鎖線。陶磁器などの施釉された範囲、釉の欠き取り部分などの境を示す。
5. 細線。重ね焼きの目あと、焼台のあとを表わす。
6. フリーハンドの細線の破線。付着物 (煤など) を表わす。
7. みがき a
8. みがき b
9. みがき c

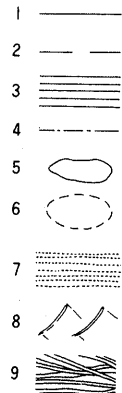


Fig 8. 製作手法の分類

磁器の分類

ここでは横田・森田（1978）作製の磁器分類を使用する。分類は次のような基準により番号化されている。

- 大分類…… I ～ IX……
- 中分類……器形の若干の違い 1、2……
- 小分類……櫛、筥状施文具等による施文（体部内外面や内面見込みなど） a、b……

小破片を特定のタイプのものに分類する際は特徴の1つが個、類、一群、数群のいずれに対応するものかを考慮する必要がある。

白磁

椀 (Fig 9)

共通な特徴と該当器種

- 胎土が灰白色で黒色粒を含む…… III ～ IX。該当器種の範囲が広い。
- 内面に縦方向の隆線（割花）がある…… II - 2 b・3 b、VII
- 内面に横沈線がある…… IV ～ IX
- 内面に櫛目文がある…… V - 4 b・4 c、VI - 1 b
- 外面に縦のへら片切彫文がある…… V - 1 b・2 b・4 c、小椀 V - 2 b
- ゆるやかに外反する口縁…… V - 2、VII まれに VI - 1
- 口縁部は「く」字形に外反し端部は水平にする…… V - 4、VI - 1、VIII - 1・3
- 見込みが一段凹む…… II - 2 a・b、IV - 1 b
- やや低く細い高台…… VI ～ VIII、小椀 V - 2
- 直線的な口縁部…… V - 1、VIII - 2
- 体部は開く…… VI - 1、VII。口縁部で V と区別のつかない場合は体部の傾斜で分類が可能。

器種の追加と補足

V - 1 b・2 c・4 c……体部外面に V - 2 b と同様な片切彫文を施すもの。V - 2 c は輪花を有する。

II - 3……口縁部は内湾し、端部は玉縁状にしない。

IX - 2 b……内面見込みに陰刻された花文のスタンプがある。

小椀 V - 2……体部はすり鉢状に開き、椀 V - 2 と同様な口縁部を有する。内面にらせん状のへら描き文があり、外面が無文のものを a、片切彫の縦線があるものを b とする。胎土、釉調などは椀 V と類似する。

皿 (Fig 10)

共通な特徴と該当器種

- 胎土が灰白色で黒色粒を含む…… II ～ IX

- 黄色味の釉……Ⅱ、Ⅲ、Ⅵ、Ⅶ、灰褐色、灰緑色を呈する場合もある。Ⅵ、Ⅶは釉に光沢があり貫入の多く入るものも多く碗Ⅱと釉調が類似する。
- 削り出しの浅い高台……Ⅳ、Ⅶ。Ⅳの底部器肉は厚く分離が可能。高台状に削り出さないものもある。

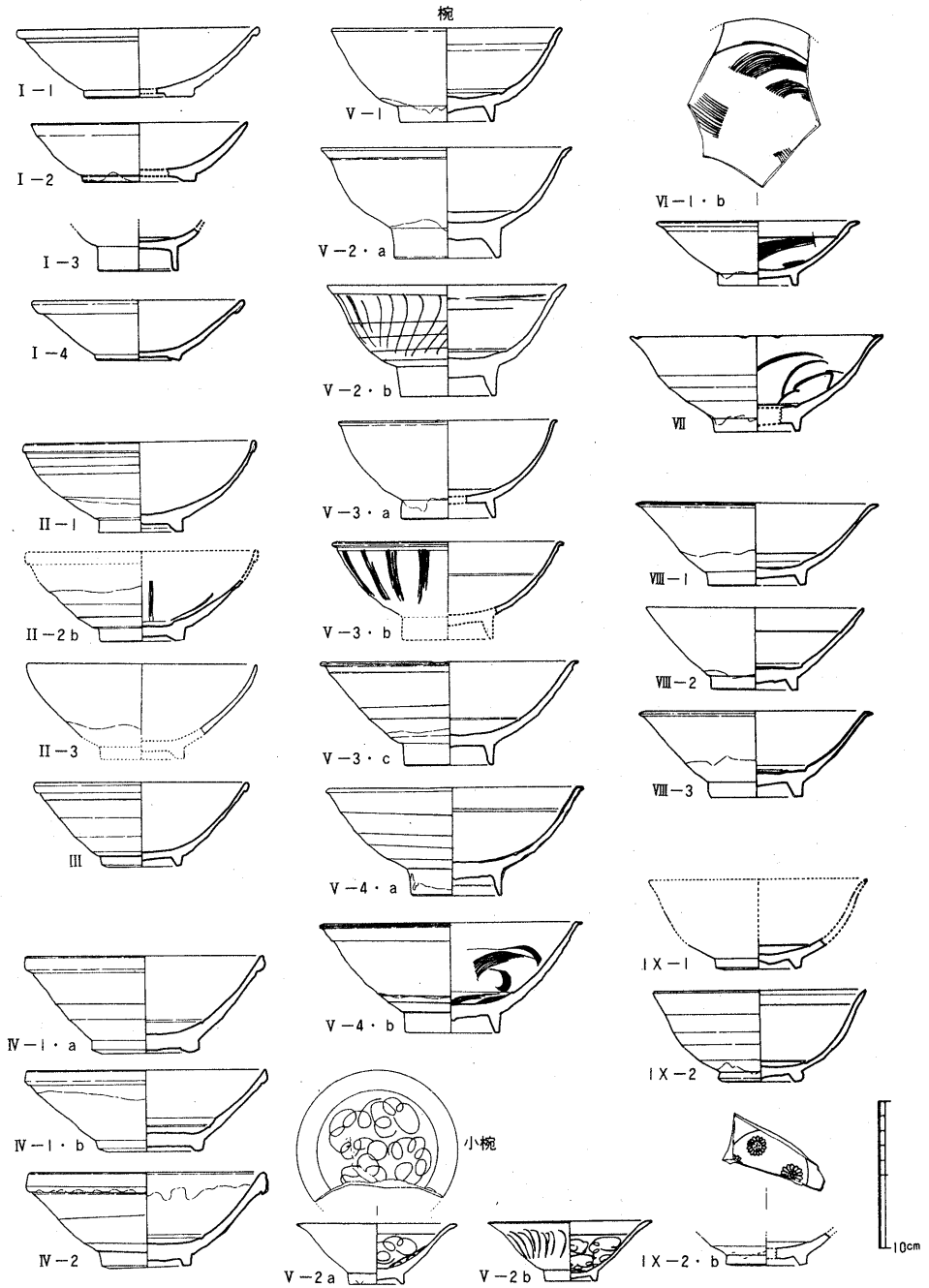


Fig9. 白磁

• やや外反する口縁部……Ⅱ-1 a、Ⅲ。Ⅱ-1 aは直線的なものもあるが、口縁部のみではⅢと区別のつかないものも多い。

器種の追加と補足

Ⅵ-2……器形などの特徴はⅥ-1と同じであるが内面にへら描きされたらせん文を有するものを2とする。2 aは1 aと、2 bは1 bと同一の器形である。

Ⅸ-3……高台を有する口禿の皿、数は少ない。

Ⅰ-1……椀Ⅰと同様な胎土、釉調を呈し、体部中位で屈折する。

Ⅲ-2……内面見込みに欠き取りのないもの。

越州窯系青磁 (Fig 11)

共通な特徴と該当器種

• 全面施釉される……椀Ⅰ、Ⅲ、坏Ⅰ、皿Ⅰ、椀Ⅲは胎土と高台がⅠと異なる。
 • 口縁端部に輪花、体部外面に縦沈線などを入れる……椀Ⅰ-2、Ⅱ-2 b、皿Ⅰ-1・2、鉢Ⅱ。

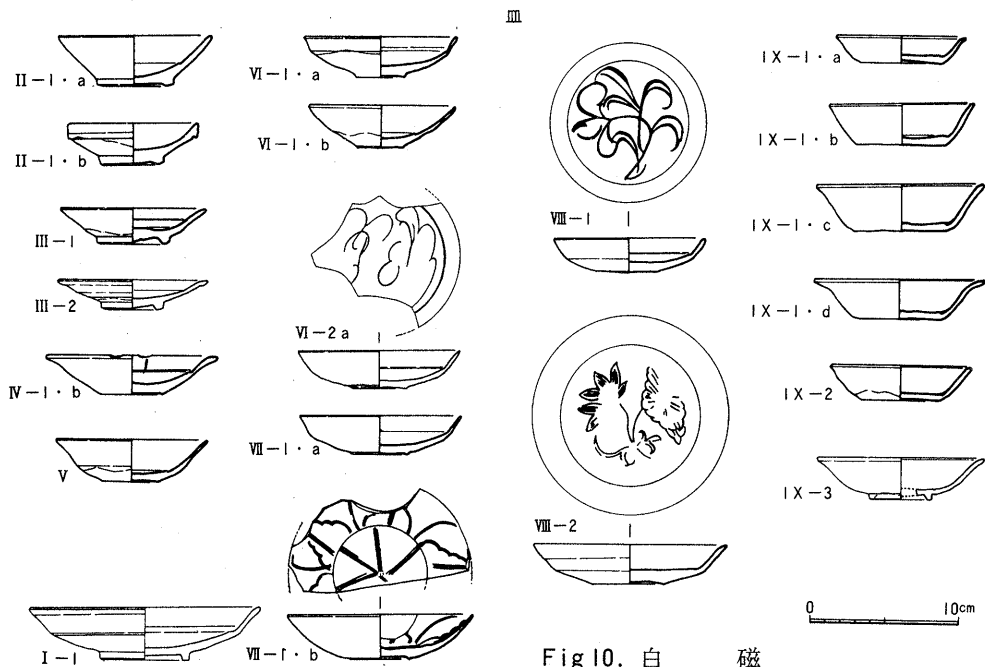
• 蛇の目高台を有する……椀Ⅰ-1 a・b、3、Ⅱ-1

• 口縁部が内湾する……椀Ⅰ-3、4、Ⅱ-2 d、皿Ⅰ-3。

器種の追加と補足

• 椀Ⅰ-3……Ⅱ-2 dと体部の形態は類似するが胎土、施釉の方法はⅠ類に属する。

• 椀Ⅰ-4……濃緑色の釉で他のⅠ類とは釉調を異にする。



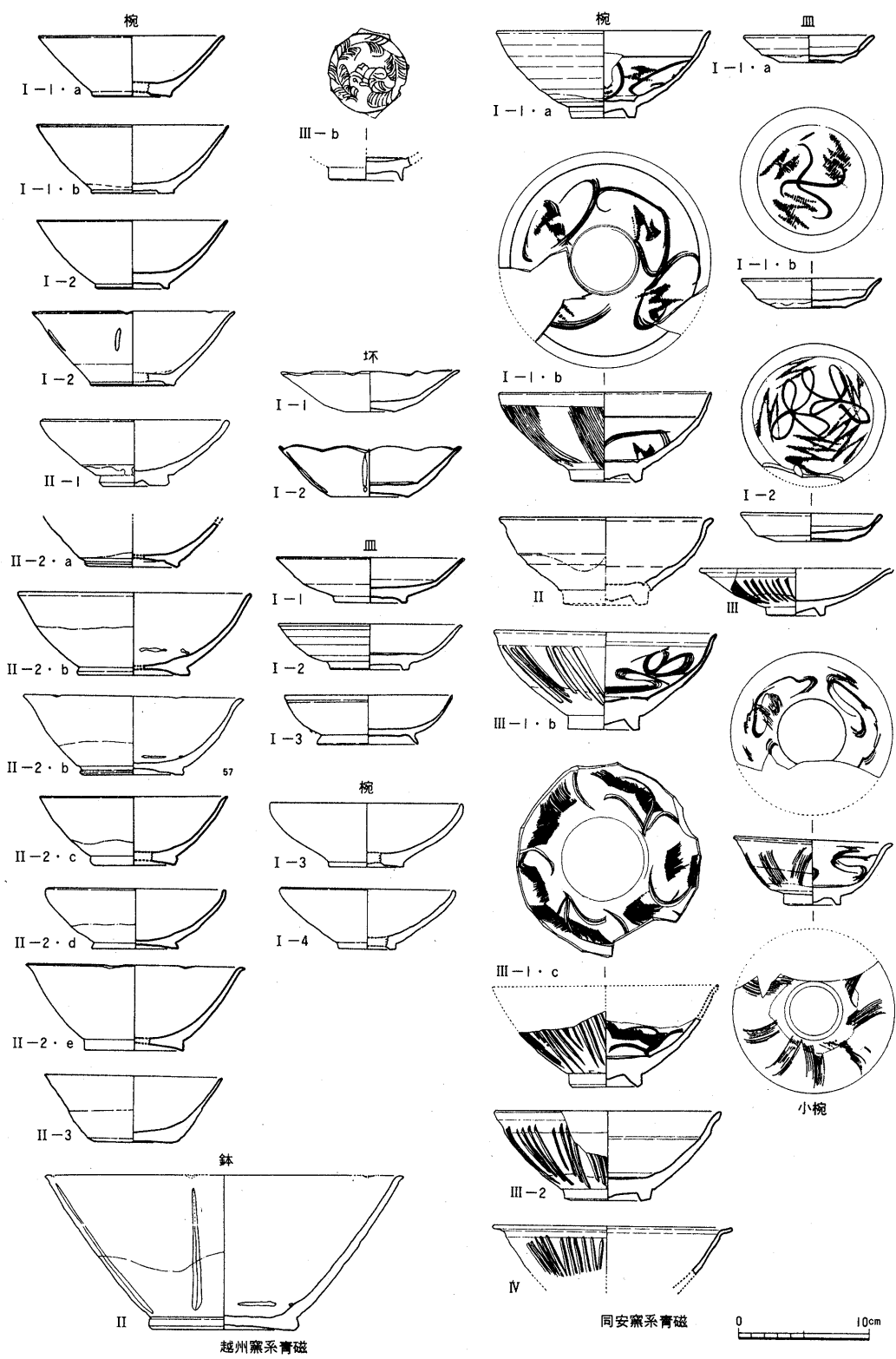


Fig II.

同安窯系青磁 (Fig 11)

器種の補足

碗Ⅱ……Ⅲと同様な器形を有するが無文のもの。

龍泉窯系青磁 (Fig 12、13)

碗

共通な特徴と該当器種

- 胎土は灰色を呈する……Ⅰ-1~7に共通。Ⅲは灰白色ないし白色を呈する。
- 黄色味をおびる緑色のやや不鮮明な釉調をなす……Ⅰ-7、Ⅱ
- 体部外面に蓮弁文を有する……Ⅰ-5 a~d、6、Ⅲ-2
- 底部の器肉が厚く断面が四角形に近い高台を有する……Ⅰ-1~6
- 内面見込みに「金玉满堂」「河賓遺範」「崑山片五」「利」「王」「人月」などの文字の印刻を有する……Ⅰ-1、4、5 d
- 内面見込みにへら、片切彫りの花文、幾何学文を有する……Ⅰ-2~4
- 内面見込みに印刻された花文を有する……Ⅰ-5 c、(坏Ⅲ-1 bにもある)

碗、皿の器種の追加と補足

碗Ⅰ-4 c……口縁部に輪花、体部内面にはへらで分割した区画線の代わりに縦の隆線を有する。小碗Ⅰ-3の大形のもの。

碗Ⅰ-3……Fig 13のものはⅠ-3の文様構成を有する亜種である。

坏Ⅰ-1……無文で碗Ⅰ-1に対応する坏。

坏Ⅰ-4 a……碗Ⅰ-4 aに対応する。

坏……内面見込みに草花の印刻を有する。

坏Ⅲ-3 b……形態はⅢ-3 aと同様であるが体部内面に蓮弁の削り出されたもの。

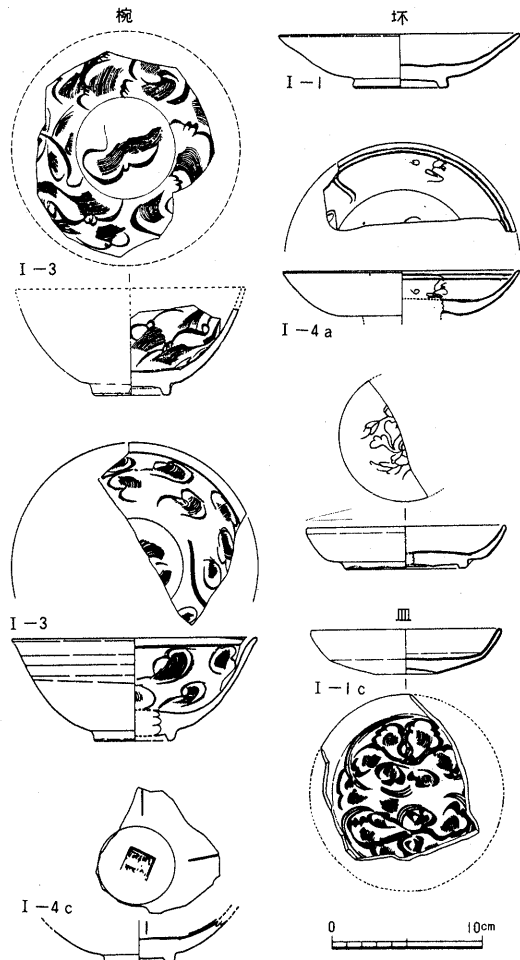


Fig 13.



Fig 12. 龍泉窯系青磁

坏Ⅲ－5 a……無文のもので、外面に蓮弁文のあるものは5 bとした。

皿Ⅰ－1 c……椀Ⅰ－3に類似しへらと楯描きによる花文を有する。底部外面は釉を掻き取る。

陶器の分類

陶器は小形品から大形品におよぶ多種の器形を含み、破片から特定の器形に照合することは困難な場合が多い。同一器種においても釉調が非常に異なる場合がみられる。そこで陶器の分類については〔A〕特定の器種に分類が可能な場合。〔B〕破片の特徴から数群の異なる器種に該当し、特定の器種に限定できない場合……の2つの分類方法を併用する。〔B〕は分類の細分化が進むにつれ将来は〔A〕に分類されうる。

分類〔A〕

器形の大、中、小分類は磁器分類に準じる。途中に欠番もある。細部特徴については①胎土②釉調と施釉の方法③文様④器形⑤手法、焼成⑥その他に分けて記述する。

盤 (Fig 14)

Ⅰ－1 ①淡黄灰色、明灰色、赤褐色などを呈する。黒色粒、白色粒を多く含み、あらくざらざらしている。②黄釉。内面全体と口縁部外面に施釉され、口縁端部や口縁部外面から底部は露胎とする。露胎の部分は赤褐色に発色する場合が多い。③内面に褐釉で施文するものbと、無文のものaがある。④鏢状の口縁部。大きな平底でややあげ底をなすものも多い。⑤口縁部内外面に重ね焼きの目あとがある。⑥胎土、釉調は四耳壺ⅢⅣと類似する。

Ⅱ－1 ①盤Ⅰと同様な胎土。紫灰色、灰白色、淡茶白色、暗灰色などを呈する。②黄釉が主体。釉は緑味灰黄色、黄灰色、黄褐色、灰緑色をなす場合もある。施釉はⅠと同じで外面露胎部分は青紫色、赤褐色などに発色する。外面に黄緑色などの釉がうすくかかることもある。③aは内面無文のもの、bは採来有文のものが予想され空白とした。④Ⅰに比べ器高が高く浅鉢形をなす。口縁部はT字またはL字形をなす。aは底径割合のやや小さいもの、cは大きいもの。⑤口縁部に目あとを有する。⑥胎土、釉調は四耳壺Ⅲ、Ⅳと類似する。

Ⅱ－2 ①Ⅰ－1と同じ。②黄釉が主体。内面のみあるいは外面上部から内面に施釉（口唇には施釉しない）。外面の露胎部分は赤褐色、褐灰色、灰褐色、灰色、褐色などを呈する。③内面に褐釉で文様を描くものをb、無文のものをaとする。④体部は丸味を有する。口縁部は壁厚させ、玉縁状につくるものもある。⑤外面上位から内面に化粧土を有する。口縁部に目あとを有する例が多く、胴部にも目あとを有するものもある。

小盤 (Fig 14)

Ⅱ－1 a 盤Ⅱ－1 aに対応する小形のもの。

Ⅱ－2 b 盤Ⅱ－2 bに対応する小形のもの。aは無文のもの。

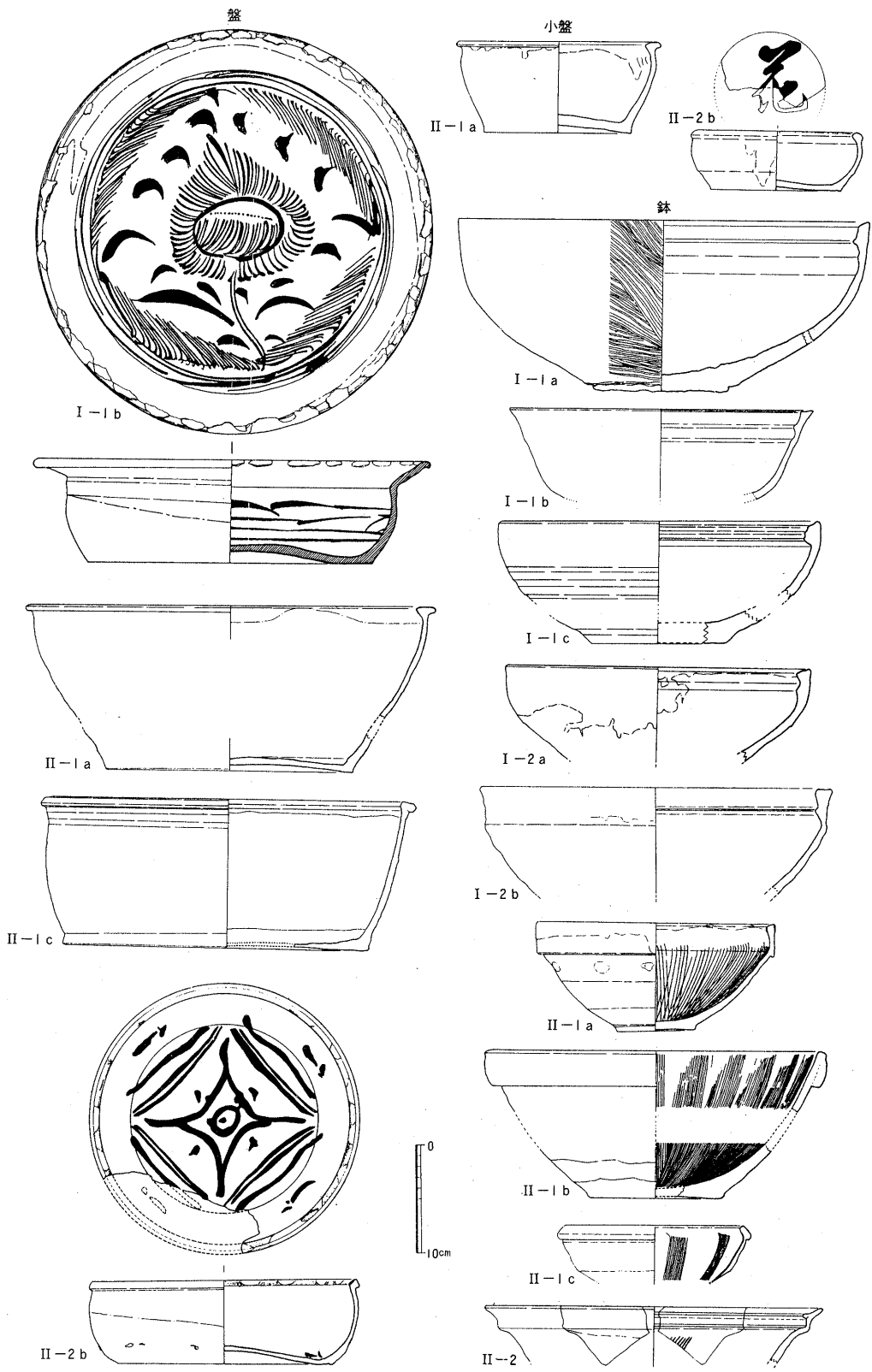


Fig 14.

鉢 (Fig 14, 15)

I ①暗紫灰色をなし、小豆色、灰色、青灰色、黒灰色、赤褐色、褐色、明褐色、灰赤色などを呈する場合もある。大粒の白色砂を多く含む粗い胎土で甕I~IVの胎土と類似するものがある。②無釉のもの1と、うすく釉のかかる2がある。1の表面は淡茶色、暗茶褐色、暗褐色、黄灰色を呈する。2は明緑灰色、淡褐色、灰白色などのうすい釉が口縁部内外や、内面あるいは外面の一部にかかる。④体部は丸味を有し、底部は平底をなす。口縁部内面には一から数条の突起を有する。口縁部の形態から数種に分類される。1 aは一条の突起を有し外面に平行叩き目を有する。1 bは一条の突起で口縁端部が内面にせり出し、二条の突起にみえるもの。1 cは数条の突起につくるもの。2 aは1 aと同様な形態を有する。2 bは口縁部が上方へ屈折する。⑤体部外面下半は凹凸が多い。内面はあばた状の凹みが多く器面は研磨されていることからすり鉢に使用されたと考えられる。

II-1 ①褐色、赤褐色、灰黄色を呈する。②無釉で器面は暗褐色、黒褐色、紫褐色を呈する。口縁の一部に茶褐色の釉を施すものがある。④口縁部は長く肥厚させる。その形状からa~cに分類する。底部は平底をなす。⑤内面に6~13本前後の櫛目を縦に入れ、すり鉢に使用されたと考えられる。1 aの口縁部外面下や端部内面には目あとがある。

II-2 ①黒灰色、黄灰色を呈する。②器面は暗褐色を呈し、暗灰紫色の釉を施すものがある。④口縁部は体部から上方へ屈折させ内面に突帯を有する。⑤内面に縦方向の櫛目を入れる。

III ①茶褐色、灰色が主体。橙色、明灰褐色、淡灰色、淡赤灰色などを呈する場合もある。白色砂を多く含むものや、紫色粒の入るものもある。②黄白色、灰緑色、灰褐色、暗褐色、暗茶褐色などの釉がうすく施される。④体部上位は内湾し「く」の字形に外反する口縁部がつく。胴部はやや深めの鉢形をなし碁笥底ふうの底部がつく。最大径が胴部上位にあるものを1、中位にあるものを2とする。2は口縁部外面下に沈線が一本入る。⑤体部外面下半は回転へら削りを行なう。口縁部内面と体部外面下位に目あとを有する。

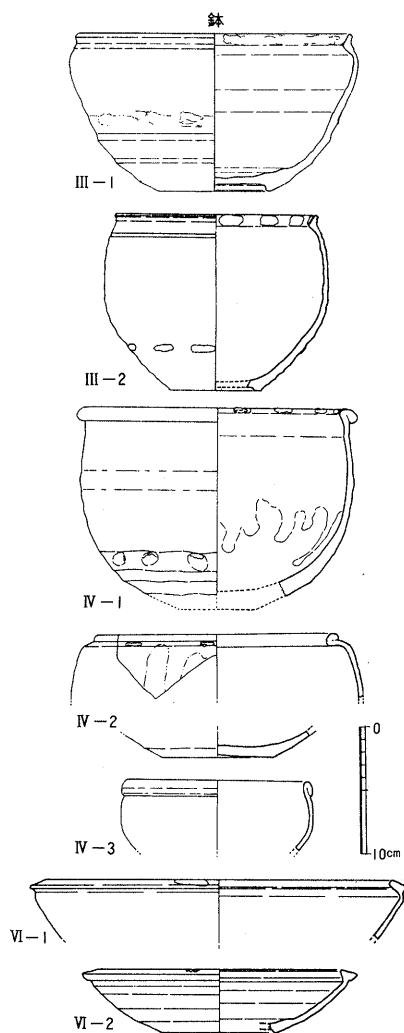


Fig 15.

IV ①暗茶褐色が主体で、赤褐色、紫灰色、橙灰色などを呈する場合もある。IIIとはやや異なる胎土で細かい白色砂を少量含む。②光沢のある暗茶褐色の釉が内面全体から体部外面下位にかけて施される。体部外面下位と底部外面は露胎で暗赤褐色を呈する。釉のなじみが悪く白濁化するものもある。④口縁部は折り曲げて玉縁状に肥厚させ、体部は丸味を有し、底部は平底ないしやや上げ底をなす。1は口縁部内面と体部外面下位に目あとがある。2は口縁部が内側に入り肩が張った形態を有するもので、目あとは肩の外面のみにみられ体部下位にはない。3は小形のものである。⑤体部外面下半はへら削りされる。⑥胎土、釉調は水注V、VIに類似する。

V ③澱青釉のもの。

VI ①明橙色、明褐色を呈し精良である。白色砂や暗紫色粒を含むものがある。②黄色、明橙灰色、茶褐色の釉をうすく施す。④浅い鉢状をなし体部は開く。口縁部は肥厚させ「ハ」の字形に外側へ開く。底部は碁笥底ふうのもの。1は大形、2は小形品である。⑤体部外面下半は回転へら削りを施す。口縁部外面に目あとがある。

水注

I ①明灰褐色。②暗灰褐色。④頸部は下方がやや開き、口縁部は「く」字形に外反する。把手に2条の凹線を有する。⑤口縁部内面に目あとがある。

II ②黄色味をおびる茶褐色釉。釉は胎土となじまず剥落しやすい。④口縁部は水平に屈折

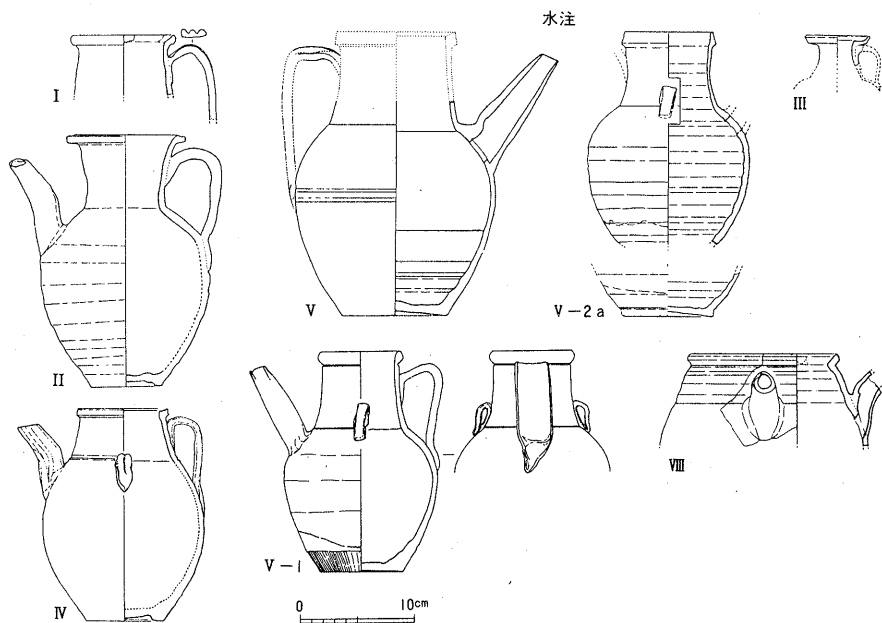


Fig 16.

し、頸部は上方が開く。把手は3本の縦沈線が入る。底部は輪状高台につくる。⑤体部外面の中下位にへら削りを行なう。つくりはやや雑。

III ②暗褐色を呈する。③小形品で口縁部は皿形に開く。

IV ①茶色を呈する。②黄色味の緑黄色釉。底部外面は露胎とする。釉は胎土となじみが悪く剥落しやすい。④頸部は下方が開き胴部との境に小さな段をつくる。口縁部は角形に肥厚させる。注口と把手は対称に位置し、その90°回転させた位置に双耳がつく。高台畳付は蛇目状に幅広く削り出させる。⑤胴部外面下半はへら削りされる。

V ①暗茶褐色が主体。淡黒鼠色、暗灰褐色、暗灰紫色、黒褐色、赤褐色などを呈する場合もある。細かい白色砂を含み緻密である。②光沢のある暗茶褐色釉、明褐色釉が胴部外面下位、底部外面をのぞき施される。露胎部分の器面は胎土と同様に暗茶褐色、赤褐色などを呈する。口縁部の釉を掻き取るものもある。釉は素地となじまず白濁しているものがある。④頸部はやや長く下方はわずかに開く。口縁部は断面三角形に肥厚させるものが多い。1は口縁が玉縁状に近く、底部は平底でやや上げ底をなす。2は口縁が三角形をなし内面は若干凹み、底部は円盤状に削り出され平底または上げ底をなす。注口と把手は対称につき、その位置から90°回転させた位置に縦長の耳を1対有する。耳は片面に1個つくものaと、2個つくものbがある。把手はI、II、IVのように沈線を入れない。⑤胴部外面下半は回転へら削りされる。⑥胎土、釉は鉢IVと類似。

VIII ①灰橙色を呈する。②褐釉。風化して黄白色を呈する。④口縁部は「く」字形に外反し頸部と胴部の境は鈍い段となって明瞭ではない。四耳壺VI、VIIの形態と類似する。

四耳壺、双耳壺 (Fig 17)

II ①暗褐色を呈し精良。②うすい茶褐色釉の上に暗褐色釉を流す。④頸部と胴部の境は鈍く段をつくるが明瞭に区別がつく。口縁部は玉縁状に肥厚させる。肩部に横形の四耳を有する。

III ①淡黄灰色を呈する。黒色粒、白色砂を多く含みざらついている。②外面と頸部内面に黄釉（茶色味ないし緑味を呈する場合もある）をかけ肩部外面に暗茶褐色釉を流す。④最大径は胴部上位にありやや肩が張った形態をとる。頸部は口径が広く胴部から直に上方へ屈折し、玉縁状に肥厚させた口縁がつく。肩部に2条の沈線を入れた横形の四耳を有する。⑥伝福岡県久山町出土の黄釉鉄彩四耳大壺に代表される。胎土、釉調は盤I、IIに類似。

IV ①淡灰色、黄灰色、灰白色を呈しIIIに類似する。②灰褐色、灰黄褐色、暗緑褐色、灰緑色、黄緑色などを呈する。胴部内面、外面下位、底部内外面には施釉しない。肩部外面に暗茶褐色、緑褐色、茶褐色釉を上から流すものや、内面一部に下地釉を施すものがある。③肩部外面に陰刻されたスタンプを有するものがある。④形態はIII類に類似するが、頸部は口径が小さく中央部で外側に脹む。肩部に横形の耳を有するものを1、縦形の耳を有するものを2とした。⑥胎土、釉調はIIIと類似するがIIIよりやや粗製のつくりである。

V ①茶灰色、橙灰色、明灰色、灰褐色などを呈する。赤紫色粒の入るものがある。②黄白色、茶灰色、褐灰色、褐色などに発色し、肩部外面に灰緑色、暗灰褐色、茶灰色などの釉を流す。③肩部外面に横沈線、波状沈線を入れるものがある。④胴部上位に最大径を有し、頸部と胴部の境は明瞭である。頸部は下方が開き外反ないし水平に屈折する口縁部がつく。肩部は横形の四耳を有する。底部は外面中央をえぐり輪状ないし蛇目状の高台にする。⑤胴部外面上位から底部にかけ回転へら削りを施す。口縁内面や胴部外面下位に目あとを有する。

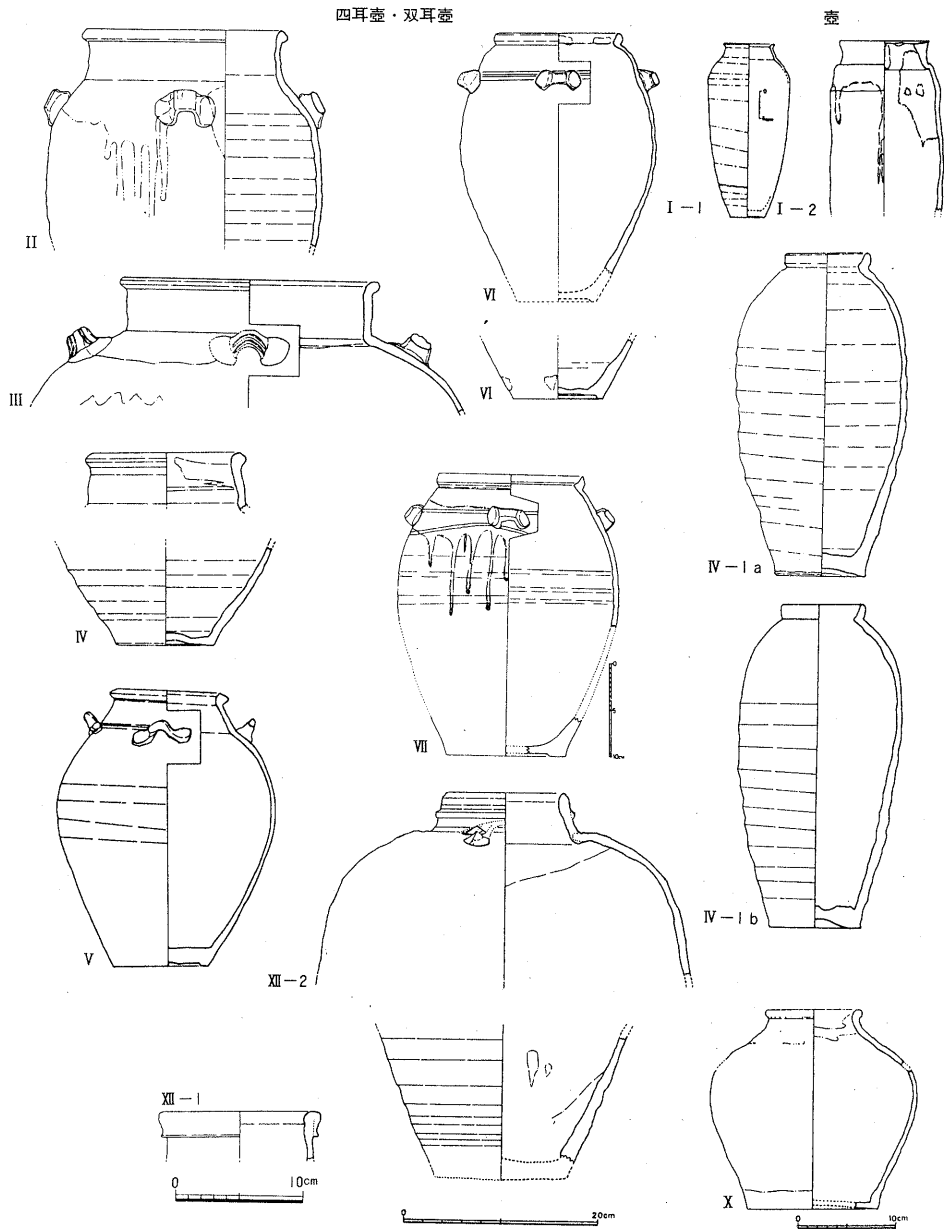


Fig 17. 四耳壺 VII・XII-2・壺 I-1 a・X 以外は×3/5

VI ①灰色、赤灰色、茶灰色、暗褐色、明橙灰色、暗灰色などを呈し、黒色粒や紫色粒を含む。②灰褐色、灰緑色、淡茶灰色、緑味黄灰色、まれに黒褐色を呈する。発色が様々で一定でない。胴部外面上位に黒褐色、茶褐色、暗緑褐色釉を流すものも多い。全面に施釉するものと底部外面のみを露胎とするものがある。③胴部外面上位に横沈線、波状沈線を入れるものもある。④頸部と胴部の境は不明瞭で樽形の形態に近い。口縁部は「く」字形に外反する。胴部上位は横形の四耳を有する。底部の高台は輪状のものと蛇目状にするものがある。器高20cm前後口径10~15cm前後の小形品の類に属する。⑤胴部外面上、中位から底部は回転へら削りされ、口縁内面や胴部外面下位に目あとがある。

VII ①淡赤灰色、灰色、緑味灰色、黄灰色、明灰色、茶色、暗褐色などを呈する。暗紫色粒を含むVIに似た胎土のものもあるが、良質で白色砂の入るものも多い。②光沢のある灰緑色釉のものが多いが、暗褐色、暗茶褐色、暗灰褐色に発色する場合もある。内外面施釉され、胴部外面上位に褐釉、暗茶褐釉を流す。③胴部外面上位に横沈線、波状沈線を有する。④VIと同様な形態であるが、器高30cm前後の大形品でVIより精製されている。⑤胴部外面中位以下は回転へら削りされ、口縁部内面に目あとがある。

VIII ①灰色、暗灰色、淡茶灰色などを呈し、黒色粒や白色砂がやや多くあらい。②明茶褐色暗茶褐色釉が底部内外面、胴部内面をのぞき施釉される。④大形品で胴部上位が張る。頸部は全体からみれば短く小さい。1は直立した頸部に折り曲げて肥厚させた口縁がつくもので、縦長の四耳を有する。2は下方に開がる頸部に長めの胴部がつき、肩部に双耳を有すると考えられる。⑤胴部外面下半はあらい回転へら削りを施し凹凸がつく。底部外面に粗い白砂が多くつく。

壺 (Fig 17)

I ①褐色味の灰色を呈し精良。②黄緑色、淡黄緑色、灰褐色釉。④長胴形。底部は平底である。頸部と胴部の境は段があり明瞭である。1は最大径を胴部上位に有し口縁部は外反させる。2の口縁部は三角形に肥厚させる。

IV ①茶褐色、赤褐色、淡茶灰色、灰色、灰褐色、紫灰色などを呈し、紫色粒を胎土に含む。②光沢のない茶褐色、暗茶褐、黒褐色釉、まれに灰褐色に発色するものもある。内外面にうすく施釉される。④長胴形で胴部上位から中位が脹む。口縁部は「く」字形に短く外反する。底部はへら削りされ、あげ底ふうのもの1 aと内面を挟り高台状につくるもの1 bがある。2は胴部が短く小形のものである。⑤胴部外面中位以下は回転へら削りされ凹凸がある。口縁部内面や底部外面に目あとを有する。

X ①淡赤色、暗灰色を呈し、砂を含むが精良。②茶褐色味の暗緑色釉で外面にうすく施釉され、体部下位は露胎である。④頸部と胴部の境は明瞭でない。玉縁口縁をなし、体部中位に最大径を有する。平底をなす。

甕 (Fig 18)

I ①赤褐色を呈し白色砂を多く含む。②灰黄色釉、白濁して発色の悪いものがある。口縁部、底部をのぞき内外面にうすく施釉される。④口縁部は内側へ屈折し外面に陵線をつくる。

⑤内面に青海波状の叩き目を有する。

II ①赤褐色を呈しIと類似する。紫色粒を含むこともある。②緑褐色、暗緑色釉で口縁部を除き施釉される。④口縁部はT字形をなす。口縁部外面と体部の境は凹線状をなす。⑤内面に青海波状の叩き目を有する。

III ①暗茶褐色、褐色、紫灰色、暗赤色を呈し、白色砂や紫色粒を含む。②白黄色、暗灰緑色釉を内外に施す。④口縁部は2つに分かれY字形をなす。胴部はI IIに比べ強く張る。⑤内面は青海波状の叩き目を有し、その上を横なで調整で消しているものがあり、外面は平行叩き目の上を横なで調整するものもある。

IV ①紫灰色を呈し白色砂が多い。②暗緑褐色、灰緑色釉を口縁部以外に施釉する。黄褐色釉を内面にうすく施すものがある。④胴部は丸味を有し口縁部は内湾する無頸壺形のものである。口縁部は次第に肥厚させ、内外面ないしは外面のみに深い横沈線を入れて胴部との境をつける。1は縦形の四耳を有し、2は横形の四耳を有するものである。

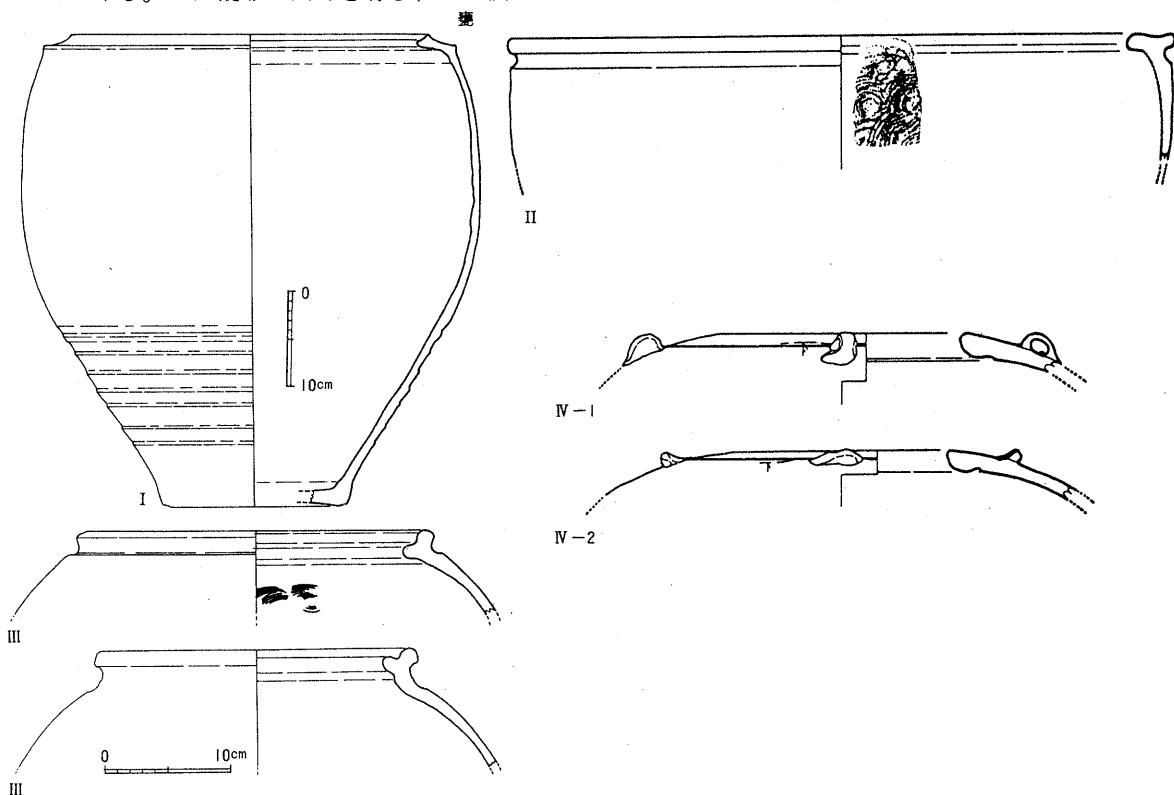


Fig 18.

分類〔B〕(Fig 20)

小破片のため特定の器形に限定できない場合は胎土、釉調などにより次の分類〔B〕を使用する。各類は数種の器形を含む場合があり、さらに未知の器種を含む場合が考えられる。したがって〔B〕表の該当器種についてはその一例を示したにすぎない。

陶器の分類については前川作製のものが参考となる。(Fig 19) これに分類〔A〕を比較すると各分類は次のように特定の器形に限定されるものと数種の器形を含むものに分かれる。※印以外のものは分類〔A〕の一形式にほぼ該当しているが、※印の1、3、10、11類は数形式の器形を含んでいることからさらに分類〔B〕を応用して細分していく必要がある。

Fig 19

前川分類	分類〔A〕	前川分類	分類〔A〕
※1類	四耳壺V・VI・VII・鉢III 水注I・VIII etc	6類	瓦質・大形壺
2	四耳壺II	7	盤I・II
※3	四耳壺VII・壺IV・V・鉢III	8	鉢I-1
4 (後に11類へ含める)	水注V	9	鉢II
5	小皿(褐釉)	※10	甕I・III 鉢I-2
		※11	水注III・V 鉢IV 灯台・壺 etc

土器の分類、型式、編年

- 横田賢次郎・森田勉 「大宰府出土の土師器に関する覚え書き」『九州歴史資料館研究論集2』1976
 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』1978
- 森田勉 「大宰府出土の土師器に関する覚え書き(2)」『九州歴史資料館研究論集3』1977
 「大宰府の出土品③土器、陶磁器」『仏教芸術146』1983
 「毛彫文様のある二、三の青磁について」『古文化談叢6』1979
 「北九州地方から出土する越州窯青磁の様相」『考古学ジャーナル211』1982
 「枢府磁に関する二、三の資料」『月刊文化財206』1980.11
 「九州地方の瓦器碗について一型式分類と編年試案」『考古学雑誌59巻2号』1972
 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』1982
 「鎌倉出土の中国陶磁に関して」『貿易陶磁研究No.1』1981
- 森田勉ほか 『筑前国分寺昭和51年度発掘調査概報』1977
 『 』 』 1978
- 横田賢次郎 「大宰府出土の土師器に関する覚え書き3」『九州歴史資料館研究論集5』1979
- 亀井明德・石丸洋 「九州出土の中国陶磁について」『Museum 291』1975
- 亀井明德 「日本出土の越州窯陶磁器の諸問題」『九州歴史資料館研究論集1』1975
 「両浙路市舶司公憑の陶磁」『九州歴史資料館研究論集2』1976
 「平安期輸入陶磁器の名称と実体」『考古学雑誌61巻1号』1975
 「九州出土の宋、元代陶磁器の分析—大宰府出土品を中心として—」『考古学雑誌58巻4号』1973
 「日本出土の中国貿易陶磁の年代と東南アジア出土品との異同について」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』1982
 「中国古窯跡地名表(1)」『九州歴史資料館研究論集7』1981
 「日本出土の明代青磁碗の変遷」『鏡山先生古稀記念古文化論叢』1980
 「14・15世紀の貿易陶磁」『貿易陶磁研究No.1』1981
- 前川威洋ほか 『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告2、3、6～9』1975～1980

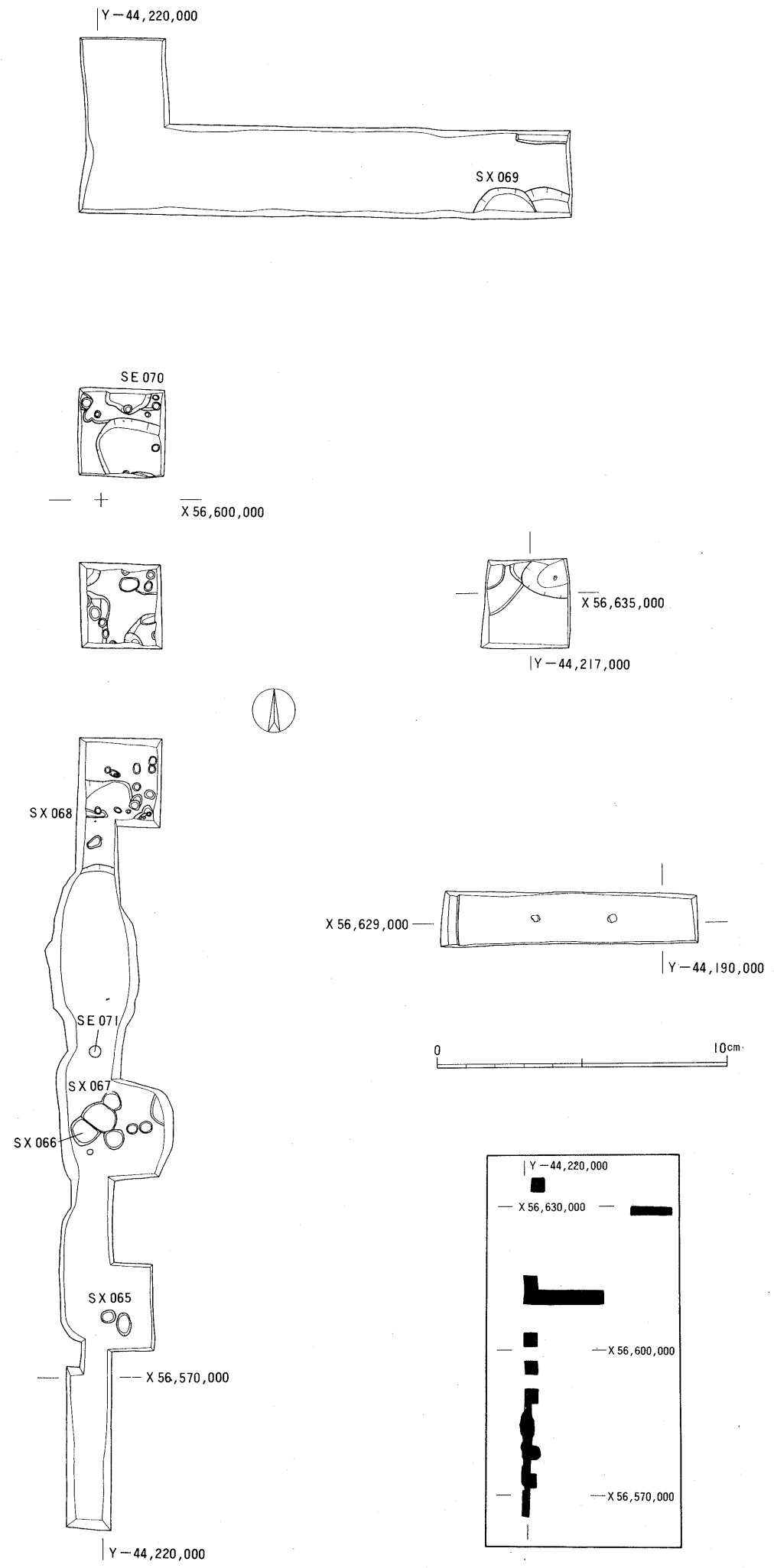
Fig 20 分類〔B〕

分類(釉)	釉調	胎土分類	胎土の色調	該当器種の一例
A	やや発色がよく光沢のある 灰緑色、青緑色釉	a. 白色砂を含むもので緻密 b. 紫色粒や黒色粒を含む c. その他	暗灰色、橙灰色、褐灰色、明灰色、灰色	a. 四耳壺Ⅶ、鉢Ⅲ-2、壺Ⅰ b. 壺Ⅱ・Ⅳ、四耳壺Ⅵ・Ⅶ・Ⅴ、鉢Ⅲ c. 水注Ⅰ・Ⅷ (前川1類)
A'	Aに比べ発色がやや悪く、くすんだ灰緑色、青緑色または褐灰色、濁緑色、オリブ色、灰白色、黄灰色			
B	発色は良く、光沢のある茶褐色、暗茶褐色、釉はやや厚めにかかる	a. 上記 b. 上記 c. 上記	赤褐色、紫灰色、暗灰色	鉢Ⅳ-1・2 水注Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ (前川4・11類)
B'	やや発色が悪く、くすんだ茶褐色、暗茶褐色を呈する			
C	淡茶褐色、明茶褐色でうすくかかる、あまり光沢はない	a. 上記 b. 上記 c. 上記	灰色、暗灰色	壺Ⅲ・Ⅳ 鉢Ⅲ・Ⅶ (前川2・11類の一部)
C'	大形品		灰色	四耳壺Ⅹ
D	光沢のない黒灰色、暗灰褐色、黒褐色釉、うすくかかる	a. 上記 b. 上記 c. 上記	灰色、茶灰色、橙色、赤褐色、茶褐色、灰褐色	壺Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 鉢Ⅲ-1・2(前川3類) 四耳壺Ⅵ・Ⅶ
E	黄釉が主体だが灰緑色、灰黄色、黄白色、褐色、暗黄色をなすものも多い	白色砂や黒色粒を多量に含む、胎土はざらざらしたものの	灰色、淡灰色、黄灰色	盤Ⅰ・Ⅱ 四耳壺Ⅲ・Ⅳ (前川7類)
F	暗緑色釉を主体とした大形甕	大粒の白色砂を多く含む	褐色、紫灰色、暗赤色 赤褐色	甕Ⅰ~Ⅳ (前川10類の一部)

栗原和彦ほか
福岡県教育委員会

九州歴史資料館
山本信夫

「浦城跡」『福岡県文化財調査報告書45』1970
『大宰府史跡昭和43年度調査概報』1969
『 』 45年度発掘調査の概要』1971
『大宰府史跡発掘調査概報、昭和47~57年度および第30、31、32次』1973~1983
「大宰府条坊跡」『太宰府町の文化財5』1982



付 図 第14トレンチ

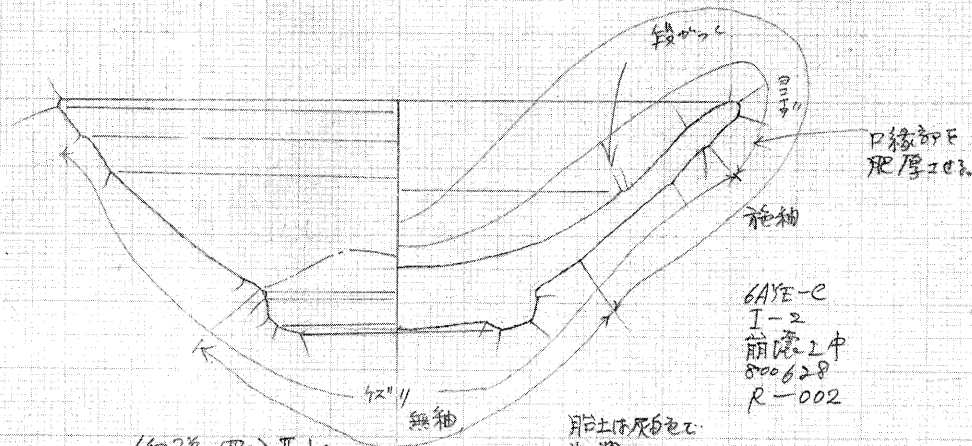
大宰府条坊跡 II

大宰府市の文化財第7集

1983.3.31

発行 大宰府市教育委員会
福岡県大宰府市大字観世音寺86

印刷 青柳工業株式会社
福岡市中央区渡辺通2丁目9の31



〈何種魚〉II-1a
定形

P径 10.0cm
高 3.5cm
前径 4.0cm

肝土体灰白色
肌粗
和付有目上分り
灰色に帯り白色に
呈す。